

武庫川女子大学短期大学部調査（2007）の結果報告 －実態把握と改善に向けて－

Report of Surveys (2007) on Mukogawa Women's University
Junior College Division :

Fact-Finding Surveys toward the Improvement of the Junior College

安 東 由 則*

ANDO, Yoshinori

目次
はじめに
I. 短期大学の動向
II. 武庫川女子大学短期大学部の特徴と現状
III. 武庫川女子大学短期大学部調査の結果分析
IV. 企業アンケートと高校生アンケートの結果
V. まとめに代えて
資料

*武庫川女子大学教育研究所・研究員、文学部教育学科・教授

はじめに

1950（昭和25）年に暫定的な高等教育機関として設けられた短期大学は、1955（昭和30）年に恒久化され、戦後の短期大学発足当手を別とすれば、主として女子生徒の進学先として、高度成長期の大学進学率の上昇とともに、急速に発展を遂げてきた。しかしながら、1996（平成8）年をピークとして短期大学の数は年々減少しており、また各校の入学定員も削減されるなど、日本における短期大学は、大きな岐路にある。

約20年前の第二次ベビーブーマーのピーク（1990-1992年頃）を過ぎて以降、18歳人口の急速な減少は、短期大学関係者に大きな危機感をもたらした。しかしながら、18歳人口の減少に反比例して大学進学率は大きく上昇したので、大学・短大在学者で比較すると1992年当時（281.7万）よりも今日（2011年-304.3万）の方が多いためであり、18歳人口の減少だけが大きな危機要因ではない。受験生の4年制大学志向、大学設置の量的緩和と政策による4年制大学の増設や新学部の設置、産業界の高度専門知識・技術をもった学生を求める動きなど諸要因が連動して、短期大学離れがもたらされたと考えられる。そうした中で、短期大学はそれぞれの状況に応じて、様々なサバイバル・ストラテジーを探り、取り組んでいる¹⁾。武庫川女子大学短期大学部もまた、その例外ではない。

教育研究所は武庫川学院からの要請を受け、2007年に本学短期大学部活性化のための調査を行った。調査は大きく三つからなっている。一つは、本学短期大学部の学生を対象としたアンケート調査で、入学動機や現在の満足度、学生生活を振り返っての感想、今後期待することなどを総合的に尋ねたものである。二つ目は近畿圏内の現役高校生を対象とした進学意識および本学の印象などについての調査、三つ目は本学短期大学生が近年就職している企業・機関に対し、就職した学生の評価や今後の学生に期待される能力、短期大学学生の採用動向などについて尋ねた調査である。本学短期大学生調査については、教育研究所がアンケートの作成から分析までを行った。後二者のアンケートについては、教育研究所と調査実施業者（進研アド）とでアンケートの質問内容を検討・作成し、調査の実施と分析は業者が実施した。

このレポートは、教育研究所が行った本学短期大学生調査を中心に分析し報告するものであるが、高校生および企業・機関へのアンケート結果も一部取り込んだものとした。なお、学生調査結果については2007-8年度に本学学内ですでに報告したのであるが、さらなる分析を加えてまとめ直したものが本報告書である。

以下ではまず、全国および近畿地方における短期大学の動向を確認し、さらに武庫川女子大学短期大学部の特徴、近年における入試倍率や募集定員の推移を簡潔に確認したのち、諸アンケート調査結果を分析していくこととする。

I. 短期大学の動向

1. 全国の動向

日本における短期大学は、過去20年で大きく減少した。下の表1は、新教育制度における短大と4年制大学数、女子進学率、および18歳人口の推移を2年ごとに示したものである。先にも述べたとおり、短期大学は高度成長期に女子の進学先として急速にその数を増し、1953（昭和28）年には数の上で4年制を超して、1996（平成8）年の598校でピークを迎えた。1980年代末より増加していった4年制大学に対し、短期大学は急速に減少していき、1998（平成10）年には数の上で4年制大学数を下回り、このアンケート調査が行われた2007（平成19）年時点では434校、2011（平成23）年には387校となり、ピーク時の64.7%にまで減少した。過去最多であった1996年との比較では、全体で211校（私立のみでは139校）が減少したことになる。1996年に33校あった国立短期大学は、2010年にはすべて姿を消した。その一方で、4年制大学は同じ15年の間に210校（私立のみでは174校）の増加がみられた。

この間、短期大学を含む大学進学率は増え続け、女性だけに限ると、1996年には48.3%であったものが、2010年には56.0%へと約8%の増加をみた。少子化の中での進学率の増加なので、大学進学者数自体はそれほど増えてはいない。その内訳を経年で見ると、女子

表1. 短期大学・大学数と女子進学率、18歳人口の推移（2年ごと）

年	大学数 (校)	短大数 (校)	女子4大 進学率(%)	女子短大 進学率(%)	18歳人口 (千人)	年	大学数 (校)	短大数 (校)	女子4大 進学率(%)	女子短大 進学率(%)	18歳人口 (千人)
1954	227	251	2.4	2.2	1,713	1982	455	526	12.2	20.5	1,635
1956	228	268	2.3	2.6	1,746	1984	460	536	12.7	20.1	1,667
1958	234	269	2.4	2.8	1,663	1986	465	548	12.5	21.0	1,850
1960	245	280	2.5	3.0	1,997	1988	490	571	14.4	21.8	1,882
1962	260	305	3.3	4.1	1,974	1990	507	593	15.2	22.2	2,005
1964	291	339	5.1	6.5	1,401	1992	523	591	17.3	23.5	2,049
1966	346	413	4.5	7.3	2,491	1994	552	593	21.0	24.9	1,860
1968	377	468	5.2	9.2	2,539	1996	576	598	24.6	23.7	1,732
1970	382	479	6.5	11.2	1,947	1998	604	588	27.5	21.9	1,622
1972	398	491	9.3	14.4	1,737	2000	649	572	31.5	17.2	1,510
1974	410	505	16.6	18.2	1,621	2002	686	541	33.8	14.7	1,502
1976	423	511	13.0	20.6	1,542	2004	709	508	35.2	13.5	1,410
1978	433	519	12.5	21.0	1,580	2006	744	468	38.5	12.4	1,325
1980	446	517	12.3	21.0	1,579	2008	765	417	42.6	11.5	1,236
						2010	778	395	45.2	10.8	1,213

※1. 文部科学省『学校基本調査年次統計』より作成。

※2. □は4年制と短大が逆転した年、網掛けは第一次、二次ベビーブーム。

※3. データは「e-Stat」より引用。18歳人口は本学教育研究所『女子大学の存立意義に関する調査研究報告書』、2008、2010年については、3年前の文部科学省『学校基本調査』より中学校卒業生数をとった。なお千人未満は切り下げた数字である。

の大学進学者のうち4年制大学への進学比率は、1996年の24.6%が2010年には45.2%へと大幅に増加し、逆に短期大学への進学者比率は23.7%から10.8%へと大きく率を減らした。1996年は、短期大学の草創期である昭和20年代を除けば、女子の4年制大学進学者の比率が、短期大学進学者比率を初めて上回った年でもある。

次に、日本私立学校振興・共済事業団の私学経営相談センター（2011）の調査結果に基づいて作成した図1から、短期大学の入学定員や定員充足率の推移を概観する。私立短期大学に限ると、1996年に180,635人であった定員数が、2011年には72,394人となり、15年で約40%にまで減った。短期大学数の減少割合より大幅に定員が減少したのは、短大自らが定員を削減したことによる。単純に先の入学定員を、同年の私立短期大学数（集計のみ）で割ってみると、1996年が367.9名であるのに対し、2011年では214.2名であった。定員充足率は1996年に114.5%で、定員充足率が100%未満の短期大学比率は17.5%であったが、この10数年で定員充足は急速に悪化し、2011年度入試における私立短期大学全体（338校からの回答）での入学定員充足率は89.6%、定員充足率が100%未満の短期大学の割合は66.6%と全体の3分の2に及んだ。地域、学科、学生規模による違いも小さくない²⁾。

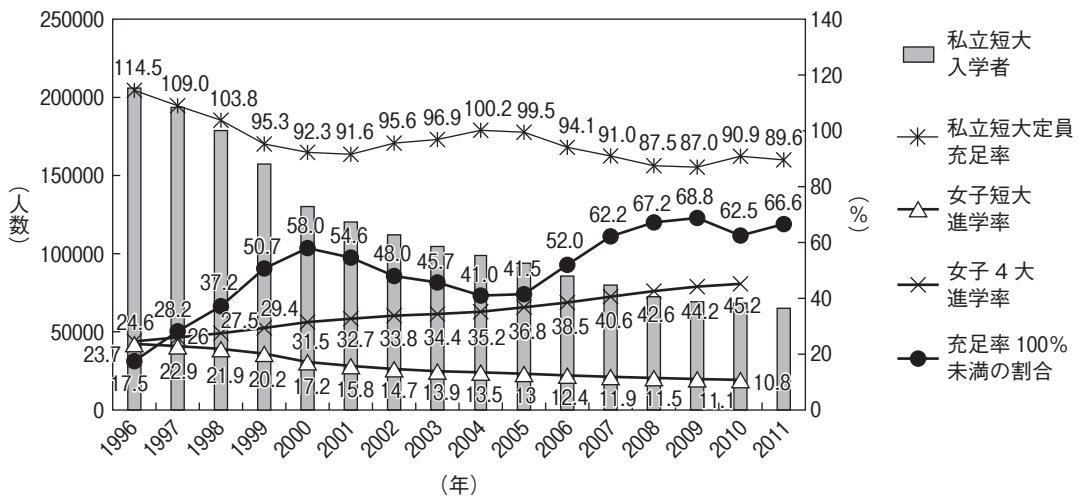


図1. 短大定員充足率、女子進学率と充足率100未満の短大割合

*東日本大震災のため、2011年度の進学率は出ていない。

こうした現状に対し、短期大学がとった方策は大きく四つに分かれる。一つは4年制大学になることである。1990年代以降、大学設置基準が大綱化され、4年制大学設立の基準が緩和されたので、18歳人口の減少や女子学生の4年制志向を踏まえて、転換した大学である。二つ目は、廃校の道を選んだ、あるいは選ばざるを得なかった短期大学であり、三つ目は4年制大学付属の短期大学、あるいは同じ法人系列に4年制大学をもつ短期大学

で、4年制大学と統合するなどして廃止されたもの、そして四つ目は短期大学としての生き残りを選んだ大学である。

2. 近畿地方における短期大学の動向

実際、短期大学が過去20年でどのように変化したのかを、近畿地方、中でも兵庫県と大阪府の短期大学を中心に検討していく。表2は、1991年、1996年、2000年、2005年、2010年の5時点における近畿地方（三重県を除く）の短期大学数を示している。近畿全体では、ピーク時の1996年に96校であったものが、2010年現在では75校に減少し、1996年比で78.1%となった。全国での割合（64.7%）に比べると、近畿における減少度合いは全体として小さいと言えよう。とはいえ、学校数の少ない和歌山県をのぞくと、兵庫県と大阪府の比率（実質の比率）はそれぞれ68.0%、73.2%であり、大都市部であっても4分の1強の短期大学が消えたこととなり、決して低い数字ではない。ここでは、兵庫県と大阪府の短期大学がこの15年、20年の間でどのような変化を遂げたのかを、具体的に検討していく。

表2. 近畿地方における1991年以降の短期大学数の推移

	兵庫	大阪	京都	滋賀	奈良	和歌山	近畿合計
1991(H3)年	25	41	17	4	6	2	95
1996(H8)年(a)	25	41	18	4	6	2	96
2000(H12)年	21	41	15	4	7	2	90
2005(H17)年	22	42	16	4	4	1	89
2010(H22)年(b)	19(17)*	32(30)*	14**	4	5	1	75(71)
b/a (%)	76.0	78.0	77.8	100.0	83.3	50	78.1
b()内/a (%)	68.0	73.2					74.0

* ()内の数字は、募集停止をしている短期大学を除いたものである。

** 京都女子大学附属短期大学部は含まれている。

(1) 兵庫県の短期大学

まず、兵庫県の短期大学とその定員、共学の有無などを1991年・1996年と2010年の時点で比較したものが表3である。1991年を入れたのは、1996年の入学定員には18歳人口の増加に伴う臨時定員増が組み入れられているので、それ以前の定員数を示すためである³⁾。なお、1991年と1996年における兵庫県の短期大学は同じであった（後で述べる大阪府も同様）。兵庫県では、1991年および1996年の25校から2010年には19校へと減少した。なお19校には、近年募集を停止した短期大学を含んでいるので、これを除くと17校となる。

1996年を基準に、15年間での変化をみると、6つの短期大学が閉鎖されており、現在募集停止の短期大学を入れると8校に上る。この8校のうち、6校までが併設の4年制大学に統合された。4年制と短期大学の併設が長年つづいていたケース（甲南女子や神戸学院

など)もあれば、短期大学の閉鎖を前提にして、設立された4年制大学(神戸海星女子学院、近畿福祉など)もある。2011年閉学の神戸ファッション造形大学短期大学(4年制は2013年に閉学予定)を含めると、賢明女学院短期大学とともに2短期大学が閉校した。

その他の変化としては、共学化している短期大学が少なくない。現在ある17の短期大学中、1996年に共学であったものは4校にすぎないが、2010年時点では10校に増えた。学生に占める女子比率は高いものの、女子だけの短期大学の方が7校と少なくなっており、従来もたれていた「短大=女子大」というイメージは現状に合わなくなっている。

募集定員については、臨時定員増をする前の1991年の数字も掲載した。現在の定員をみると、臨時定員増を恒久化するどころか、1991年と比べても、定員を減らしている短期大学がほとんどである。1991、1996年との比較で唯一定員を増やしているのは頌栄短大のみ

表3. 兵庫県における短期大学の変化(3時点での比較)

短期大学名(1996)	1991年			1996年			2010年			併設・系列 大学有無
	定員	定員	共有無	短期大学名	定員	共有無	短期大学名	定員	共有無	
1 芦屋女子	350	350	女子	1 芦屋女子	120	女子(2011共)	○			
2 大手前女子	380	610	女子	2 大手前	250	共学(2004)	○			
3 近畿大学豊岡	100	140	共学	3 近畿大学豊岡	40	共学	○			
4 甲子園	250	430	女子	4 甲子園	220	女子	○			
5 神戸女子	460	730	女子	5 神戸女子	390	女子	○			
6 神戸常磐	240	320	共学	6 神戸常磐大学	160	共学	◎2008			
7 神戸山手女子	790	1030	女子	7 神戸山手	250	共学(2004)	◎1999			
8 産業技術	230	390	共学	8 産業技術	245	共学				
9 夙川学院	840	840	女子	9 夙川学院	320	女子				
10 頌栄	100	100	共学	10 頌栄	150	共学				
11 聖和大学	300	280	女子	11 聖和	150	女子	△			
12 園田学園女子大学	693	590	女子	12 園田学園女子大学	210	女子	○			
13 東洋食品工業	35	35	女子	13 東洋食品工業	35	共学(2006)				
14 日ノ本学園	200	250	女子	14 姫路日ノ本	100	共学(1999)				
15 兵庫女子	670	387	女子	15 兵庫大学	230	共学(1996)	◎1995			
16 湊川女子	300	300	女子	16 湊川	180	共学(2003)				
17 武庫川女子	1990	1585	女子	17 武庫川女子大学	870	女子	○			
18 神戸文化	300	300	女子(?)	神戸ファッション造形大学	2009停止	2011廃止				
19 神戸松陰女子	515	515(?)	女子	神戸松陰女子学院大学	2007停止					
20 関西女学院	250	600	女子	2000停止、四年制に統合	関西国際大学へ	◎1998				
21 甲南女子	350	300	女子	2000停止、四年制に統合	甲南女子大学へ	○				
22 神戸海星女子学院	100	100	女子	1998停止、四年制に統合	神戸海星女子学へ	○				
23 神戸学院女子	400	480	女子	2004停止、四年制に統合	神戸学院大学へ	○				
24 姫路学院女子	200	200	女子	1999停止、四年制に統合	近畿福祉大学へ	◎2000				
25 賢明女学院	220	220	女子	2006停止、2008廃校						

※1. 1991年および1996年については、晶文社発行『全国短期大学受験案内'92年度用』(1991)、『-'97年度用』(1996)を用いた。2010年度については、原書房『全国学校総覧2011年版』(2010)、学研『2011年度用短大受験案内』(2010)を用いた。

※2. 太線の□は1991、1996年比で定員が同じか増加した短大、細線□は1991年比でのみ増加した短大。網掛けは、1991比半減以下の短大。

※3. 併設・系列大学有無の○は「有」を示し、◎は1996年以降に4年制大学が創設されたものとその年。

であり、1991年との比較では産業技術短大も増やしている。定員数の少ない東洋食品工業短大は定員を変えていない。その他の短期大学は、1991年比においても、すべて定員を減らしている。表中の短大名に薄い網掛けを施しているのは、1991年の定員数と比して、2010年にその数を半分以下とした大学であり、その数は17校中9校となる。

(2) 大阪府の短期大学

表4は、大阪府所在の短期大学を20年前の1991年と1996年、2010年の3時点で示したものである(1991年と1996年で短期大学に変動なし)。大阪府では、1991年の41校が2010年には30校となった。1991年の41校中、2010年までに12校が募集を停止し、そのうち10校が4年制大学になった、あるいは統合されたと思われる。大阪、大阪明浄、関西鍼灸、羽衣学園の各短期大学は、短大を閉学して4年制大学を設立し、残りは既存の4年制大学に統合された。聖母被昇天学院女子とPL学園女子は閉学したようである。大阪府の場合、1996年以降に2つの短期大学(大阪体育大学附属および大阪健康福祉)が設立されたが、そのうち1校は2010年に募集を停止した。

共学化した短期大学も多い。1991年から続いている29短期大学のみを対象にすると、1991年に共学であったと思われる短期大学は6校であったが、2010年には15校に増え、半数以上が共学化している。

募集定員では、全体的には減らしている短期大学が多い。2010年時点において、1991、1996年よりも増やしているのは藍野学院と大阪千代田の2校にすぎない。増えてはいないが、1996年と同数なのが大阪女子、大阪夕陽丘、大阪信愛女子学院の3校、1996年定員よりは減ったが1991年定員より増えたのは大阪キリスト、四条畷学園、大阪芸術大学の3校である。臨時定員増前の1991年比で増えたあるいは変化していない短期大学が合計8大学であり、あとの21大学は定員を減少させている。特に1991年比で半数以下になった短大(表4の短大名に網掛け)の数は14校に上り、現存する短大の約半数にあたる。

定員を減らしていない短期大学の特徴としては、藍野学院を除いてすべてが併設あるいは系列の4年制大学を持っていないことが挙げられる。4年制大学にたよらず、短大として生き残りを図っている大学といえよう。逆に言えば、1996年以降に藍野学院を含む8つの短大が4年制大学を設けているのであり、その多くは短大の定員を大きく減らしたのである⁴⁾。

表4 大阪府における短期大学の変化（3時点での比較）

no	1991年度			1996年度			2010年度			併設・系列 大学有無
	短期大学名(1996)	定員	共学有無	no	短期大学名(2010)	定員	共学有無	併設・系列 大学有無		
1	藍野学院	80	共学	1	藍野学院	180	共学	◎2004		
2	大阪青山	700	女子	2	大阪青山	180	共学	◎2005		
3	大阪音楽大学	300	共学	3	大阪音楽大学	270	共学	○		
4	大阪学院	400	女子	4	大阪学院	200	女子	○		
5	大阪キリスト教	240	女子(一部男子)	5	大阪キリスト教	270	女子(一部男子)			
6	大阪薫英女子	450	女子	6	大阪薫英女子	210	女子			
7	大阪産業大学	350	共学	7	大阪産業大学	200	共学(殆男子)	○		
8	大阪城南女子	450	女子	8	大阪城南女子	390	女子			
9	大阪女学院	250	女子	9	大阪女学院	150	女子	◎2004		
10	大阪女子	260	女子	10	大阪女子	340	女子			
11	大阪女子学園	150	女子	11	大阪夕陽丘	240	共学('09)			
12	大阪信愛女子学院	200	女子	12	大阪信愛女子学院	200	女子			
13	大阪成蹊女子	1480	女子	13	大阪成蹊	690	共学	◎2003		
14	大阪千代田	120	女子	14	大阪千代田	250	共学			
15	大谷女子	420	女子	15	大谷大谷大学	180	共学	○		
16	関西外国語	1850	共学	16	関西外国語大学	900	共学	○		
17	関西女子	450	女子	17	関西女子	300	女子			
18	近畿大学	160	共学	18	近畿大学	80	共学(夜間)	○		
19	堺女子	300	女子	19	堺女子	150	女子			
20	四条暁学園	180	女子	20	四条暁学園	240	共学			
21	四天王寺国際仏教大学	600	女子	21	四天王寺大学	240	共学	○		
22	樟蔭東女子	160	女子	22	樟蔭東女子	120	女子('12共学)			
23	大阪国際女子(現迄、帝国女子)	730	女子	23	大阪国際大学	380	共学	○		
24	常磐会	400	女子	24	常磐会	300	女子	◎2006		
25	浪速	320	共学	25	大阪芸術大学	450	共学	○		
26	梅花	660	女子	26	梅花女子大学	280	女子	○		
27	東大阪	565	女子	27	東大阪大学	150	共学	◎2003		
28	プール学院	490	145(?) 女子	28	プール学院大学	190	女子	◎1996		
29	平安女学院	630	女子	29	平安女学院大学	150	女子	◎2000		
			2002開学	30	大阪健康福祉	170	共学			
30	大阪	150	共学	2002停止	2003太成学院大学へ			◎88南大阪大学		
31	大阪工業大学	430	共学	2004停止	大阪工業大学へ			○		
32	大阪電気通信大学	310	共学	2006停止	大阪電気通信大学へ			○		
33	大阪明浄女子	160	女子	2003停止	大阪観光大学へ			◎2000		
34	関西芸術('96迄関西女子美術)	200	女子	2004停止	宝塚造形芸術大学→宝塚大学			○		
35	関西鍼灸	120	共学	2002停止	関西鍼灸大学→関西医療大学			◎2003		
36	相愛女子	525	女子	2005停止	2006相愛大学へ統合			○		
37	帝塚山学院	360	女子	1997停止	1998帝塚山学院大学へ			○		
38	羽衣学園	500	女子	2004停止	羽衣国際大学へ			◎2002		
39	金蘭	1700	女子	[31] 2009停止	千里金蘭大学			◎2003		
40	聖母被昇天学院女子	140	女子	2003停止、2005閉学						
41	PL学園女子	150	女子	2001停止						
			2000開学	[32] 2010停止	大阪体育大学			○		

※1. データについては、表3と同じ。

※2. 金蘭と大阪体育大学附属については、閉学とはなっておらず、『全国学校総覧2011年版』に記載されていたので、2010年の短期大学としても掲載し、noを[]付きで示した。

※3. 太線□は1991、1996年よりも定員が増えたか同数の短大、細線□は1991より増えた短大。網掛けは、1991年比半減以下。

※4. 併設・系列大学有無の○は「有」を示し、◎は1996年以降に系列の4年制大学が創設されたものとその年。

Ⅱ. 武庫川女子大学短期大学部の特徴と学生募集の現状

上では近畿の短期大学、なかでも兵庫県と大阪府における約20年間の変化を概観してきた。では、阪神間に位置し、学生の多くが兵庫と大阪から通学している武庫川女子大学短期大学部の場合にはどうか。その特徴を整理するとともに、近年における学生募集の状況を確認する。

1. 武庫川女子大学の特徴

武庫川女子大学は、1949年に武庫川学院女子大学（1958年、武庫川女子大学と改称）が、1950年には武庫川学院女子短期大学（1985年に武庫川女子大学短期大学部と改称）がそれぞれ開学し、女子大学として今日に至っている。2011年度において、4年制は文学（5学科）、生活環境学（4学科）、薬学（2学科）、音楽（2学科）、健康スポーツ科学（1学科）の5学部14学科、短期大学部は日本語文化、英語コミュニケーション、幼児教育、人間関係、健康・スポーツ、食生活、生活造形の7学科からなる。それぞれの定員は表5に示した通りである。2011年5月時点で、4年制学生が8,590名、短期大学学生が1,940名で、大学院生を除いても、合計1万人以上の学生が在籍している。

表5. 短期大学部学科別と大学学部別の学生数（武庫川女子大学）

短期大学部学科	人数	大学学部	人数
日本語文化学科	241	文学部（5学科）	4,269
英語コミュニケーション学科	219	健康・スポーツ科学部	182
幼児教育学科	316	生活環境学部（4学科）	2,503
人間関係学科	232	音楽学部（2学科）	171
健康・スポーツ学科	185	薬学部（2学科）	1,465
食生活学科	346	合計	8,590
生活造形学科	401		
合計	1,940		

（2011年5月1日現在）

本学は4年制だけの学生規模において、4年制と短期大学を合わせた規模においても、女子大学の中では最も大規模な大学である。短大だけでも5学科を有し、近畿で2番目に大きい募集定員をもつ。さらに、文系のみならず薬学や建築学、食物栄養など理系学部・学科をもつ総合大学であり、新製の大学・短期大学の発足時に創設された伝統校である。その他、武庫川女子大学の特徴として次のような点を挙げることができる。

学院・大学の方針

- ・4年制と短大だけでなく、幼稚園、中学・高等学校と大学院を有する総合学園である。
- ・10年間一貫の女子教育を目指しており、附属高等学校卒業生のほとんどが武庫川女子大

学・短期大学に進学する（大学・短大入学者全体の約13～14%を付属出身者。近年では、4年制への内部進学者が増加し、短大への入学者はかなり減少）。

編入

- ・短期大学部学科から対応する4年制の学科への編入枠がある（短大各学科入学定員の20%前後）。

教学

- ・社会で自立できる女性を目指し、資格や免許などの取得獲得のサポートに熱心である。
- ・短期大学部と4年制は同じキャンパスにあり、教員は双方で教え、学生は共通の授業をとることもあるなど、短大と4年制の間の垣根が低い。
- ・短期大学の学科とそれに対応する4年制大学の学科は、一体となって運営されている（教員等）。
- ・以前よりクラス担任制を取り入れ、学生間、学生－教員間の意志疎通を図っている。

立地

- ・大阪市と神戸市の間に位置し、交通機関のアクセスもよく、通学に便利である。

その他

- ・学生数が多く、歴史もあるので、知名度が高く、近畿地方を中心に卒業生が多い。
 - ・設備や施設が充実している（情報機器の充実、海外に自前の分校をもつ）、など。
- 以上のように、短期大学としてみれば、かなり有利な特徴、条件を備えている。

2. 学生募集の現状と変遷

現在の4年制・短期大学の学部・学科構成および学生数は表5で見たが、2011年度の学生募集定員は表6に示したように大学1,695名、短期大学部870名（附属高校からの入学者を除く）であり、4年制の定員が短大の倍近くとなっている。1999年までは短大の募集定員1,390名、4年制が1,340名と短期大学部の方が多かったが、2000年に4年制1,400名、短期大学1,266名となって逆転した。僅か11年前のことに過ぎない。その後さらに短大の募集定員を減らし、4年制の定員を増やして今日ようになった。短大を併設する4年制大学では、同じような傾向であったと思われる。先に、1996年に初めて女子の4年制進学率が短大のそれを上回ったと述べたが、1970年代、1980年代を通じて女子の4年制進学率は短大進学率の6割強といった状況が続き、女子の大学進学者の主たるターゲットは短期大学であった。その逆転は、1990年代に入ってごく短期間に生じたのである。

表6. 短大学科別募集定員の推移

学科\年	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
日文	200	200	200	160	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
英語	200	200	200	200	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
幼児教育	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150
人間関係	200	200	200	200	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
健康スポーツ	100	100	96	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80
食生活	340	240	240	240	180	180	180	180	160	160	160	160	160	160
生活造形	300	300	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180
合計	1,490	1,390	1,266	1,210	890	890	890	890	870	870	870	870	870	870
4年制大定員		1,340	1,400		1,535				1,675					1,695

*4年制大の定員は、大きな変化のあった年のみ掲載。

先に図1で見たように、私立短期大学全体の定員充足率が90%前後、100%を割る短期大学は全体のおよそ3分の2となった。今日の短期大学にとって、最も大きな課題は受験生集めである。本学短期大学の場合、先に挙げた特徴など有利な条件・特徴を備え、全体としては定員割れを起こしていない。しかしながら、短期大学部の学生募集は徐々に厳しくなっているのが現状（2007年時点）である。

次の図2、図3は、1998年度から2007年度入試まで10年間の短期大学部の入試競争率（受験者数/合格者数）の推移を、推薦入試、一般入試別に示したものである（2007年までとしているのは、後述の学生アンケート調査の実施年に合わせたため）。入学学生のかなりの割合を占め、安定的な学生確保を行っている推薦入試（図2）では、競争率は比較

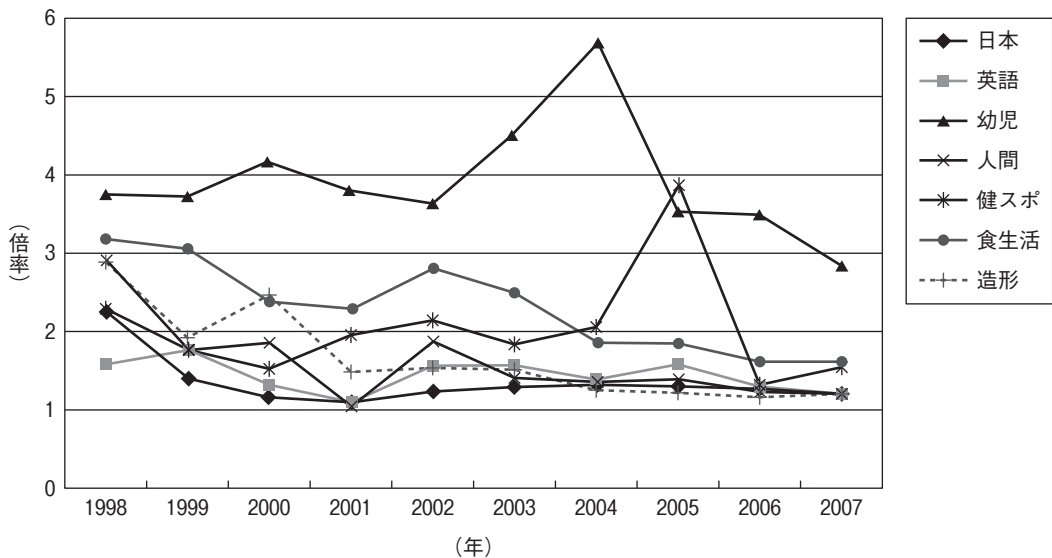


図2. 本学短期大学部の推薦入試倍率推移

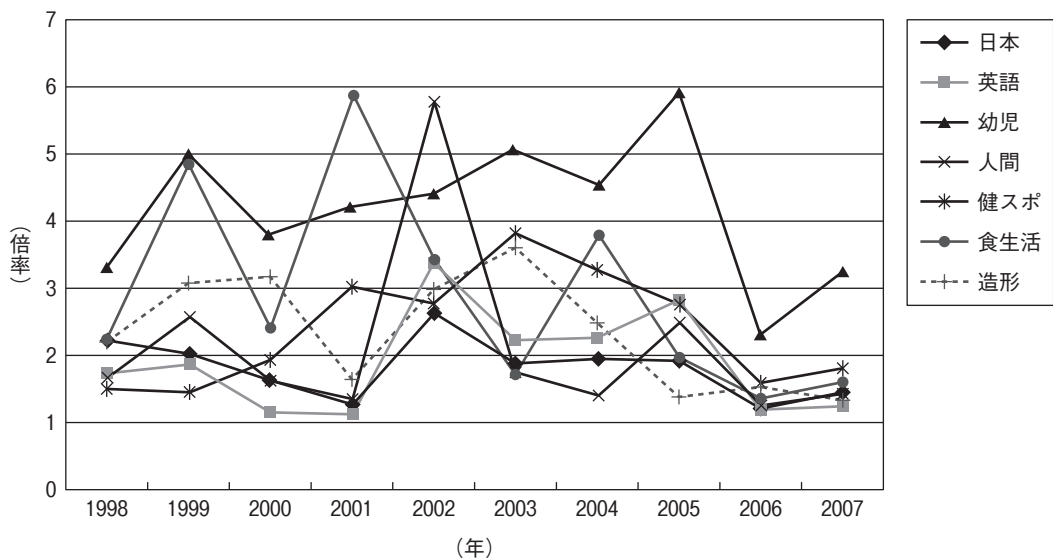


図3. 本学短期大学部の一般入試倍率推移

的穏やかに推移をしているが、全体としては徐々に下がっている。1998年度入試において2倍を超える学科は5学科中4学科であったが、2002年度には3学科となり、2007年度では幼児教育学科のみとなった。

一般入試では競争率の変動が大きい(図3)。特に、臨時定員増を削減したり、学科定員自体を縮小するなどした年(2002年など)には、倍率が高くなる傾向にある。さらに、推薦入試での合格者数との兼ね合いで一般入試の合格者数が変動する場合もあり、一般入試が合格者数確定の調整弁となる傾向もあって、変動の幅が大きくなる。1998年度から2000年度まで競争率が1倍台の学科は、2001年、2002年に募集定員の削減を行ったため、以後少し持ち直したが、2007年では1倍台が4学科、2倍以上が1学科と、推薦入試同様、厳しい状況になっている。

以上まとめると、次のようなことが言える。本学短期大学部においては、定員割れを起こすことなく学生を集めてきたのではあるが、推薦・一般入試ともに競争率は低下傾向にある。18歳人口が減少し、女子の共学・4年制志向が高まる中、短大の学科は定員(臨時増を含む)を減らすなどしてきたが(1998年比で約6割)、志願者の減少傾向に歯止めをかけるのは難しい。そうした中であって、保育士資格と幼稚園教諭免許状が取得でき、就職に直結する幼児教育学科のみが推薦で3倍、一般で2倍以上の競争率(2007年)を確保できている。

Ⅲ. 武庫川女子大学短期大学部調査の結果分析

1. 調査の目的と方法

(1) 調査経緯と目的

2007年5月、武庫川女子大学短期大学部において先述したような志願者の漸減傾向が続いている現状を鑑み、武庫川学院理事会より教育研究所に対して、次のような要請があった。すなわち、本学短期大学部についての現状分析を行い、その結果に基づいて短期大学部の改善案を提示せよというものである。そこで教育研究所では、友田泰正所長をチーフとして、まず調査計画を策定した。これは大きく四部から成る。すなわち、1) 本学短期大学部がもつ特徴、長所や課題を、学院の教学方針、学科の種類や規模、歴史、立地などの諸側面から整理しなおし、明らかすること、2) 現役学生を対象として、入学理由、満足・不満足な点、今後の大学への希望などを明らかにすること、3) 通学圏内にある近隣府県の女子高校生にアンケートを行い、短期大学一般および武庫川女子大学短期大学部への進学意志や目的、イメージなどを尋ねること、4) 本学の短期大学生が就職している企業に対してアンケートを行い、卒業生の長所や短所を尋ねるとともに、今後の短期大学卒業生の雇用見通し、短期大学教育への期待などについて尋ねること、である。この他、少数ではあるが短期大学部学生と高等学校の進路担当教員へのインタビューも合わせて実施した。以上のように本学の特徴を全体として捉えたいうえで、短期大学教育におけるinput、through-put、out-putそれぞれについて明らかにするという研究計画であり、これらの結果を総合して課題や提言をまとめることとした。

報告・提言までの期間が約半年と短かったので、上記の1)と2)の調査については教育研究所の友田所長と安東が行い、3)と4)については調査会社に委託することとした。3)と4)のアンケート調査の質問紙作成に関しては、教育研究所と委託会社とでアンケート原案を検討して作成し、その後、アンケート発送、回収、分析などは委託会社に任せることとした(2007年11月、その報告書は冊子としてまとめられた)。以下、本調査報告においては、主として2)の短期大学生調査結果の分析を掲載するものであるが、3)および4)の結果の一部についてもその一部を使用する。また1)については、前節で本学の特徴としてその一部は述べており、それらは2)のアンケート調査の質問紙にも取り入れられた。

(2) 学生への質問紙調査の概要

- 1) 調査対象：2007年度における武庫川女子大学短期大学部2年生全員
- 2) 調査方法：2007年9月15日に行われた後期授業オリエンテーションにて、2年生クラスの担任教員がアンケート用紙を配布し、回収をした。時間内にアンケートの回答を

終えられなかった者については、9月22日までに所定の場所まで提出するようアンケート用紙に記載した上、担任教員からも指示をしてもらった。

- 3) 質問紙構成：①属性、②高校時代の進学希望、③入学時および現在の満足度（以上、フェイスシート）、④短期大学に入学した理由（16項目、5件法）、⑤武庫川女子大学短期大学部に入学した理由（22項目、5件法）、⑥短期大学部での生活を振り返っての感想（30項目、5件法）、⑦その他（希望進路や短大教育への期待など）、⑧希望や自由記述（上記④～⑥の回答についての理由、4年制大学と比べての短期大学の長所および短所、今後の短期大学に期待する具体的提案、など）、からなる。（アンケート票は、論文末の「資料1」に掲載）
- 4) アンケート回収率：オリエンテーションには全員参加が原則であるが、当日どれくらいの学生に調査用紙を配布できたかは把握できず、厳密な意味での回収率を出すことは不可能である。よって、2007年度短期大学2年生の在学者数を分母とした際の、有効回答者数の比率を出した（表7）。全体では649名、69.3%の学生から回答を得た。学科別でみると、回答者比率の最も高い学科が80.2%、最も低い学科は50.2%であった。

表7. 学科別の有効回答数

	総計	日本語文化	類コミュニケ-	幼児教育	人間関係	健康スポーツ	食生活	生活造形
在籍者数	936	108	101	165	102	80	167	213
回収数	649	81	81	128	70	55	127	107
回収割合(%)	69.3	75.0	80.2	77.6	68.6	68.8	76.0	50.2

- 5) 統計分析ソフト：SPSS14.0J for Windowsが使用された。

2. 短期大学生調査の結果とその検討

(1) 調査者のプロフィール

調査者の属性および志望順位、4年制大学編入希望の有無などに関する質問の回答をまとめたものが表8である。まず学科別の学生数では入学定員の多い幼児教育と食生活の割合が約2割と高く、健康スポーツの割合が8.5%と少し低い。出身地域では兵庫県46.4%、大阪府27.4%で、両府県合計で73.8%となり約4分の3を占める。2006年に行った武庫川女子大学4年生調査では、兵庫県40.6%、大阪府32.3%であったので、短期大学部において兵庫県出身者の比率が少し高まるものの、近隣からの進学者が多いという点では変わらない。それ故、学生の住居形態では自宅が4分の3（74.7%）を占める。出身高校では、公立出身が82.3%、共学の有無では共学が87.2%と圧倒的に多く、附属出身者は2.8%とわずかである（4年生調査で附属出身は約19% - 安東 2009）。入試形態では一般入試30.5%、推薦入試69.5%で、推薦入試が一般入試の倍以上、7割近くを占める。

表 8. 回答者の属性

学科	日本語文化	類コミュニケーション	幼児教育	人間関係	健スポ	食生活	生活造形
649	81	81	128	70	55	127	107
100.0	12.5	12.5	19.7	10.8	8.5	19.6	16.5
地域	兵庫	大阪	近畿(兵大除)	その他			
649	301	178	89	81			
100.0	46.4	27.4	13.7	12.5			
住宅	自宅	アパート	本学寮	下宿	その他		
645	482	47	45	32	12		
100.0	74.7	11.5	7.0	5.0	1.9		
設置者	公立	私立					
648	533	115					
100.0	82.3	17.7					
入学形態	一般入試	推薦試					
636	194	442					
100.0	30.5	69.5					

上段：人数

下段：%

* 左端の数字は合計

(2) 受験時の進学志望と4年制編入学の意志

フェイスシートでは、高校時代の希望進路、4年制大学受験の有無、本学短期大学の志望順位、4年制大学編入の意志についても尋ねている(表9)。高校での希望進路では、4年制進学、短大進学それぞれの希望者がほぼ同比率(46.1%と46.6%)で大半を占め、専門学校希望者は3.6%とごく僅かである。実際の受験で4年制大学を受験しなかった者が56.2%と過半数を占めるものの、4年制を受験したとする者も4割強おり、本学の短期大学生の場合、4年制を志望した者は決して少なくない。4年制大学受験者のうち、本学の4年制を受験した者の比率は72.5%で、本学4年制との併願の多さが際立つ。これには、受験において4年制と短期大学部の併願が容易になっていることがその要因だと考えられる。受験時において現在在籍している学科の志望順位は、第一志望であったとする者67.2%、第二志望21.2%であった。推薦入試での入学者が7割と多いことが大きな要因であろうが、4年制との併願が4割強と高かった割には、第一志望の割合は高いといえよう。最後に、入学時において本学4年制への編入を考えたかどうかを尋ねた。本学の編入制度では、他大学からの編入は行われておらず、本学4年制への編入は、本学短大生の特典であるからだ。「真剣に考えた」とする者が24.2%で4分の1おり、「少し考えた」33.7%を加えると、57.9%と過半数の者が入学時に4年制への編入を考えたということである。編入は短大入学後の一つの進路としてかなりの程度意識されている。現在の学科を第一志望とする者が7割強と多いものの、4年制大学受験者は4割強あり、4年制への編入希望を持っている者も6割弱(「少し考えた」を含む)ある。

なお、フェイスシートでは「入学時の満足度」「現在の満足度」についてもそれぞれ4件法で尋ねたが、この結果の検討については、後の(6)で行うこととする。

表9. 高校時代の希望進路と4年制編入希望

高卒時希望進路	4年制大	短大	専門学校	その他	特になし	
646	298	301	23	5	19	
100.0	46.1	46.6	3.6	0.8	2.9	
4大受験	有	無			本学受験有	無
648	284	364	→ 有(284) の内訳		206	78
100.0	43.8	56.2			72.5	27.5
志望順位	第一志望	第二志望	第三志望			
646	434	137	75			
100.0	67.2	21.2	11.6			
4大編入	短大入学時に4大編入を					
	真剣に 考えた	少し 考えた	考えず			
649	157	219	273			
100.0	24.2	33.7	42.1			

上段：人数
下段：％
*左端の数字は合計

上記の結果について、もう少し詳しくみていく。まず、4年制受験（以下、4大受験）や4年制編入希望、志望順位等の関連を示したのが表10である。4大受験の有無と志望順位のクロスでは、当然のことながら、4大受験「無」の者で現在の所属学科を第一志望とした者が88.4%と圧倒的に多く、4大受験「有」では、第二、第三志望の比率が合計で59.7%と、順位が低くなった。しかしながら、4大受験「有」とする者でも、現在の短大を第一志望とする割合が40.3%もあり、高い比率で本学短期大学部を第一に志望しているとの見方もできる。

入学試験の種類と4大受験有無とのクロスでは、一般試験入学者の約8割（77.8%）が4大を受験しており、推薦入学者では当然ながら4大受験をしなかった者の比率が高くなっている。推薦入学者では、4大との併願を行っている者が4分の1強（27.9%）いるものの、短大に的を絞っている者が多い。一般試験入学者では短大のみに絞り込んで受験したのではなく、4大を受験している者が圧倒的に多いことが分かる。

表10-1. 4大受験有無と志望順位のクロス

	計	第一志望	第二志望	第三志望
4大受験有	283	114	100	69 ***
	100.0	40.3	35.3	24.4
4大受験無	362	320	36	6
	100.0	88.4	9.9	1.7

χ^2 乗検定 *** : $p < .001$

上段：人数
下段：％
(以下同様)

表10-2. 4大受験有無と試験種類・編入学希望のクロス

	計	4大受験有	4大受験無
4大編入を	真剣に考えた	157	29 ***
		100.0	18.5
	少し考えた	218	132
		100.0	60.6
入学形態	考え	273	203
	なかった	100.0	74.4
	一般入学	194	43 ***
	100.0	22.2	
	推薦入学	441	318
	100.0	27.9	72.1

次に、学科と進路志望に関する項目とのクロスに χ^2 乗検定し、1%水準以上で有意差のあったもののみを示したのが表11である。その一つは高校時希望進路とのクロスであり、「4大進学」を目指した者の割合は、生活造形、健康スポーツ、人間関係、英語コミュニケーションの順で、それぞれ50%台と比較的高く、逆に食生活が31.5%、日本語文化では39.5%と低めの値となった。ここに表として示していないが、学科と4大受験有無とのクロス（有意差ナシ）では、健康スポーツと生活造形のみで、4大を受験した者の割合が50%を上回り（順に56.4%、51.4%）、4年制志向が他学科より幾分高い。

もう一つ有意差があったのは、短大入学時に武庫川女子大学の4年制編入をどの程度希望したかを問う質問とのクロスである。「真剣に検討した」と答えた者の比率を取り上げると、健康スポーツ34.5%、人間関係34.2%、生活造形30.8%の順となった。これらの学科は4大受験率も高い学科であり、入学時より4大への編入を考えている者が多い。逆に食生活は9.4%で、他学科がすべて20%以上である中、飛び抜けて低い数字である。この理由として、食生活と対応する4年制の学科は生活環境学部食物栄養学科であるが、管理栄養士国家試験受験資格付与の人数枠との関係で、現在のところ短期大学からの編入が認められていないという事情がある。よって食生活学科では、受験生に周知の徹底をはかっている。4大への編入希望者は、受け入れ枠のある他の管理栄養士養成大学への編入試験を受験しなければならない。

表11. 所属学科と諸変数とのクロス

	高校時希望進路			短大入学時に大学編入を			(%)
	4大進学	短大進学	他(専門含)	真剣に検討	少し検討	検討しない	
日本語文化	39.5	50.6	9.9	27.2	29.6	43.2	
英語コミュニケーション	51.9	42.0	6.2	24.7	38.3	37.0	
幼児教育	44.4	50.0	5.6	21.1	31.3	47.7	
人間関係	53.6	44.9	1.4	34.3	31.4	34.3	
健スポ	54.6	36.4	9.1	34.5	38.2	27.3	
食生活	31.5	59.1	9.4	9.4	40.9	49.6	
生活造形	57.0	34.6	8.4	30.8	27.1	42.1	

χ^2 乗検定 ** : $p < .01$

**

**

太字：残差分析で有意に高い値、斜字：残差分析で有意に低い値

(3) 「短期大学に入学した理由」の因子分析

女子の4年制大学への進学率が高くなる中（図1参照）、どうして学生たちは短期大学へ入学したのかを問うた。「短期大学への進学」については、二つに分けて考える必要がある。一つはどうして進路選択として「短期大学」を選んだのか、もう一つはどうして「武庫川女子大学短期大学部」を選んだのかである。もちろん両者には共通部分も大きい。後者の場合、武庫川女子大学（4年制）への編入、就職率のよさ、ブランドや世間体など、「武庫川女子大学の短期大学」であることを意識した進路選択を想定したものであ

る。よって、「短期大学に入学した理由」と「武庫川女子大学短期大学部に入学した理由」との別々の質問項目を設けることとした。本節では前者の結果を検討し、後者は次節の(4)で行う。

以下においては因子分析結果から、「短期大学に入学した理由」に影響を与える共通要因を明らかにし、それをもとに分析をすすめていく。次の(4)、(5)においても同様である。

1) 因子命名と全体の傾向

4年制ではなく短期大学へ入学した理由として考えられる16の質問項目を設け、5件法で尋ねた。因子分析による分類にそって、質問項目ごとの回答比率を簡略化して示したものが表12である（なお、各項目の因子負荷量や共通性などの結果は、紙面の都合上、論文末の「資料2」に掲載している。次の(4)、(5)で行う因子分析も同様）。

因子分析（主因子法・ヴァリマックス回転法）の結果、5つの因子が得られた。第一因子は、「4年間も勉強しなくなかった」「はやく社会に出たかった」など4つの質問項目から構成される因子なので、「短大積極選択」因子と命名した。第二因子は「親や家族が短大を勧めた」「高校の先生が短大を勧めた」「家庭の経済的事情」など5項目から構成されているので、「短大消極選択」因子とした。さらに「四年制大学より短大の方が入学しや

表12. 「短期大学に入学した理由」の因子分析による分類と項目別比率

因子名	質問項目	回答者数	ていあ は十て まあは らまは なりら いあな	どち らで もな い	るやあ やて あは てま はる ま十
積極 選択	6. 4年間も勉強しなくなかった	646	44.9	17.6	37.5
	3. はやく社会に出たかった	642	40.2	20.9	38.9
	9. 4年制大学の受験に落ちた	644	58.2	5.3	36.5
	4. 4年制大学卒女子よりも就職に有利と思った	634	51.7	29.8	18.5
消極 選択	10. 親や家族が短期大学を勧めた	648	58.6	16.8	24.5
	11. 高校の先生が短期大学を勧めた	645	73.3	16.7	9.9
	12. 家庭の経済的状況で4年制でなく短大にした	645	55.8	14.3	29.9
	13. 女子の進学は短期大学で十分と思った	644	68.0	18.9	13.0
	15. 進路に迷ったので、とりあえず短大にした	645	66.8	15.8	17.4
学力	8. 4年制大学よりも短期大学の方が入学しやすい	644	38.0	25.2	36.8
	5. 4年制大学に進学するには学力が足りなかった	644	36.5	26.2	37.3
進路 模索	14. 高校卒業では、よい就職がないと思った	647	50.4	16.8	32.8
	16. 短期大学の方が、就職や進学の選択肢広い	622	53.4	25.2	21.4
	7. 専門学校に進学するよりも世間がよい	646	44.1	24.1	31.7
資格	1. 短い期間で希望する資格や免許が取得できる	647	23.2	20.1	56.7
	2. 2年間で学位（短期大学士）が取得できる	648	29.8	26.9	43.4

すい」など2項目からなる第三因子を「学力」因子、「高卒ではよい就職がないと思った」など3項目からなる第四因子を「進路模索」因子、「短い期間で希望する資格や免許が取得できる」など2項目からなる第五因子を「資格」因子と名付けた。この調査結果からは、以上の5つが短期大学への進学に影響を及ぼす要因だと考えられる。

学生の回答は肯定から否定まで分散しており、「あてはまる+ややあてはまる」の肯定的な回答をした者の比率に注目してみても、それほど高い比率の項目はない。肯定的回答の高い比率の項目は、第五因子「資格」の項目で、「短い期間で希望する資格や免許を取得できる」56.7%、「2年間で学位が得られる」43.4%であり、他の項目の多くは20～30%台が多い。逆に肯定的な回答率の低い項目を挙げると、第二因子「短大消極選択」の「高校の先生が短大を勧めた」9.9%、「女子の進学は短大で十分だと思った」13.0%、「進路について迷ったのでとりあえず短大にした」17.4%などであり、第一因子「短大積極選択」の「四年制卒女子よりも就職に有利」も18.5%と低い。

2) 学科による比較

因子によって分類された項目ごとに肯定的回答率（「あてはまる」+「ややあてはまる」）を示し、学科による比較を行ったものが表13である。太字あるいは斜字となっている数字は、 χ^2 乗検定をした際に各セルの残差を算出し、その値が ± 1.98 より大きな（あるいは小さな）セルであり、そのセルの数値が統計的に有意に高いあるいは低いことを示すものである。比率を比較していくと、学科の特色が見えてくる。「積極的選択」因子の「4年間も勉強をしたくなかった」との項目には、食生活（46.5%）の比率が高くなっている。「四年制大学に落ちた」で比率が高いのは健康スポーツ（50.9%）と生活造形（47.6%）であり、この2学科は「四年制大卒女子より就職が有利」の比率ではともに一桁と低く、4年制大学志向が強い学生が多いと言えよう。英語コミュニケーションは「四年制大卒女子より就職有利」が有意に高く、「はやく社会に出たかった」が有意ではないものの他より高くなっており、他と比して早く社会に出たいとして、短大を選んだ者が比較的多いようだ。

第二因子の「消極的短大選択」において他との違いが大きい学科は幼児教育と日本語文化であり、対照的な結果となっている。幼児教育の場合、「親や家族の勧め」「女子の進学は短大で十分」「進路について迷ってとりあえず」の肯定比率がいずれも有意に低くなっているのに対し、日本語文化は「親や家族の勧め」「家庭の経済的理由」の比率が有意に高いという結果であった。第三因子の「学力」においては、学科間で統計的な有意差は見られない。

第四因子「進路模索」では、健康スポーツは全3項目で、幼児教育は3項目中2項目で有意に低くなっており、「とりあえずの進路としての短大進学」は比較的少ない。これに

表13. 学科別に見た「短期大学に入学した理由」の肯定回答比率

因子名	質問項目	全体での比率	日本語文化	英語コミュニケーション	幼児教育	人間関係	健康スポーツ	食生活	生活造形	
積極選択	6. 四年間も勉強したくなかった	37.5	25.9	33.8	43.0	36.2	29.1	46.5	36.8	**
	3. はやく社会に出たかった	38.9	38.8	46.9	40.5	32.9	27.3	43.2	36.2	
	9. 四年制の受験に落ちた(負荷量一)	36.5	28.4	35.0	35.7	40.0	50.9	26.0	47.6	*
	4. 四年制大学卒女子よりも就職有利	18.5	22.5	30.4	23.6	19.1	7.3	16.9	7.6	***
消極選択	10. 親や家族が短期大学を勧めた	24.5	33.3	24.7	16.4	27.1	16.4	24.4	30.2	*
	11. 高校の先生が短期大学を勧めた	9.9	7.5	9.9	5.5	7.1	16.7	12.6	12.4	
	12. 家庭の経済的状況で短期大学	29.9	39.5	24.7	28.3	27.1	23.6	34.1	28.6	
	13. 女子の進学は短期大学で十分	13.0	12.5	19.8	6.3	12.9	7.4	18.3	13.3	*
	15. 進路について迷ってとりあえず	17.4	18.5	16.0	7.1	35.7	11.1	19.7	18.1	***
学力	8. 四年制よりも短大入学容易	36.8	37.0	25.9	34.9	41.4	34.5	43.3	37.5	
	5. 四年制に進学には学力不足	37.3	35.0	37.0	38.9	38.6	40.0	34.9	37.7	
模索	14. 高校卒業ではよい就職がない	32.8	38.3	33.8	25.0	42.9	18.2	31.5	39.6	**
	16. 短大の方が就職・進路の選択広い	21.4	31.6	27.8	10.8	35.8	5.7	23.8	17.1	***
	7. 専門学校進学よりも世間体よい	31.7	32.1	38.3	26.2	37.1	20.0	37.8	28.3	
資格	1. 短期間で希望の資格・免許取得	56.7	42.0	35.0	87.5	28.6	57.4	85.0	31.8	***
	2. 2年間で学位取得	43.4	31.3	29.6	53.9	37.1	47.3	60.6	31.8	***

χ^2 乗検定 ***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$ (表15、17も同様)

※1. 「当てはまる」+「やや当てはまる」と答えた者の%。

※2. χ^2 乗の検定結果は、「当てはまる(「やや」を含む)」「どちらとも-」「当てはまらない(あまり-)」を含むの3カテゴリーと学科で行ったもの(表15、17も同様)。但し、この表には「当てはまる+やや当てはまる」の比率のみで、「どちらともいえない」「当てはまらない(あまり-)」の比率は掲載していない。

※3. 太字の数字は残差分析で+1.98より大きかったセル、斜字の数字は-1.98より小さかったセルで、各セルの期待値より有意に大きい、あるいは小さいことを示す。以下、表15、17も同様。

対し、日本語文化と人間関係では、「短大の方が就職・進路の幅が広い」とする項目の肯定比率は30%台と低いものの、他学科との比較では有意に高く、選択肢の広さをやや肯定的に捉えている。

最後の「資格」に関する第五因子では、学科間の差異が特に明確になった。この因子の項目は、他因子の項目に比して肯定する割合が高い。特に幼児教育と食生活では、「短期間で希望の資格・免許取得」がそれぞれ87.5%、85.0%と非常に高率で、資格や免許の取得が大きな進学理由になっていることが伺える。反対に、健康スポーツを除く他の4学科は有意に低い。英語コミュニケーション、日本語文化、生活造形の各学科は「2年間で学位取得」でも有意に低い比率となっており、資格や学位の取得にそれほど重きを置いていない学生が少なくないようである。なお、自由記述欄を設けて学生の意見を尋ねており、それに関しては(7)で検討する⁵⁾。

(4) 「武庫川女子大学短期大学部に入学した理由」の因子分析

上記(3)で検討したのは、他の高等教育機関ではなく「短大に入学した理由」であったが、本節では「他大学ではなく、武庫川女子大学短期大学部に入学した理由」の分析を行う。質問は、Ⅱ-1で述べた本学短期大学部の特徴と思われるものを入れ込んだ22項目(5件法)を作成した。

1) 因子命名と全体の傾向

因子分析によって因子の抽出を行った。主因子法・ヴァリマックス回転法ではうまくまとまらなかったため、プロマックス法を用いた(因子負荷量などは「資料2」を参照)。その結果、6因子が抽出され、因子ごとの項目と回答比率は表14に示したとおりである。

第一因子は、「就職率がよいと聞いた」(肯定比率84.5%、以下同様)、「施設や設備がきれいで充実」(75.8%)、「よく名前が知られている短大」(79.4%)、「自分の学びたい学科や専攻がある」(86.0%)など7項目からなる。これらの質問項目内容から判断して、「多様な期待への対応」因子と命名した。この因子の項目は、他の因子の項目と比べて肯定的比率の値が高い。特に「学びたい学科・専攻がある」の肯定比率が高い(86.0%)のは当然として、「就職率がよい」(84.5%)、「名前を知られている短大」(79.4%)、「施設や設備がきれいで充実」(75.8%)といった項目は、4分の3以上の者が肯定的な回答を行っており、これらのことが受験生に高く評価されていることが分かる。

次の第二因子は、「情報教育に力を入れている」「幅広い教養を身につけることができる」「海外施設をもつなど留学制度に魅力」「阪神間の都市部にある」「身近に本学出身者がいた」および「建学の精神・教育理念に共鳴」の6項目からなる。前から3項目と「建学の精神」は大学でのカリキュラムとまとめることもできるが、他の2項目は同じ括りにはなじまない。そこで「阪神間に位置する」は便利な位置にあり、落ち着いて学びやすい環境として捉え、「身近に卒業生がいる」は身近に感じられ安心して学べる環境だと広く解釈し、「学習環境のよさ」と命名してみた。この中で高い比率の項目は、「幅広い教養」44.7%、「阪神間の都市部にある」36.4%で、他項目は10%台で低い値である。なお、「推薦入学制度を利用できた」については、この因子の構成項目としては負荷量が低く曖昧だったので採用しなかったが、比率は示している通りである(資料2参照)。

残りの4因子の命名は次のようにした。第三因子は「高校の先生の勧め」「親や家族の勧め」から構成されるので「他者からの勧め」因子と名付けた。「武庫川女子大学への編入ができると思った」「四年制もある総合大学」からなる第四因子は、「四年制大学併設」因子とした。次の第五因子は「大学の学生寮がある」「自宅から通学できる」から構成されているので、「生活安心」因子と命名してみた。学生寮に入る学生数は全体からすると小さく、これを支持した回答は8.1%と少ないが、「自宅から通学できる」は55.0%と多くなっており、学生にとって重要な入学理由の一つと言えるだろう。最後の「自分の成績

表14. 「武庫川女子大学短期大学部に入学した理由」の因子分析による分類と項目別比率

因子名	質問項目	回答者数	りりなあ なあいて はあま ままら	どち らでも ない	は+あ まやて るやは あま てる	(%)
多様な期待への対応	3. 就職率がよいと聞いた	644	5.9	9.6	84.5	
	4. 教育に力を入れていると聞いた	637	15.9	37.0	47.1	
	6. 伝統のある短期大学である	643	14.0	27.2	58.8	
	11. 施設や設備がきれいで充実している	645	7.4	16.7	75.8	
	7. よく名前を知られている短期大学である	646	7.9	12.7	79.4	
学習環境のよさ	12. 様々な資格や免許を取得できる	644	9.9	24.5	65.5	
	2. 自分の学びたい学科や専攻がある	645	4.7	9.3	86.0	
	16. 情報処理教育に力を入れている	642	52.6	37.1	10.3	
	18. 幅広い教養を身につけることができる	645	25.6	29.8	44.7	
	15. 阪神間の都市部にあるから	646	38.7	24.9	36.4	
	17. 独自の海外施設をもつ等、留学制度に魅力	644	60.7	22.0	17.2	
	19. 家族や親戚など身近に、本学出身者がいる	646	65.9	16.4	17.6	
	1. 建学の精神、教育理念に共鳴した	646	48.9	39.8	11.3	
	(10. 推薦入学制度を利用できたから)	645	34.0	18.9	47.1	
	勧め者	22. 高校の先生に勧められたから	644	38.8	26.1	35.1
21. 親や家族に勧められたから		644	34.2	25.3	40.5	
併四 設大	20. 武庫川女子大学（四年制）への編入ができる	645	43.3	18.1	38.6	
	9. 四年制大学もある総合的な大学	643	16.8	31.9	51.3	
安生 心活	13. 大学の学生寮があった	645	75.0	16.9	8.1	
	8. 自宅から通学できる距離にある	645	29.9	15.0	55.0	
適学 合力	5. 自分の偏差値（成績）にあう	645	14.9	34.7	50.4	
	14. 自分が得意な科目で受験する	645	21.1	22.9	56.0	

主因子法、プロマックス回転

にあう大学」「得意科目で受験できる」から構成される第六因子は、「学力適合」因子と名付けることとした。学力に関連するこれら2項目は、いずれも50%台と比較的高い肯定的回答率である。

2) 学科による比較

因子ごとに、各項目の肯定比率を学科間で比較したものが表15である。 χ 二乗検定で有意差のあった項目を中心に、武庫川女子大学短期大学部の特徴も加味しながら、学科間の差異を少し詳しく検討していく。

まず、様々な内容の項目から構成されている第一因子「多様な期待への対応」から見ていく。「就職率がよい」は全体として比率の高い項目であるが、中でも幼稚園教員、保育所の保育士といった専門の就職に直結する幼児教育の比率は93.8%で、一段と高くなっている。これに対し、健康スポーツと生活造形は70%台と高い比率ながら、有意に他学科より低い数値となった。次に「伝統のある短大」を肯定する割合が70.0%と高い人間関係に

対し、健康スポーツでは31.5%と他に比してかなり低い数値となっており、この項目はあまり入学理由となっていないようだ。いわゆる「スポーツの伝統校」として認識されていないのかもしれない。「よく名前を知られた短大」も全体として肯定比率が高い項目(79.4%)であるが、特に食生活での比率は高くなっている。健康スポーツも50.9%と過半数はあるものの、ここでも他と比べれば低い割合である。「様々な資格や免許の取得」では学科間の差が大きい。先ほどの「就職率がよい」と同様、二つの資格・免許を取得できる幼児教育、さらに栄養士資格を取得できる食生活ではともに80%以上が肯定しているが、人間関係(44.3%)、日本語文化(50.6%)、英語コミュニケーション(54.3%)は50%前後とやや低い数値となっている。大学ではエクステンション講座を設けて資格取得を促すなどしているが、就職に直結するような資格はなかなかないのが実情である。「自分の学びたい学科や専攻がある」は、学科間に有意な差異はあったものの、肯定比率が最低でも71.4%あり、選択理由として最も肯定比率の高い項目である。

第二因子「学習環境のよさ」の下位6項目中、3項目で差異がみられた。本学では1400台のコンピュータを備えたマルチメディア館を中心とした情報処理教育に力を入れているので、「情報処理教育に力を入れている」との質問を設けた。しかしながら全体として肯定的回答は10.3%、学科別では人間関係のみが25.7%と、唯一20%台にすぎない。各学科におけるカリキュラム等の関係もあろうが、大学のこうした取り組みが受験生には十分に浸透していないのかもしれない。「幅広い教養を身につけられる」は、学科間で大きな差異がみられる。英語コミュニケーション65.0%、日本語文化56.8%と過半数であるのに対し、健康スポーツと食生活の2学科は、30.9%、36.5%と有意に低く、幼児教育も37.5%である。文学や語学といった教養志向と、スポーツ志向や実学志向との違いが反映されているとも言えよう。もう一つの差異が見られた項目は「独自の海外施設など留学制度に魅力」で、英語コミュニケーションのみが85.2%と他よりも極端に高い。この差異の理由は明快で、英語コミュニケーション学科では1年次の後期に全員がアメリカ分校(ワシントン州Spokane市にあるFort Wrightキャンパス)に留学することになっているからである。幼児教育では短期の夏期研修プログラムを実施しているので、他学科より少し高くなったのかもしれない。

第三因子「他者からの勧め」の下位項目では χ 二乗での有意差は見られなかった。「高校の教員からの勧め」の肯定的回答が全体で35.1%、「親や家族の勧め」では40.5%であり、家族からの勧めの方が若干高い。高校の先生の勧めでは、幼児教育で有意に高い数字となっている。

続いて第四因子「四年制大学併設」の項目「四年制がある総合的大学である」は、全体で51.3%と半数であるが、英語コミュニケーションが63.0%と少し高い比率であることを除いて学科間の差は小さい。一方の「武庫川女子大学への編入枠がある」では、ほとんど

の学科が40%以上で、中でも人間関係は50.0%と最も高い。これに対し、食生活のみが19.8%と有意に低い数値となっている。先にも述べたが、食生活だけは管理栄養士資格の関係もあって、4年制への編入枠が現在のところないためである。食物栄養学科以外への編入の道もなくないが、専門が大きく異なる。管理栄養士（受験）資格をとるためには、他の4年制大学に進学する必要がある、このことを学生はよく知っている。

第五因子「生活安心」では、地元出身者が多いということもあり、「学生寮があった」の比率は低い。健康スポーツや幼児教育、日本語文化が10%で少し高くなっているものの、統計的な差異はない。これに対し「自宅から通学できる距離にある」は全体で55.0%と過半数、中でも英語コミュニケーションは71.6%と最も高い。幼児教育と食生活はともに40%台で他と比べて有意に低い値となっている。

最後の第六因子「学力適合」の2項目は、全体でともに50%を超えている。「自分の偏差値（成績）にあう」は、入試で実技もある健康スポーツで少し低くなっているものの、

表15. 学科別に見た「武庫川女子大学短期大学部に入学した理由」の肯定回答比率

因子名	質問項目	全体での比率	日本語文化	英語コミュニケーション	幼児教育	人間関係	健康スポーツ	食生活	生活造形
多様な期待への対応	3. 就職率がよいと聞いた	84.5	85.2	81.5	93.8	88.4	72.7	86.4	76.2 **
	4. 教育に力を入れていると聞いた	47.1	43.0	55.6	53.5	34.3	45.5	48.0	43.7
	6. 伝統のある短期大学である	58.8	57.5	58.8	60.9	70.0	31.5	61.1	61.0 *
	11. 施設や設備がきれいで充実	75.8	72.8	81.3	76.6	75.7	67.3	77.6	75.5
	7. よく名前を知られている短期大学	79.4	78.8	79.0	84.4	85.7	50.9	88.1	74.5 ***
	12. 様々な資格や免許を取得できる	65.5	50.6	54.3	82.0	44.3	74.5	83.9	53.3 ***
学習環境のよさ	2. 自分の学びたい学科や専攻がある	86.0	71.6	90.1	97.6	71.4	90.9	84.9	88.6 ***
	16. 情報処理教育に力を入れている	10.3	16.3	13.8	6.3	25.7	3.6	6.4	5.8 ***
	18. 幅広い教養を身につけることができる	44.7	56.8	65.0	37.5	45.7	30.9	36.5	44.8 ***
	15. 阪神間の都市部にあるから	36.4	42.0	39.5	33.6	47.1	27.3	34.1	33.3
	17. 独自の海外施設など、留学制度に魅力	17.2	5.0	85.2	16.4	5.7	1.8	3.2	7.2 ***
	19. 家族や親戚など身近に本学出身者がいる	17.7	17.3	21.0	16.5	21.4	11.1	23.0	11.4
勧め者	1. 建学の精神、教育理念に共鳴した	11.3	18.5	17.3	7.8	10.0	7.3	12.7	6.7
	(10. 推薦入学制度を利用できた)	47.1	49.4	50.6	40.6	52.2	41.8	48.8	48.1 **
併設大	22. 高校の先生に勧められた	35.1	36.7	41.3	43.0	35.7	40.0	27.8	25.5
	21. 親や家族に勧められた	40.5	48.8	43.8	37.0	48.6	36.4	34.9	39.6
安生心活	20. 武庫川女子大学への編入ができる	38.6	42.0	44.4	37.0	50.0	48.1	19.8	43.4 ***
	9. 四年制大学もある総合的な大学	51.3	55.0	63.0	46.1	58.6	44.4	50.0	46.2
適学合力	13. 大学の学生寮があった	8.1	11.1	4.9	11.8	5.7	12.7	4.8	6.7
	8. 自宅から通学できる距離にある	55.0	57.5	71.6	42.2	58.6	57.4	46.0	63.2 ***
	5. 自分の偏差値（成績）にあう	50.4	55.6	55.0	52.3	50.0	38.2	53.2	43.8
	14. 自分が得意な科目で受験できる	56.0	66.3	61.7	60.2	50.0	61.8	44.4	53.3 **

※1. 「当てはまる」+「やや当てはまる」と答えた者の%。

※2. χ^2 乗検定結果の数字の示し方などについては、表13と同じである。

※3. 太字、斜字については、表Bの※3を参照のこと。

χ^2 乗での統計的差異はない。「得意科目で受験できる」で有意に差異があるのは2学科で、日本語文化が66.3%と最も高く、食生活が44.4%で最も低い。ちなみに、短大の推薦入試では1科目のみの選択（日本語文化は国語必須／英語コミュニケーションは英語が必須／健康スポーツは実技が必須で英国から1科目選択か、教科なしの実技のみ／食生活は歴史の選択不可）、一般入試では2科目の選択となっていた（当時）。

以上、学科間の差異を中心に、武庫川女子大学短期大学部に入学した理由に関する項目を因子ごとに検討してきた。就職率のよさや学びたい学科・専攻があること、知名度、設備・施設の充実などの項目は各学科に共通する入学理由として高い肯定比率であったが、これらの項目も含めて学科による差異が認められた。特に、実学志向の学科、教養志向の学科、4年制編入志望の強い学科、留学がカリキュラムに組み込まれている学科などによる違いが確認できる。

（5）「武庫川女子大学短期大学部での学生生活評価」の因子分析

学生生活を振り返って、学生はどのようなことを評価し、あるいは評価していないのかを尋ねた。武庫川女子大学が学生に提供している教育および環境などを全般的に評価してもらい、今後の改善における基礎データとすることを目的としている。武庫川女子大学短期大学部が独自に行ってきた取り組みなどを踏まえながら、学生生活を網羅できるように29の質問項目（5件法）を作成した。本調査研究において重要な部分なので、詳しく検討していく。

1) 因子命名と全体の傾向

因子分析（主因子法・プロマックス法）にかけたところ、7因子が得られた。これまで同様、因子の下位項目ごとに学生評価の割合を三段階に分けて示したものが表16である。各因子を構成する質問項目は、因子負荷量の高い順に並んでいる（因子負荷量などの結果は、資料2を参照のこと）。

第一因子は、7項目から構成される。肯定的回答率が大きい順に、「武庫川女子大学の就職枠あり有利」「比較的少人数の授業が多い」「女性を意識した授業が多い」となり、いずれも半数近くが肯定した回答である。その他の項目ではおよそ25～35%とやや低下する。授業内容だけでなく、就職、教員あるいは職員の対応といった多様な質問項目内容と、因子負荷量（資料2別表3）を考慮して考えると、主として学生への支援や対応の熱心さを表す項目で構成されていると判断し、「学生支援」因子と命名する。

第二因子は、因子負荷量が低い「17. 専門学校へ行った方がよかった」を除くと、6項目から構成される。肯定比率が高いものは「入学後親しい友人を得やすい」71.7%、「クラス担任制は学校生活に慣れるうえで役立つ」60.8%、「クラスでの丹嶺合宿がよい思い

出」58.8%で、これらは友人やクラス、行事に関わる項目である。「なんとなくホッとできる雰囲気」は47.9%と約半分が肯定的回答をした。「女子大学のよさ」に関わる項目として設定した「同性ばかりなので周りを気にせず自分らしさを出せる」は、約6割(57.8%)が肯定的回答をしたが、「体育祭や文化祭がよい思い出」とともに、因子負荷量は0.35未満であった。これらのことから判断して、「学生生活安心」因子と名付ける。

次の第三因子は、5項目から構成される。「希望する資格や免許の取得ができる」の比率が63.0%と他の項目より少し高いが、「専門科目での高度な内容の授業が多い」「職業に役立つ知識や技能を身につけられる」「幅広い教養」「情報処理教育の充実」はそれぞれ45～50%の比率で大きな差はない。授業の内容や免許取得に関する事なので、「知識獲得」因子とする。

続いて第四因子であるが、「女性としての将来の目標や課題をつかむ」「同性の先輩後輩との交流がある」「働いている先輩に話をきける」「留学制度の充実」の4項目からなる。これらの肯定回答率はすべて20%～40%の範囲にあり、評価の低い項目である。「留学制度の充実」を除き、女子大学として大切にしなければならないものを並べ、それがどれほど実現できているかを確かめる意図の質問項目でもある。それらを学生があまり実感していないというこれらの数字をしっかりと受け止める必要がある。「留学制度」は負荷量が低いことを加味して、「女性支援」因子とする。

第五因子から第七因子はそれぞれ2項目ずつからなる。第五因子は「施設がきれい」「図書館やコンピュータなど設備・施設が充実」から構成されるので、「施設充実」因子とした。前者が65.8%、後者は87.4%であり、設備・施設は高く評価されている。第六因子は「クラブを通して自立心が養われる」「クラブでやりたいことができる」の2項目なので、「クラブ充実」因子である。ただしこれらの項目は肯定比率が低い。クラブに入っていない者が少なくないことに加え、短大生は4年制の学生と一緒にクラブ活動をしており、常に上級生がいるという点も影響しているかと推測される。最後の第七因子は「四年制へ行った方がよかった」「四年制への編入枠を広げる」から成るので「四年制大学志向」因子とした。「四年制への編入枠を広げる」については、46.5%と約半数の者が肯定的に回答している。「四年制へ行った方がよかった」は、「どちらともいえない」の約20%を挟んで、肯定と否定に二分されている。負荷量が小さいので第七因子に入れなかった「3. 異性が周りにいないのは不自然」もまた、女子大学であることを意識して設けた項目である。その回答は三分されており、女子だけの環境であることの評価については、様々な意見があるようだ。

以上、このデータから得られた因子は、負荷量が大きい順に「学生支援」「学生生活安心」「知識獲得」「女性支援」「施設充実」「クラブ充実」「四年制大学志向」の7因子であった。これらが短期大学生の学生生活を規定する要因と見ることができる。

表16. 「武庫川女子大学短期大学部での学生生活の感想」の因子分析による分類と項目別比率

因子名	質問項目	回答者数	らりなあ なあいて はあま ま	どちらでも ない	は+あ まやて るやは あま てる	(%)
学生支援	12. 職員の対応が親切である	645	25.3	44.0	30.7	
	6. きめ細かい就職指導を受けられる	647	31.7	34.2	34.2	
	14. 授業に熱心な教員が多く、理解しやすい	645	25.6	46.7	27.8	
	4. 女性を意識した授業が多い	644	19.3	34.9	45.8	
	2. 教員と話す機会が多く、親しみやすい	646	40.6	34.5	24.9	
	10. 比較的少人数の授業が多い	647	21.2	31.2	47.6	
	11. 本学短期大学部用の就職枠あり有利だ	645	15.0	34.4	50.5	
学生生活安心	9. 入学後、親しい友人を得やすい	644	8.1	20.2	71.7	
	5. クラスでの丹後合宿がよい思い出になっている	645	20.0	21.2	58.8	
	8. クラス制は学校生活に慣れるのに役立つ	646	16.9	22.3	60.8	
	25. なんとなくホッとできる雰囲気がある	647	17.6	34.5	47.9	
	26. 体育祭や文化祭がよい思い出になっている	645	23.6	29.5	47.0	
	15. 同性ばかりなので周りを気せず自分を出せる	647	13.8	28.4	57.8	
知識獲得	28. 希望する資格や免許を取得できる	646	9.1	27.9	63.0	
	29. 専門科目では高度な内容の授業多い	645	12.4	40.6	47.0	
	27. 職業に役立つ知識や技能を身につけられる	645	12.6	37.2	50.2	
	18. 幅広い教養を身につけることできる	647	13.0	39.4	47.6	
	30. 情報処理教育が充実している	647	12.5	41.9	45.6	
女性支援	22. 働いている先輩に話を聞き参考になる	646	29.9	47.8	22.3	
	1. 同性の同学年や先輩・後輩の交流がある	647	38.0	28.9	33.1	
	23. 女性として、将来の目標・課題の把握ができる	645	20.2	41.6	38.3	
	21. 留学制度が充実している	645	23.3	45.4	31.3	
施設	19. ゴミなど少なく施設きれいだ	647	8.3	25.8	65.8	
	20. 図書館やコンピュータなど充実	643	2.3	10.3	87.4	
クラブ	13. クラブ等自分たちで行い自立心	644	32.3	46.4	21.3	
	7. クラブでやりたいことが十分できる	644	63.7	28.3	8.1	
志向大	16. 四年制大学へ行った方がよかった	645	38.4	22.6	38.9	
	24. 本学四年制への編入枠を広げるべきだ (3. 異性が周りにいないのは、不自然だ)	647	19.2	34.3	46.5	
	(17. 専門学校へ行った方がよかった)	645	36.6	31.3	32.1	
		646	70.4	16.9	12.7	

2) 学科による比較

学生生活においても、学科間での差異が明確である（表17）。第一因子「学生支援」においては、幼児教育と食生活が近い関係にあり、いずれも肯定的評価が他より有意に低い項目が多い。特に幼児教育ではその傾向が顕著で、7項目すべてで肯定比率は有意に低くなっている。これに対して英語コミュニケーションは7項目中6項目で有意に高く、「少人数の授業が多い」（77.8%）をはじめ、様々な面から学生支援を高く評価する傾向にある。全体の肯定比率が27.8%と最も低い「授業に熱心な教員が多い」で、日本語文化は41.3%と他よりも有意に高く、「女性を意識した授業が多い」でも66.3%と3分の2が肯定的に答えている。英語コミュニケーション、日本語文化といった教養系の学科で教員に

よる学生支援を高く評価し、幼児教育では低い傾向がみられる。

第二因子「学生生活安心」は肯定比率の高い項目が多く、学科間の差異は少ない。差が比較的大きかったのは「クラスで丹嶺合宿がよい思い出」であり、健康スポーツが80%近く、幼児教育が67.2%と高いのに対し、ここでは英語コミュニケーションが半数以下と低くなった。

「知識獲得」と命名した第三因子では、人間関係が他学科と異なる傾向にある。「専門科目で高度な内容の授業」「資格や免許の取得」で、人間関係は全体比率の半分以下という低い結果であった。逆に食生活ではこの2項目がともに高い肯定比率となっている。「資格や免許の取得」では、幼児教育の94.5%が肯定している。幼児教育、食生活の実学系2学科では、取得すべき資格・免許が明確にあり、他学科との差異は大きい。「情報処理教育の充実」では逆に人間関係と日本語文化で高い。学科の専門教育において、情報機器を用いた授業が開講されていると考えられる。

第四因子「女性支援」で高い比率の項目はないが、学科間の差異はみられる。「働いている先輩に話をきける」「女性として将来の目標・課題の把握ができる」では英語コミュニケーションの率が43.2%、50.0%と高く、「同性の先輩・後輩の交流がある」では健康スポーツが50.0%と高くなっている。英語コミュニケーションでは、学科としてそのような機会を意識的に設けていると考えられ、健康スポーツはクラブなどを通じての交流が影響を与えていると思われる。「留学制度」は、英語コミュニケーションが必修として課しているため、この学科だけ92.6%と極端に高い。

第五因子「施設充実」に関連する項目は全体的に高い評価であるが、「図書館やコンピュータなどの充実」で日本語文化が他よりプラスに評価する率が高い。第六因子の「クラブ充実」では、2項目とも健康スポーツの比率が30%台と他に比して高い。日本語文化において有意に高い比率となっていることも注目される。学科別のクラブ加入率は不明だが、文化系クラブ加入率の影響かとも思われる。最後に「四年制大学志向」因子では、人間関係で「四年制大学の方がよかった」が51.4%と統計的に有意に高く、生活造形も有意ではないものの同様の傾向がある。「編入枠の拡大」では差異があり、現在のところ編入枠のない食生活（62.7%）と4年制大学志向の強い生活造形（56.1%）で有意に高い値となった。これに対し、英語コミュニケーションと日本語文化は30%未満で、そうした希望は相対的に低くなっている。

なお、因子項目に入れなかった2項目をみると、「3. 異性が周りにいないのは不自然」との意見を肯定する比率が高いのは幼児教育の42.5%、健康スポーツと英語コミュニケーションでは20%程度と低い。「17. 専門学校へ行った方がよかった」とする比率はいずれも低い、その中で生活造形が24.3%と4分の1がこれを肯定した。アパレルやインテリアなどなど、専門学校が得意とする授業内容と重なる部分が多いためかと推測できる。

表17. 学科別に見た「武庫川女子大学短期大学部での生活を振り返っての感想」の肯定回答比率

因子名	質問項目	全体での比率	日本語文化	英語コミュニケーション	幼児教育	人間関係	健康スポーツ	食生活	生活造形	
学生支援	12. 職員の対応が親切である	30.7	38.8	46.9	18.9	24.6	27.3	34.1	28.0	***
	6. きめ細かい就職指導を受けられる	34.2	34.8	60.5	10.9	44.3	20.0	35.7	33.6	***
	14. 授業に熱心な教員が多く、理解しやすい	27.8	41.3	34.6	18.9	30.0	16.4	27.8	27.4	***
	4. 女性を意識した授業などが多い	45.8	66.3	60.5	24.4	53.6	30.9	39.7	54.7	***
	2. 教員と話す機会が多く、親しみやすい	24.9	27.5	40.0	16.4	21.4	27.3	22.0	36.4	***
	10. 比較的少人数の授業が多い	47.6	45.0	77.8	32.0	40.0	56.4	49.2	43.9	***
	11. 本学短期大学部用の就職枠あり有利だ	50.5	55.0	64.2	37.0	61.4	40.7	56.3	43.9	***
学生生活安心	9. 入学後、親しい友人を得やすい	71.7	68.8	72.5	72.7	62.9	69.1	79.2	70.8	
	5. クラスでの丹嶺宿舎がよい思い出	58.8	61.3	44.4	67.2	50.7	79.6	57.5	53.8	**
	8. クラス制は学校生活に慣れるのに役立つ	60.8	66.3	56.8	59.4	51.4	63.6	62.4	64.5	
	25. なんとなくホッとできる雰囲気がある	47.9	61.3	56.8	43.8	47.1	32.7	45.2	47.7	
	26. 体育祭や文化祭がよい思い出	47.0	48.8	42.0	45.7	50.0	61.1	48.4	40.2	
15. 同性ばかりなので周りを気せず自分出せる	57.8	61.3	69.1	64.1	52.9	58.2	52.4	48.6		
知識獲得	28. 希望する資格や免許を取得できる	63.0	56.3	45.7	94.5	25.7	74.5	77.8	44.9	***
	29. 専門科目では高度な内容の授業多い	47.0	43.0	48.1	50.8	22.9	41.8	63.5	43.4	***
	27. 職業に役立つ知識や技能を身につけられる	50.2	48.8	59.3	52.0	45.7	51.9	50.0	44.9	
	18. 幅広い教養を身につけることできる	47.6	61.3	59.3	40.6	48.6	32.7	44.4	47.7	*
30. 情報処理教育が充実している	45.6	57.5	51.9	40.6	57.1	23.6	47.6	39.3	***	
女性支援	22. 働いている先輩に話を聞き参考になる	22.3	22.8	43.2	18.8	22.9	21.8	14.3	19.6	***
	1. 同性の同学年や先輩・後輩の交流がある	33.1	41.3	33.3	30.7	40.0	50.9	31.5	17.8	***
	23. 女性として、将来の目標・課題の把握ができる	38.3	45.6	50.0	37.4	25.7	29.1	34.1	43.0	**
21. 留学制度が充実している	31.3	17.7	92.6	23.4	22.9	16.4	20.0	30.8	***	
施設	19. ゴミなど少なく施設きれいだ	65.8	72.5	71.6	67.2	75.7	56.4	53.2	68.2	
	20. 図書館やコンピュータなど充実している	87.4	96.2	85.2	83.5	92.8	74.5	85.7	92.5	*
クラブ	13. クラブ等自分たちで行い自立心を養える	21.3	30.4	27.2	12.6	18.6	38.2	19.8	15.1	***
	7. クラブでやりたいことが十分できる	8.1	15.2	4.9	1.6	8.6	30.9	6.5	2.8	***
志四向大	16. 四年制大学へ行った方がよかった	38.9	31.3	32.5	35.3	51.4	32.7	40.5	47.2	
	24. 本学四年制への編入枠を広げるべきだ (3. 異性が周りにいないのは、不自然だ)	46.5	30.0	29.6	38.3	52.9	50.9	62.7	56.1	***
	(17. 専門学校へ行った方がよかった)	12.7	7.5	5.0	11.7	14.3	12.7	11.1	24.3	***

※1. 「当てはまる」+「やや当てはまる」と答えた者の%。

※2. χ^2 二乗検定結果の数字の示し方などについては、表13と同じである。

※3. 太字、斜字については、表13の※3を参照のこと。

(6) 学生の満足度と短期大学教育への期待、その他

ここでは、フェイスシートで尋ねた、入学時および現在の「満足度」と、質問肢の最後で尋ねた「短期大学教育への期待」を中心に検討する。

1) 学生の満足度

i) 入学時と現在の満足度

入学時と現在（2007年、2年生の9月）における満足度を4件法で尋ねた結果が表18である。入学時に「満足」とした者は29.2%で約3割、「どちらかという満足」の44.7%を足すと73.9%となり、約4分の3が肯定的に答えている。現在の満足度は、「満足」31.8%、「どちらかという満足」46.5%で、いずれも入学時より2%ほど上昇し、その合計は78.3%であった。入学時においても肯定的率は高いのであるが、それほど明確な上昇は見られない。「満足」だけで見ても、上昇もごくわずかでしかなかった。

現在の満足度は入学時の満足度とつながっているのか、あるいは4大受験の有無や志望順位との関係あるかを確かめるため、現在の満足度とのクロスを行った（表18）。現在と入学時の満足度は関係が大きく、入学時と現在とで同じ評価が多い。少し詳しくみると、入学時に満足度の低かった者が、現在は肯定的な評価を行う比率は高くなっており、例えば入学時に「どちらかという不満」としていた者では、その6割が評価を上げ、「満足」（21.5%）あるいは「どちらかという満足」（38.9%）としている。その反面、入学時に「満足」とした者のうち、38.6%が評価を下げているのは気になる点である。入学前の4大受験の有無や志望順位が影響しているとかいうとそうではなく、これらとのクロスでは有意差は認められなかった。

表18. 入学時と現在の満足度のクロス

	合計	現在				入学時の満足度比率	
		満足	どちらかという満足	どちらかという不満	不満		
入学時	満足	189	116	59	10	4	189
		100.0	61.4	31.2	5.3	2.1	29.2
	どちらかという満足	289	56	171	55	7	289
		100.0	19.4	59.2	19.0	2.4	44.7
	どちらかという不満	144	31	56	48	9	144
		100.0	21.5	38.9	33.3	6.3	22.3
	不満	25	3	15	2	5	25
		100.0	12.0	60.0	8.0	20.0	3.9
	現在の満足度	647	206	301	115	25	647
	比率	100.0	31.8	46.5	17.8	3.9	100.0

χ^2 二乗検定

***: $p < .001$

ii) 学科別に見た満足度

次に学科と満足度の関連を見るため、入学前と現在とでそれぞれクロスしたものが表19である。その結果、学科と入学前の満足度とのクロスの検定で有意差はなかったのだが、現在の満足度とのクロスでは0.1%水準で有意差があった。「満足」との答えは、英語コミュニケーションで53.1%と唯一過半数を超え、入学時と比べると20%以上高くなってい

る。日本語文化と健康スポーツでも40%を超え、このカテゴリーの比率が他よりも高い。これに対しての「満足」との回答が最も低いのは幼児教育で15.7%、さらに人間関係の24.3%が続く。入学時と比べ、幼児教育では10ポイント下がっている。「やや不満」のカテゴリーでは、幼児教育30.7%、食生活25.2%と他より高くなっている。食生活は入学時とそれほど変わらない値であるが、幼児教育では「満足」が10ポイント下落した分、このカテゴリーで12ポイント上昇した。これに対して英語コミュニケーションは20ポイントも減少している。

幼児教育で「満足」が低下し、「やや不満」が増えた原因として考えられるのは、学生の多忙感である。資料5-2で示した、「短大の短所」に関する自由記述からも明らかなように、実習等での忙しさや実習期間と試験期間との関連などの要因が、「不満」との回答を増加させたと思われる。このアンケートを実施時期（9月）も、夏の実習や試験などによる多忙感、疲労感が強かった時期であったことも影響を与えているかもしれない。一方、英語コミュニケーションの学生は、全員が1年次後期にアメリカキャンパスへの留学を経験した後であり、そうした経験がかなり満足度を押し上げたと考えられる。

表19. 学科別に見た満足度（入学時と現在）

	入学時満足度				現在満足度			
	満足	やや満足	やや不満	不満	満足	やや満足	やや不満	不満
日本語文化	27.5	53.8	15.0	3.8	44.4	43.2	12.3	0.0
英語コミュニケーション	30.9	43.2	22.2	3.7	53.1	42.0	2.5	2.5
幼児教育	26.8	51.2	18.1	3.9	15.7	49.6	30.7	3.9
人間関係	25.7	41.4	24.3	8.6	24.3	54.3	14.3	7.1
健スポ	32.7	36.4	29.1	1.8	41.8	36.4	16.4	5.5
食生活	32.3	42.5	23.6	1.6	27.6	42.5	25.2	4.7
生活造形	29.0	40.2	26.2	4.7	29.9	54.2	12.1	3.7

χ^2 乗検定 ***: $p < .001$

ナシ

iii) 現在の満足度の規定要因（重回帰分析の結果から）

満足度を、個別の変数とクロスさせてみてきたが、全体としてどの要因が大きな影響を与えているかを確認するため、重回帰分析を行った（表20）。従属変数は「現在の満足度」で、満足を1、不満を4とする4件法で尋ねたもの。満足度が高いほど点数は低くなる。独立変数は「志望順位」、「高校時希望進路」、「入学時満足度」、「入学形態（ダミー）」、「6学科（ダミー）－健康スポーツを除く」⁶⁾、「学生生活7因子の得点」を採用し、これから3つのモデルをつくり、それぞれ分析した。VIF（Variance Inflation Factor）によって多重共線性を確認したところ、学生生活の第一因子においていずれのモデルも5.5前後となり、少し高い値ではあるが、10より小さく、他変数の符号にも影響はないとみられたので、これらのモデルを使用する。

モデル1では、「入学時満足度」と「入学形態」を除く変数が投入された。調整済決定

係数 (R²値) は 0.340 となり、統計的に有意であった。標準化係数が大きい変数は「学生生活安心」因子 (-0.314)、続いて「四年制志向」因子 (0.219) であり、ともに0.1%水準で有意であった。最も影響が大きかった「学生生活安心」因子は、「入学後親しい友人を得やすい」「クラス担任制は学校生活に慣れるうえで役立つ」「クラスでの丹嶺合宿がよい思い出」「なんとなくホッとできる雰囲気」「同性ばかりなので周りを気にせず自分らしさを出せる」などの項目から構成される。この因子得点が高い者ほど満足度が高くなっている (満足度は数字が低いほど満足の度合いが大きいので、係数はマイナスである)。次に大きな影響を持つ「四年制志向」因子の標準化係数はプラスであり、四年制大学への入学志向が強いほど、不満の度合いが強いことを示している。三番目に大きな影響をもつのは幼児教育 (0.183) であった。この場合、符号がプラスになっているということは、幼児教育学科所属の者ほど不満 (不満が強いほど得点が高い) との回答が多くなっていることを意味する。他学科では有意差はみられなかった。続いて5%水準で有意となった変数は「女性支援」因子 (-0.145) と志望順位 (-0.077) の二つであり、符号はともにマイナス、志望順位の重みは、女性支援の半分ほどである。「女性支援」得点が高い学生、

表20. 「現在の満足度」を従属変数とした重回帰分析結果

従属変数：満足度	N=609		N=609		N=608	
	モデル1		モデル2		モデル3	
	係数 (B)	標準化係数 (β)	係数 (B)	標準化係数 (β)	係数 (B)	標準化係数 (β)
独立変数 (定数)	1.858	***	1.443	***	1.358	***
志望順位 1：第一，2：第二，3：第三	-.088	-.077 *	-.142	-.125 **	-.129	-.113
高校時希望進路 1：大学，2：短大，3：他	.056	.043	.075	.058	.060	.047
入学時満足度 1：満足 ~ 4：不満			.230	.236 ***	.227	.234 ***
入学形態 (ダミー) 1：一般，2：推薦					.058	.034
日本語文化 (ダミー) 1：日文，0：他学科	-.074	-.031	-.074	-.031	-.067	-.028
英語コミュニケーション (ダミー) 1：英語，0：他学科	-.129	-.054	-.126	-.053	-.124	-.053
幼児教育 (ダミー) 1：幼児，0：他学科	.366	.183 **	.368	.184 ***	.363	.181 ***
人間関係 (ダミー) 1：人間，0：他学科	.065	.025	.070	.027	.053	.021
食生活 (ダミー) 1：食生，0：他学科	.221	.111	.225	.113 *	.232	.117 *
生活造形 (ダミー) 1：造形，0：他学科	-.013	-.006	-.007	-.003	-.010	-.005
第一因子 (学生支援) 得点	-.080	-.095	-.074	-.088	-.071	-.085
第二因子 (学生生活安心) 得点	-.281	-.314 ***	-.248	-.278 ***	-.269	-.303 ***
第三因子 (知識獲得) 得点	-.094	-.110	-.066	-.077	-.031	-.037
第四因子 (女性支援) 得点	-.126	-.145 *	-.120	-.138	-.123	-.143 *
第五因子 (施設充実) 得点	.052	.057	.043	.047	.018	.020
第六因子 (クラブ充実) 得点	.054	.058	.051	.055	.050	.054
第七因子 (四年制大志向) 得点	.202	.219 ***	.176	.190 ***	.181	.198 ***
重相関係数 (R)	0.597		0.635		0.646	
調整済み R ² 値	0.340 ***		0.387 ***		0.400 ***	

*** : p < .001, ** : p < .01, * : p < .05

すなわち学生生活の中で女性支援を感じた学生ほど、満足度が高いことを意味する。志望順位については、第一志望から第三志望までを設定し、1～3の整数を割り振っているの
で、符号がマイナスということは志望順位が高いほど満足度が低いこととなる。二変数の
クロスを見ても、 χ^2 二乗検定で有意差はないが、志望順位が低い者の方が、「満足」の割
合が高い傾向のあることを確認した。標準化係数の値は小さいながら、低い志望順位で入
学してきた者の方が、第一志望で入学した者より満足を得たこととなる。

モデル2は、モデル1に「入学時満足度」を投入し、モデル3はさらに「入学形態（推
薦・一般）」を加えたものである。モデル2の調整済み決定係数は0.387、モデル3では
0.400となり、ある程度の説明力をもつ。「入試形態」の標準化係数は0.034と小さく、ほ
とんど影響はない。モデル2、モデル3とも、有意差のある独立変数はほぼ同じなので、
ここではモデル3を検討する。

モデル1と同様、最も大きな影響を持つのは「学生生活安心」因子で、標準化係数は
-0.303であった。これに次ぐのが新たに投入した「入学時満足度」の0.234であり、入学
時の満足度は現在の満足度にも大きな影響をもっている。さらに「四年制志向」0.198、
「幼児教育」0.181の値が大きく、いずれも0.1%水準で有意となっている。この他、有意
差のあった変数を挙げると、標準化係数の大きい順に「女性支援」（-0.143）、「食生活」
（0.117）、「志望順位」（-0.113）となる。「食生活」はモデル1では有意差がなかった
が、モデル2とモデル3ではともに5%水準で有意となり、符号はマイナスなので、食生
活に所属する学生ほど満足との回答が少ない傾向がある。

モデル3の結果から、短期大学2年生の9月時点での満足度に影響を及ぼしているもの
を、以下のようにまとめることができる。

- ①変数の中で「学生生活安心」因子が最も大きな影響をもっており、学生生活全般にお
いて安心して過ごし、充実を感じている学生ほど満足度が高い。これと比べて程度は
下がるものの、大学での「女性支援」を高く評価している者ほど満足度が高いとい
うことも明らかになった。
- ②「入学時の満足度」は、現在の満足度に少なからぬ影響を与えており、入学時の満
足度が高いほど、現在の満足度も高くなっている。
- ③「四年制大学志向」を強く持つ学生ほど、現在の満足度が下がる傾向が強い。
- ④入学時に「志望順位」が低かった学生が、満足度を上げている。
- ⑤幼児教育の学生は、現在において不満とする傾向が強く、食生活でもその傾向が認め
られる。

2) 希望進路と短期大学教育への期待

卒業後の希望進路に関する質問を行ったところ、2年生の9月時点でもあり、未定の者

は少なかった。最も多いのはやはり「正社員・正職員」であり、68.2%であった（表21上段）。4年制への編入希望は本学が14.7%、他大学は3.7%で合計2割弱（18.4%）、専門学校4.2%、留学0.8%まで加えると23.4%となり、4人に1人が短大卒業後もさらに勉強を続けることを希望していることとなる。その他の割合は極めて低い。

現在、短大から4年制への編入数は、短大学科定員の15～25%ほどであり、編入受け入れが不可能な学科もある。そうした制限を除いた場合、本学4年制への編入希望がどれほどあるのかを知るため、「本学への編入がスムーズであれば」という条件をつけ、編入の希望を3件法で尋ねた（表21中段）。結果は三分され、「希望する」36.1%、「希望しない」30.1%、「どちらとも言えない」33.8%の割合であった。先述のように、フェイスシートで「入学時に編入を希望したか」と尋ねた結果が、「真剣に考えた」24.2%、「少し考えた」33.7%、「考えず」42.1%であったことを参考にすると、希望する者の割合は若干増える計算になる。しかしながら、希望しないとする者も3割以上はおり、編入枠を増やすなどしても、現実には経済面の懸念もあるので、それほど劇的に志願者が増すということはないであろう（本学では他大学からの編入は受け入れていない）。

最後に、「短期大学教育への期待」を尋ねた。10の選択肢をつくり、その中から3つまで選ぶことができる設問である。結果として、太線で囲った二つの選択肢の比率が他を引き離して多かった（表21下段）。一つは「資格・免許等の資格取得の充実」で47.5%、もう一つが「職業指導の充実」の44.4%であり、他の選択肢はすべて30%未満だった。短大教育には、やはり資格と就職への期待が大きいことが伺える。特に就職に関しては、「卒業後の就職支援」という選択肢も22.8%選ばれており、就職への関心は高い。他には学校行事の充実が27.9%、先に取り上げた4大への編入も26.0%で、4分の1ほどの者が期待として挙げている。教育では、専門教育の充実が24.1%と最も多く、教養教育の充実16.8%、語学教育の充実14.7%であった。

表21 卒業後希望進路、編入希望、短期大学教育への期待

卒業後希望進路	正社員	本学編入	他大編入	専門学校	非正規常勤	不定期	留学	未定	その他	
648	442	95	24	27	12	9	5	29	5	
100.0	68.2	14.7	3.7	4.2	1.9	1.4	0.8	4.5	0.8	
編入がスムーズな場合										
編入希望	編入希望	希望せず	どちらとも言えぬ							
612	221	184	207		上段：人数					
100.0	36.1	30.1	33.8		下段：%					
短大教育への期待	資格等の取得充実	就職指導の充実	学校行事の充実	4大編入の拡大	専門教育の充実	卒後の就職支援	教養教育の充実	語学教育の充実	職員の対応改善	少人数教育
619	294	275	173	161	149	141	104	91	76	73
100.0	47.5	44.4	27.9	26.0	24.1	22.8	16.8	14.7	12.3	11.8

*「短大教育への期待」については、3つまでの複数回答が可能

(7) 自由記述から

質問項目の中に8つの自由記述欄を設け、学生の率直な意見をできるだけ得ようとした。ここではそのうちの3つを取り上げ、簡単にその内容を述べていく。アンケートに答える時間が十分に取れなかった中で、百数十名の者が回答してくれており、問いの選択肢だけでは十分に拾いきれない学生たちの声を知ることができる。実際の回答については、資料3～5-2として掲載している。

1) 短期大学への入学理由

まず、上記(3)で取り上げた「短期大学への入学を決めた理由」についてである。そこで尋ねた質問項目、あるいはその他の理由を含めて短大への入学理由を自由に答えるように求めた(資料3)。113名から回答があり、それをキーワードにすると135ほどに分かれた。以下の記述で、()内はおおよその意見数を示す。

学力レベルや4年制大学受験の失敗など「学力・4大失敗」(20)といった理由、学びたい授業・内容や獲得したい専門性などの「学科・希望」(18)、さらには「資格獲得」(9)、「就職有利」(8)などの理由もさることながら、ここでは最も数が多く、どの学科にも見られる「短期・集中」(21)に注目したい。具体的には「2年間で4年制と同じくらいの勉強ができると思ったから」「短大の方が忙しいけど充実した学生生活を送れると思った」「2年間の方が内容の濃い授業が受けられると思った」「早く社会人になりたかった」「短い期間で資格がとれる」などで、2年間で準備ができる短期大学を積極的に選んだとする理由である。「早く社会に出て自立したかった」「2年で済むし、早く働きたかった」など「自立」をキーワードとした意見(10)は、先の「短期・集中」という言葉と一緒に使われることが多く、短大での教育を積極的に捉えている。この他、「経済的な理由」を挙げる意見も少なくなかった(15)。

2) 武庫川女子大学短期大学部への入学理由

(4)で取り上げた「他の短期大学ではなく本学の短期大学部に入学を決めた理由」を、自由記述で尋ねたものである(資料4)。この質問には137名の回答があり、そのキーワードの数は約202にのぼった。一番多かった理由は、「有名な大学だから」「よく名前が知られていたから」「有名だし評判がよかった」など、「知名度・伝統」(36)であり、他より断然多かった。先ほどの「短大入学理由」と同様、「授業・学科」(21)、「就職」(16)、「資格」(10)も多い。その他本学である理由としては、「自宅から近い」「通える」など「通学・場所の便利さ」(19)、「施設などが整っていてよい環境だと思った」「施設が充実している」「オープンキャンパスに来た時、めっちゃきれいだった」など「施設・設備」(15)が挙げられ、これらも評価されているようだ。学科の特徴では、英語コミュニ

ケーションではほとんどが「留学」を挙げており、健康スポーツでは「スポーツ」ができる、さらには「教師」からの推薦といった理由が多くを占める。

3) 短期大学の長所と短所

アンケート調査の最後に、「4年制大学と比べて、短期大学の長所および短所であると思う点はどのようなことですか」として、学生の自由な意見を書いてもらった。これについては、長所と短所に分けて検討していくこととする。まず長所である(資料5-1)。「短期間」であることを理由として指摘する意見が圧倒的に多かった。具体的には「短期間でいろんなことが学べる」「早く(2年で)自立できる(社会に出られる、就職できる、資格が得られる、卒業できるなど)」「短期間で集中的に学べる」などの意見であり、学科を問わず見られた。4年制に比べ、その半分の2年という短期間で資格や免許をとり、社会に出る準備ができることを最大のメリットと捉えている。その他のキーワードは分散しているのであるが、「資格」の取得(幼児教育に多い)や「就職」、「社会」に出るなど、「短期間」でできる内容に関するものが多い。「社会」という言葉も多く使われており、「就職」同様、早く一人前となり自立したいとの意志が背後にあるように思われる。さらには、「経済的負担の軽減」をメリットとして挙げた者も、多くはないがあった。

短所はどうか(資料5-2)。これについては意見にバラツキがあり、学科による差もあるようだ。どの学科にも共通して見られるのは、「短期間」ということである。具体的には、「短すぎて時間が足りない」「就活までの期間が短い」「短期間でやることが多い」「学べる期間が少ない」「遊ぶ時間が少ない」などといった理由が書かれていた。長所としても「短期間」での資格取得や早く就職できるなどが多く挙げられていたが、当時就職活動中で、1年生の終わりから準備にかかり、半年後に就職を控えた2年生9月時点での実感であろう。さらに「短期間」とも関わる「就職」に関する準備不足や、「4年制に比べ就職できる企業が限られる」「4大卒の求人が多い」など短大に対する「求人枠」狭さの指摘もみられた。またどの学科にもあるものの、特に幼児教育と食生活での比率が高いキーワードは「詰め込み」「多忙」である。「授業が詰まり過ぎてしんどくなる」「スケジュールが詰まり過ぎて就活ができない」「できないまま時間が過ぎることも多い」、あるいは「授業が詰め込まれている」「時間割が大変だった」などの言葉が並んでいる。できるだけ資格を取得したいが、そのための授業や実習が多く入り、実習が入った分、授業の補講が必要となり、夏休みや春休みも少なくなる。そうした中で、就職活動もしなければならぬ。これは武庫川女子大学短期大学部だけの問題ではないが、2年間という間での取得すべき単位や実習の多さ、就職活動の長期化は、多忙感、追い立てられている感覚を学生にもたらせている。

Ⅳ. 企業アンケートと高校生アンケートの結果

先にⅢでも述べたように、本研究は調査会社に委託し、企業と高校生を対象とするアンケート調査を行った。対象は以下のように設定した。企業アンケートでは、近年において本学短大生が複数就職した会社および幼稚園・保育所の人事担当者（幼・保は園長）とした。高校アンケートでは、近畿圏内に限定し、武庫川女子大学短期大学部に卒業生を送り込んでいる高校の3年生女子および、調査会社が独自に持っている高校3年生女子のモニターとした。

調査期間及び調査方法、回収率は以下の通りである。

・企業アンケート調査

方法：郵送法、 発送数：346、 有効回答数：167、 有効回答率：48.3%

（回答のあった167のうち、幼稚園・保育所は66で、39.5%を占める）

期間：2007年7月19日～8月10日

・高校アンケート調査1（本学短大に卒業生が入学している高校の高校生）

方法：郵送留置法、 発送数：880部（21校）、 有効回答数：678、

有効回答率：77.0%

期間：2007年8月24日～9月21日（アンケート実施前の7月、高校に調査協力依頼）

・高校アンケート調査2（近畿圏に住む高校生・調査会社のモニター）

方法：郵送法、 発送数：96、 有効回答：55、 有効回答率：57.3%

期間：2007年7月19日～8月10日

上に示した企業と高校を対象とする調査結果は既にまとめられているが（教育研究所2007a）、本節ではその中から短期大学に関わる質問内容の一部について、ごく簡単に紹介していく。

1. 企業アンケート

アンケートでは、企業の属性や採用学生の出身学科や人数の他、主として以下のような内容の質問をした。①女性の採用基準として、人柄以外に重視している項目、②今後の求人募集の予想（短大・4大別に）、③入社後に女性の4大卒と短大卒で職種や仕事内容を区別しているか、④女性の4大卒と短大卒の職務遂行能力に差があると思うか、⑤女性の4大卒と短大卒を比べたときの違い（21項目、5件法）、⑥今後の短大の教育内容に期待すること（11項目、4件法）、⑦武庫川女子大学短期大学部卒業生に対する評価（20項目、5件法）、⑧本学短大卒業生の特長、長所、短所（自由記述）、⑨本学短大の教育内容・学生指導についての要望（自由記述）

ここでは①、⑥、⑦のみを取り上げ、簡略にその結果を示す。⑧の自由記述、「本学短

大卒業生の特長、長所・短所」については、論文末の資料6に示している⁷⁾。

(1) 女性の採用基準

女性を採用する際の採用基準を尋ねる設問で、人柄の他に重視することは何かを、12項目（「その他」含む）の選択肢から複数回答（3つまで）で答えてもらう設問である。上位3つの選択比率が飛び抜けて高く、全体では「意欲・バイタリティ」74.3%、「一般常識」67.1%、「コミュニケーション能力」64.7%の順となる。幼稚園・保育所だけに限ってみれば、その割合はそれぞれ57.6%、69.7%、37.9%となり、「バイタリティ・意欲」と「コミュニケーション能力」は企業よりも低い数字となっている。

他の項目はすべて30%以下で、「資格・免許」26.3%、「専門分野の知識・技能」21.0%、「社会経験（アルバイトやインターンシップ）」13.8%と続き、さらに「学生時代の成績」8.4%、「文章力」6.0%、「語学力」0.6%となる。しかし、これらの項目が重要でないというのではなく、回答数を3つまでと限定したことで、最も重視されるべき項目に集中した結果である。「資格・免許」と「専門分野の知識・技能」については幼稚園・保育所の選択率が高く、それぞれ54.5%、42.4%であった。

まとめると、以下のようになる。「一般常識」は企業、幼・保ともに重視されている。企業のみ（幼・保を除く）では「意欲やバイタリティ」と「コミュニケーション能力」を重視する率が80%以上と非常に高い。幼稚園・保育所では、「一般常識」に次いで「意欲・バイタリティ」57.6%、さらに「資格免許」54.5%、「専門分野の知識・技術」42.4%の順となった。

(2) 短期大学教育の内容への要望

短期大学卒業生を採用するに当たり、「今後の短期大学教育の内容としてどのようなことを要望するか」を尋ねた。内容として11項目を挙げ、4件法（要望する、ある程度要望する、あまり要望しない、要望しない）で回答を求めた。ここでは「要望する」との回答比率のみに着目していく（百分率には、無回答も含まれているが、いずれの項目も5%未満とごく僅かである）。

多いのは、「社会人としての一般常識」63.5%、「規律やマナーなどの学生指導の充実」61.7%、「人間性や倫理意識」59.3%が上位の3つで、それ以下の項目とは10ポイント以上の差がある。第二グループは「キャリア教育の充実」37.1%、「文章力などの基礎学力」36.5%、「心身の健康についての教育」34.1%であった。さらに9ポイントの差があって、「専門知識・技術の充実」25.7%、「教養教育の充実」25.1%、「女性としての教育の充実」25.1%、「IT教育の充実」21.0%が続く。「英語など語学力の充実」は6.0%と最も低い。

先の(1)の結果と同じく、「一般常識」を筆頭に、「マナー」や「倫理意識」といった項目が上位を占め、謂わば人間としての基礎・基本が最も求められていると言える。とはいえ、これらは家庭や学校、社会における成長過程で徐々に身につけられるものでもあり、短期大学だけで獲得させることは難しい。こうした要望が強いということは、逆に言えば、これらの基礎力が身につけていないと考える人事担当者が多いということでもある。短大のみならず、大学にとっても大きな、難しい課題であり、大学教育ばかりでなく家庭との連携も視野に入れる必要がある。

「キャリア教育」「文章力など基礎学力」は30%以上、「専門知識・技術」「教養教育」「IT教育」などは20%以上あり、これらは大学で身につけることが目的とされる知識や技能であるが、一般常識やマナーよりもかなり低い数字となった。人間としての基礎・基本があり、その上に知識や技能が求められるということであろう。「心身の健康についての教育」も34.7%あるが、これは食事や睡眠、感情などをうまく自らコントロールできる力と見ることができ、一般常識や規律・マナーに近いものと位置づけることができるのではないか。

幼・保と企業の違いは、いくつかの項目で認められる。幼・保で「専門知識・技能」とした割合が48.5%となって、全体での数値の2倍近い数字であり、「文章力などの基礎学力」も48.5%で、やはり全体の1.5倍となっている。幼・保を除いた企業のみの数字と比べれば、その差はさらに大きくなる。幼・保の「一般常識」の選択率は72.7%で、職種別で見ても最も高い数字であった。

ここで見てきたのは、あくまでも就職先の企業（幼・保含む）からの要望である。そうした要望は重要ではあるが、高等教育機関として、あるいは武庫川女子大学として身につけてもらいたいものは必要であり、そのバランスをうまく取らなければならない。

(3) 本学短期大学部卒業生の評価

近年就職した短期大学部卒業生について、忌憚のない評価を得るため、20項目を示し、5件法（優れている、やや優れている、どちらでもない、やや劣っている、劣っている）で問うた。先の(1)、(2)で検討した「採用基準」や「教育内容への要望」で尋ねた項目を含めて尋ね、本学の卒業生がどれほど期待に込めているかを問うものである（ここでも百分率に無回答を含めているが、いずれの項目も8%～6%である）。

「優れている」との回答は、全ての項目で25%以下と低かったので、ここではこれに「やや優れている」の%を加えた数字を目安として見ていく。参考として、()内には「優れている」のみの%も示した。一番評価が高かった項目は「明るさ」67.1(24.0)%、続いて「仕事への真摯な取り組み」66.5(23.4)%、「協調性」64.7(22.2)%であり、()内に示した「優れている」の数字でも、この3項目のみ20%以上であった。これら

が、本学短大卒業生に対して高く評価されている項目である。さらに、「マナー」60.5 (12.6%)、「身だしなみ」60.5 (13.2) %、「仕事への向上心」57.5 (14.4) %、「周りへの配慮」50.3 (12.0) %と続く。

先に(1)の「採用基準」で多かった答えは、「意欲・バイタリティ」「一般常識」「コミュニケーション能力」であった。これらの項目の評価を見ると、「意欲・バイタリティ」は49.1 (11.4) %、「一般常識」43.1 (6.0) %、「コミュニケーション能力」47.3 (12.0) %と、それほど高い数字ではない。特に「一般常識」の評価は43.1%ではあるが、「優れている」とする評価に限ると6%に過ぎない。「基礎学力」44.9 (6.6) %、「専門的知識・技能」33.5 (4.2) %、「論理的思考」31.7 (5.4) %、「IT操作能力」22.8 (2.4) %、「リーダーシップ」22.8 (3.0) %などは、大学で身につけることを期待される項目であるが、これらの数字をどう読むかは難しいところである。「優れている」との評価だけ見れば、非常に厳しい評価である。

幼・保と企業の差を見ると、「専門的知識・技術」において幼・保は45.5 (7.6) %となり、全体の数字よりも12ポイント高くなっている。他の項目ではそれほど差異はない。

2. 高校生アンケート

高校生調査1)と2)のサンプルに重複はなく、これらをまとめて分析している。サンプルは近畿圏内(主に兵庫と大阪)の高校3年生で、進学を希望している女子生徒である。

この調査では、①進学目的、②進学先選びで重視すること、③進学希望の学問系統、④取得したい資格・免許、⑤高校卒業後の進路希望、⑥短期大学進学希望の理由(短期大学進学希望者のみ)、⑦短期大学を希望しない理由(短期大学への進学を希望しない者のみ)、⑧武庫川女子大学および短期大学部のイメージ、を尋ねた。本節では、⑥、⑦、⑧のみを取り上げる。

(1) 短期大学進学希望の理由

「短期大学を希望する理由はどのようなことですか」との問いに対して16項目を設け、4件法(あてはまる、ややあてはまる、あまりあてはまらない、あてはまらない)で答えを求めた。この質問では、本学の短期大学生アンケートで同じ理由を尋ねた質問(5件法)と共通する項目を多く採用している。これに答えた高校生サンプルは、4年制との併願を含めて短期大学進学を希望する者に限定した242名で、内訳は「短期大学のみ志望」61名、「大学との併願」121名、「専門学校との併願」34名である。なお、この質問では無回答率が約25%あるため、無回答を除いた回答者を分母とした百分率を使用する。

「あてはまる」と答えた者の%を見ていくと、「2年間で取得したい資格や免許を取れ

る」が42.8%と最も多く、他と15ポイント以上の差がある。次に、「できるだけ早く働きたい」26.6%、「4年間学ぶより2年で集中的に学びたい」26.3%、「学費などの面で4年制進学が難しい」24.0%といった項目が続く。短期大学生への調査でも、一番多かった答えは「短い期間で希望する資格や免許を取得できる」であり、高校生調査の結果と一致している（表12参照）。「早く社会に出たかった」も同様に、短大生調査でも非常に比率の高い項目であった。「4年間学ぶより2年間で集中的に」との質問は短大生調査にないが、「2年間で資格や免許取得」「早く社会に出たい」の意味に近いのではないかと。「学費の面で4年制進学は難しい」については、短大生調査と選択肢が異なるので比較は困難だが、「あてはまる」とする比率は高校生調査の方が大きいようだ。

続いて高校生調査で比率の高い項目は、「自分の学力では4年制に進学が難しい」18.4%、「学びたい学科が短大にしかない」17.5%、「専門学校より社会的評価が高そう」14.8%、「推薦入学など4年制より入学が簡単そう」12.7%などの項目が続く。それ以外の項目は全て10%未満となる。

このように見えてくると短大進学理由は大きく二分される。一つは「2年間で資格や免許」「2年間で集中的に」「早く社会に出たい」のように、短期高等教育を肯定的に捉え、それを利用しようとする積極的な選択であり、もう一つは「自分の学力」「専門学校より社会的評価」「推薦入学など入学が簡単そう」といった消極的な選択である。

上の問いに続き、「短期大学卒業後に4年制大学へ編入したいと思うか」を、3件法（編入したい、したくない、わからない）で尋ねたところ、「編入したい」との回答は19.6%（無回答を除く）であった。本学短大生調査の場合、受験時に編入を「真剣に考えた」「少し考えた」「考えなかった」で尋ねたのだが、「真剣に考えた」とする者の割合は24.2%であった。少なくとも、2割前後にそうした希望はある。

さらに重ねて、「奨学金などの充実により学費や生活費の負担が解消されたと仮定して、希望進路を変えるか」を尋ねると、「4年制大学を希望する」へと進路を変えた者が18.2%、「短大希望で進路を変えない」者が53.6%、「どちらともいえない・わからない」28.2%となった。短大への進学希望を変えない者が過半数おり、明確に4年制大学への進学に乗り換える者は2割弱と少ない。

（2）短大進学を希望しない理由

この調査では、短期大学進学を希望しない者、すなわち4年制進学希望者、専門学校進学希望者にもアンケートを行っているので、彼女たちが短期大学への進学を希望しない理由も尋ねている。対象は491名で、このうち4年制大学のみ志願者が317名と、全体の約65%を占める。「短期大学を希望しない理由はどのようなことですか」と質問し、13項目について4件法（あてはまる、ややあてはまる、あまりあてはまらない、あてはまらない

い)で答えを求めた。この質問では無回答が15%前後あるので、これを除いた回答者のみを対象とし、「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計比率を見ていく(「あてはまる」のみの比率は()内に示した)。

「希望する専攻分野がない」53.3(34.4)%、「取得したい資格が取れない」47.8(32.0)%の二つが多い。「あてはまる」だけに限定すると、比率は他と比べ15ポイント以上の差となる。これらは短大にはないもの、短大では取得できないものであり、至極当然の答えである。その他、割合の高い項目を順に拾うと、「専門知識・技術が身に付きにくい」42.8(17.0)%、「短大卒では専門教育や学歴でも中途半端」37.2(13.6)%、「短大卒では就職に弱い」35.7(13.7)%、「親や周りが短大への進学を勧めない」35.5(15.5)%、「女子ばかりのイメージがある」30.0(12.7)%となる。答えは同じような率で分散しているものの、本音に近い理由が出ているように思える。「専門知識・技術が身に付きにくい」「就職に弱い」「専門教育や学歴が中途半端」と、短大を否定的に捉える見方が並ぶ。また、「親や周りが勧めない」の割合が35.5%で、少なくない数字となっているのも目を引く。親を含めた周りの意識が少なからず変化しているようだ。さらに、「女子ばかりのイメージ」が希望しない理由として挙げられることは、共学校を望んでいるとも取れる。この他の項目の比率は30%未満となる。

(3) 武庫川女子大学・短期大学のイメージ

調査対象の高校3年生女子は、兵庫県が約7割、大阪府を含めると9割となる。本学に卒業生が入学している高校の在籍生であり、ほとんどの回答者が本学の名前くらいは知っていると思われる。そこで、「次の項目について、武庫川女子大学および短期大学部のイメージとしてあてはまるものはどれですか」として23項目を設け、あてはまるものにすべてに○を付けてもらった。本学短期大学部に対するイメージではなく、4年制を含む武庫川女子大学全体に関するイメージである。対象者は733名、無回答の割合が46.4%と半分近かったが、これも事実であるので、無回答340名を含んだ733名を母数とする比率で見ていく。

本学に対して持つイメージで最も多いものは、「キャンパスがきれい」26.7%であった。キャンパスガイドやパンフレット、インターネットを通じて、あるいは調査時期が8月末から9月なのでオープンキャンパス参加を通じて知った者もあるだろうが、外見的印象が最も強く働いている。続いて「学部・学科の種類が豊富」が17.9%となっており、理系から文系、芸術系まで、あるいは教養系学科から実務系学科まで幅広い、総合的な大学であることが認識されている。「女性のための教育が充実」15.7%、「施設・設備が充実」13.8%がこれらに続く。「女性のための教育が充実」という項目がなぜ選ばれたのかは不明であるが、女子大学であることも関係していると推測できる。あるいはキャンパスガイ

ドや HP でのアピール文言が印象に残っているのかもしれない。いずれにしろ、こうしたメッセージがある程度伝わっていることが確認できる。「施設・設備の充実」も、マルチメディア館や図書館、フォートライトキャンパスの充実など、本学が力を入れているものの一つである。この他、「在学生の雰囲気、校風がよい」11.1%、「歴史・伝統がある」「就職状況・就職先がよい」がいずれも10.8%であり、こうした印象も比較的もたれているようだ。

各種媒体を通じて教育内容の充実についても発信しているのであるが、「IT教育が充実」「実習が充実」「少人数教育が充実」「語学教育が充実」といった教育内容に関する項目の選択比率は5%以下にとどまっている。生徒たちはこうした事柄への関心が乏しいのか、あるいは本学への入学を本格的に検討し始めてから詳しく調べるのかもしれない。こうした内容はインパクトをもって伝えられにくい内容であるとも言えようか。本学が力を入れてアピールしている「資格や免許取得に有利」も7.8%にとどまっている。

兵庫県と大阪府を中心とする女子高校生が対象であるとはいえ、国公立大学、共学大学など数ある大学の中の一大学の印象を尋ねたのであり、情報の選択権は高校生側にあるのだから、それほど高い認知度は期待できない。そうした中で、ある程度の認知度があるとは言えよう。ただ、もっとアピールしたくとも伝わっていない項目もあるので、伝達の仕方にはさらなる工夫が必要であろう。

V. まとめを代えて

1. 日本における短期大学の位置づけ

短期大学を取り巻く状況は厳しい。女子の短期大学への進学率が停滞し、4年制への進学率が伸びるようになった頃から、その将来を見据えて調査がされ、今後の短期大学のあり方について研究がなされ、議論がなされてきた⁸⁾。最もよく引用される提案は、現状にアメリカのコミュニティ・カレッジなどを参考にして、短期大学を高等教育の「ファーストステージ」として位置づけ、それをステップとして多様な選択肢につなげる、あるいは生涯学習、リカレント教育の拠点として位置づけようとする館ら（1998、2002など）のものであり、大いに参考となる情報が提示され、議論がなされている。しかしながら、日本とアメリカ、あるいは他の諸外国との高等教育を取り巻く現状や歴史は大きく異なる。例えば、アメリカでは私立の2年制短期大学も多いものの（721校-2010年、NCES）、公立のコミュニティ・カレッジの数はそれを上回り（1163校、公立のみだと993校-2011年統計、AACCC）、州によって独自のシステムをもつ場合も多い。納税者が高等教育にアクセスし、学習する機会を保障する機関として、公立のコミュニティ・カレッジが設けられているのである。日本の短期大学は私立がほとんどを占め（全387校中、私立は363校で、全

体の93.8% -2011年、文部科学省)、授業料も高く、専攻も偏っている。日本には短期大学以外の高等教育機関として、専門学校や専修学校などが多くある。これらは職業準備の教育機関であり、ほとんどが私立である。教養や趣味を習う場としては、カルチャーセンターや各種教室などが発達している。また、アメリカでは大学への編入学を準備する場として、あるいは補習の場として短期大学が機能することも多いが、日本では大学間の移動は制限されており、編入学の規模も小さい。特に短期大学を経由して威信の高い大学に入るとは極めて稀である。こうした歴史的経過を含めた様々な違いを踏まえて議論しないと、どんな優れた構想も絵空事になってしまう。アメリカのようなシステムにしようとするならば、国が主体となって極めてドラスティックな変革が必要となり、時間もかかる。そうした議論がされている間にも、短期大学は急速に減少し、その定員充足率が低下していったのは、「I 短期大学の動向」でみた通りである。広い視野を持った将来構想が大切なことは当然であるが、もう一方では、各大学が現状を分析し、現実的な視点からできる改善に取り組み、対応していく努力が求められている。

2. 本学の取り組み

本報告では、そうした改善への取り組みの一環として行った、本学短期大学生へのアンケート調査を中心とする調査研究の結果を示してきた。都市部に位置し、伝統もあり、4年制大学と併設されている本学の短期大学部は、他の短期大学から見ればまだ余裕があるように見えるであろうが、とても楽観視できるものではない。むしろ厳しいとの状況認識があったからこそ、2007年に本学短期大学調査を行うこととなったのである。なぜ4年制ではなく短期大学に進学するのか、何を求めて短期大学に進学するのか、なぜ本学の短期大学部なのか、その魅力はどのようなことなのか、本学短期大学部での学生生活はどのようなものだったのか、どのような点に満足し、何を不満と思っているのか。学生へのアンケートを通じて、こうした様々な点について現状を把握し、そうした事実をもとにして様々なレベルでの改善策を提言し、短期大学部の改革を図っていかうとしたのである。

はじめに述べた通り、アンケート調査結果は2007年11月、理事会にて報告され、12月には短期大学改善案をまとめて提出した。これを受けて短期大学改革委員会が設けられ、学科長他の委員が任命されて議論するとともに、各学科、他の各種委員会等で短期大学改善のための話し合いがもたれた。そうして、可能なものから改革・改善が行われており、現在も進行中である。本学のように4年制大学と短期大学が併設されている場合、2年間と在学期間が短く、入学志願者や定員が減少している短期大学への関心が薄れやすく、その一方で、定員も大きくなり、主体となってきた4年制大学への関心が強まる傾向にあるのではないかと考える。そうした中で、本調査の実行とその報告は、短期大学の存立意義を見直し、現状を直視する機会になったのではないかと考える。

現在、議論がなされ、進行中の改革も多く、その改革の全体構造を示すことはできないが、いくつかの具体例を示すことは可能である。例えば、本学短大のメリットの一つは4年制への編入枠をもつことなので、その編入枠の拡大や手続きのあり方を含め、議論がなされている。広報についても、結果として4年制大学中心のパンフレット（キャンパスガイド）となっていたとの反省から、短大の魅力を4年制と同等にアピールするなどの改善がなされている。アンケートの中で出てきた不満点に関しても、できるところから改善を行い、不満が出にくい仕組み、サポート体制を取るような努力が各学科で進行中である。今日、同じアンケートをとれば、少し違った結果になるかと思われる。さらには、短期大学学生にゼミのような学習機会をつくる試みなども始まっている。本学のもつメリット、リソースを自覚し、様々な取り組みが展開されていくことを期待している。

3. 今後に向けて

「早く社会に出たい」「2年間で集中的に学びたい」と思い、短期大学への入学を希望する学生たちは確実にいる。あるいは十分に学力はあっても短期大学に進学せざるを得ない学生もいる。様々な事情を抱えた学生たちが短期大学には在籍しているのである。企業や幼稚園・保育所での採用も、4年制大学卒一辺倒になっているわけでは決してなく、力のある学生であれば就労年限も長い短期大学卒業生を雇用しようとする意欲はある。しかしながら、そうした現実よりも、これからは「進学するなら4年制大学」という意識が、学生だけでなく、親や教師にも植えつけられてしまっているのかもしれない。

高等教育の多様性を担保するものとして、高等教育のファーストステップとして短期大学は重要である。完結する教育だけではなく、各種機関とさらに連携する、あるいは18歳人口が減少する中で大人の学習者を受け皿とする生涯学習やリカレント教育の場としての可能性を十分にもっている。しかし、そうした実現のためには授業内容や授業料をどうするか、どれだけ公的補助を提供できるか、他大学への編入を拡充できるかなど、現実には様々な課題と問題が横たわる。本報告は本学の学生を中心とする調査の分析であったが、ここで取り上げたような足元にある具体的な課題を直視して、その対応を考えることがまずは肝要である。しかしそればかりではなく、将来に向けたより大きな構想・見取り図を全国レベルで考えながら、より多角的に短期大学について考えていく必要がある。

注

- 1) 例えば、日本私立学校振興・共済事業団は、2006（平成18）年度の文部科学省委託研究報告として『大学経営強化の事例集』（2007）を出版している。これは国公立大学、短期大学すべてを対象とするものであるが、大学設置基準の緩和などで大学経営環境が厳しくなる中、経営基盤強化の取り組みを行い、成功した事例を取り上げて紹介

し、各大学の自主的な取り組みを促すとともに、支援しようとするものである。短期大学では、目白大学・短期大学、修紅短期大学、高崎商科大学短期大学部、金城大学・短期大学部、聖和学園短期大学、北海道武蔵女子短期大学、名古屋柳城短期大学が取り上げられている。

また、文部科学省は2003（平成15）、2004（平成16）年度より、大学や短期大学を対象に優れた教育改革の取組を選び、それを支援するとともに、そうした取組についての情報を広く情報提供しようとしてきた。いわゆる GP（Good Practice）プログラムである。「特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）」、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）」、「質の高い大学教育推進プログラム（教育 GP）」などが行われてきた。その中に、短期大学の取組も多く紹介されている。その内容については、文部科学省の「GP ポータル」サイト（<http://gp-portal.jp/src/ippan/home.cfm>）、あるいは、財団法人文教協会の HP にも開設されている（<http://www.bunkyoakyokai.or.jp/gp/view.cgi>）。

- 2) 短期大学の定員充足率は、学科系統によって少なからず異なる。調査時の2007年と2011年の充足率を比べてみる（私学経営情報センター 2011）。全国の合計では、2007年 91.0%、2011年には89.6%であった。過去5年で、最も定員充足率が高い学科系統は保健系であり、2007年に95.2%、2011年には101.7%となっている。幼児教育などの教育系は、2007年-97.3%、2011年-99.7%で他と比べて高い数字を維持している。とはいえ、2009年のみ84.3%と全国での平均を下回った。ちなみに、短期大学に多い家政系では、2007年-85.6%、2011年-84.8%という数字である。
- 3) 1996年度を基準に比較を行うつもりでいたが、18歳人口の増加に伴い、1992（平成4）年から1999（平成11）年までの7年間の予定で、短期大学でも臨時定員増が認められたという事情があったため、急きょ1991年の定員を入れることとした。そのため、表3と表4に1991年度の「共学有無」がなく、いびつな形になった。「共学有無」については、1991年度においては、兵庫県、大阪府とも1996年度と同じだと思われる。表3の近畿大学豊岡短期大学は、1989年に共学されている。
- 4) 藍野学院も4年制大学を創設したのであるが、短期大学の定員も増加させた点で例外的である。この大学は、看護・医療に特化した大学・短大であり、看護系学部・学科の人気が続く中で、2007（平成19）年には短大に第二看護学科を設置するなど、定員の拡大を図っている。
- 5) 「短期大学への入学理由」、「武庫川女子大学短期大学部への入学理由」「短期大学の長所と短所」については、それぞれ自由記述欄を設けて学生の意見を尋ねている。意見をすべて書き出し、それらにキーワードをつけてまとめ、一覧表にしたものが資料3～資料5-2である。自由記述欄の整理とキーワード付けについては、2007年度当時、教育

研究所の助手であった藤村真理子さんと藤原綾子さんが主として行い、安東が修正をした。前二者については、概数であるが、表中にキーワード数も示している。

- 6) 7学科すべてをダミー(0, 1)で投入すると、多重共線性の問題が出てくる。そこで、いくつかの組み合わせを実施した中、標準化係数が最も小さかった健康スポーツを除くこととした。
- 7) 企業アンケートから得られた卒業生に対する意見を書き出し、キーワードを付けてまとめたものが資料6-1～6-3である。このキーワードの抽出と表の作成は、教育研究所助手の末吉あきさんに行ってもらい、教育研究所長の友田と安東も加わり検討をした。社会人となった本学短大卒業生を身近でよく見ている企業や幼稚園・保育所の担当者からの貴重な意見なので、整理して掲載することとした。
- 8) 短期大学については、いくつかの重要な調査研究がなされている。大きなインパクトを与えた研究として、高島・館編の『短大ファーストステージ論』(1998)がある。これは平成6(1994)年に設立された短期大学基準協会の「調査研究委員会」を中心に行われた諸研究をまとめたものである。短期大学への進学率がピークを過ぎ、4年制への女子進学率が上昇していく中、「短期大学の衰退」が言われ始めていたころ、また高等教育の構造転換が議論される中で、アメリカなどの前期高等教育を参考にしながら、短期大学を高等教育の「ファーストステージ」として位置づけ、様々な可能性をもつことを教育機関としての在り方を提示した。短期大学基準協会ではその後も研究を継続して行い、2000年に出された報告書『先進5カ国における短期高等教育の現状と動向の調査研究』では、イギリス、アメリカ、カナダ、ドイツ、フランスの短期高等教育が調査され、その動向や特質についてまとめられている。この成果は、館編『短大からコミュニティ・カレッジへ』(2002)として出版され、日本における今後の短期大学の在り方に対する示唆を与えている。さらに2005年には、短大ファーストステージ論を土台として、9短期大学の卒業生を対象とした調査を行い、『短大卒業生の進路・キャリア形成と短大評価調査研究報告書』をまとめた。そこでは短大卒業生の社会における活躍の実態と、短期大学教育への評価を明らかにし、今後の短大教育発展の方向を探っている。

引用・参考文献

- 安東由則 2009、「『女子大学』に関する意見の因子分析：女子大学生への調査と他大学調査との比較」『研究レポート』(武庫川女子大学教育研究所) 39号、pp.1-29.
- 学習研究社 2010、『2011年度用短大受験案内』学習研究社
- 原書房 2005、2010、『全国学校総覧 (2006年度版・2011年版)』原書房
- 日本私立学校振興・共済事業団 2007、『大学経営強化の事例集』日本私立学校振興・共済事業団

武庫川女子大学教育研究所 2007a、『武庫川女子大学「短期大学に関する調査」結果報告書<企業編・高校編>』武庫川女子大学教育研究所（進研アドへの調査委託研究）
武庫川女子大学教育研究所（研究代表：友田泰正・安東由則） 2007b、『女子大学の存立意義に関する調査研究報告書』武庫川女子大学教育研究所
晶文社 1991、1996、2000、『全国短期大学受験案内（'92年度用、'97年度用、'01年度用）』晶文社
高島正夫・館昭編 1998、『短大ファーストステージ論』東信堂
短期大学基準協会調査研究委員会（代表：高島正夫） 2000、『先進5カ国における短期高等教育の現状と動向の調査研究報告書』短期大学基準協会
短期大学基準協会調査研究委員会（編集：吉本圭一） 2005、『短大卒業生の進路・キャリア形成と短大評価』短期大学基準協会
館昭編 2002、『短大からコミュニティ・カレッジへ』東信堂

<ネット資料>

American Association of Community Colleges (AACC) H.P. (<http://www.aacc.nche.edu/AboutCC/Documents/FactSheet2011.pdf> 2012月1月20日アクセス)
文部科学省『学校基本調査』文部科学省HP (http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm 2011年11月～2012年1月アクセス) 及び、統計センター「政府統計の総合窓口」HP (<http://www.e-stat.go.jp/> 2011年11月～2012年1月アクセス)
文部科学省「GPポータル」サイト (<http://gp-portal.jp/src/ippan/home.cfm> 2012年1月)
National Center for Education Statistics (NCES) H.P. (http://nces.ed.gov/programs/digest/d10/tables/dt10_275.asp 2012月1月20日アクセス)
私学経営情報センター（日本私立学校振興・共済事業団） 2011、『平成23（2011）年度私立大学・短期大学等入学志願動向』日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター (http://www.shigaku.go.jp/files/nyuugakushigan_2011.pdf)
文教協会「大学教育改革プログラム選定取組一覧」(<http://www.bunkyokeyokai.or.jp/gp/view.cgi> 2012年1月アクセス)
各短期大学（表3、表4に掲載した兵庫県および大阪府）のホームページ（2011年12月～2012年1月にアクセス）…大学数が多いので、アドレスについては省略する。

資 料

- 資料 1 武庫川女子大学短期大学部 2 年次生用調査票（2007年 9 月実施）
- 資料 2 学生調査における三つの因子分析結果
（短期大学入学理由、武庫川女子大短期大学部入学理由、学生生活）
- 資料 3 学生調査・自由記述 1：短期大学入学理由
- 資料 4 学生調査・自由記述 2：武庫川女子大学短期大学部入学理由
- 資料 5 - 1 学生調査・自由記述 3：短期大学長所
- 資料 5 - 2 学生調査・自由記述 4：短期大学短所
- 資料 6 - 1 企業調査・自由記述 1：本学短大卒業生の長所（図あり）
- 資料 6 - 2 企業調査・自由記述 2：本学短大卒業生の短所
- 資料 6 - 3 企業調査・自由記述 3：本学短大卒業生の特長

資料1 武庫川女子大学短期大学部2年次生用調査票(2007年9月実施)

以下のⅠ～Ⅵの問いについて、あなたがあてはまると思う番号に○をつけ、自由記述欄には率直な意見をお書き下さい。

Ⅰ. 最初に、あなた自身についてうかがいます。当てはまる番号に○を付けて下さい。

1 あなたが所属している学科は次のどれですか。

1. 日本語文化学科 2. 英語コミュニケーション学科 3. 幼児教育学科 4. 人間関係学科
5. 健康・スポーツ学科 6. 食生活学科 7. 生活造形学科

2 あなたの自宅(実家)がある地域は次のうちどれですか。

1. 兵庫 2. 大阪 3. 1、2以外の近畿地方(三重県含む) 4. 中国・四国地方
5. 九州・沖縄地方 6. 中部地方 7. その他()

3 あなたの出身(実家のある)市町村の規模はどのくらいですか。

1. 100万人以上の大都市 2. 1以外の阪神間の都市(芦屋・西宮・尼崎・宝塚・伊丹・川西) 3. 30万以上、100万人未満の都市
4. 10万以上、30万人未満の都市 5. 10万人未満の都市 6. 町・村
(※「2」に該当する方は、「3」「4」「5」を選択せず、「2」を優先させて下さい。)

4 あなたは現在、次のどこから通学をしていますか。

1. 自宅 2. 親戚の家 3. アパート・マンション 4. 下宿
5. 大学の学生寮 6. 民間の学生寮 7. その他()

5 あなたの出身高校の設置主体(者)は次のうちどれですか。

1. 私立 2. 公立(都道府県立・市立) 3. 国立

6 あなたの出身高校は共学でしたか、女子校でしたか。

1. 女子校(本学附属) 2. 女子校(本学附属以外) 3. 共学校 4. 共学だが男女別学(女子クラス)

7 高等学校であなたが卒業したのは次のどれですか。

1. 普通科 2. 専門学科 3. 総合学科 4. その他(大学検定や通信制、定時制の場合はここに○をして下さい)

Ⅱ. あなたの大学受験について尋ねます。当てはまる番号に○を付けて下さい。

1 あなたの武庫川女子大学短期大学部への入学形態は、次のどれでしたか。

1. 一般入試(センター試験除く) 2. センター試験入試 3. 内部推薦(附属高校) 4. 公募制推薦入試
5. 自己推薦入試 6. 指定校推薦入試 7. スポーツ推薦入試 8. その他()

2 高校卒業後、あなたが最も望んだ進路は次のどれでしたか。

1. 4年制大学進学 2. 短期大学進学 3. 専門学校進学 4. その他() 5. 特になし

3 あなたは4年制大学を受験しましたか。

1. 受験した 2. 受験しなかった

4 上の質問3で、「1. 受験した」と答えた方に尋ねます。あなたは武庫川女子大学(4年制)を受験しましたか(併願を含む)。

1. 受験した 2. 受験しなかった

IV. あなたが武庫川女子大学短期大学部に入学した理由について、あなたの気持ちに近いものを率直にお答え下さい。

	あ て は ま る	あ や あ て は ま る	な い ら ち ら で も	あ ま り は ま ら な い	あ て は ま ら な い	
1. 建学の精神、教育理念に共鳴したから	5	4	3	2	1	①
2. 自分の学びたい学科や専攻があったから	5	4	3	2	1	
3. 就職率がよいと聞いたから	5	4	3	2	1	
4. 教育に力を入れていると聞いたから	5	4	3	2	1	
5. 自分の偏差値（成績）にあう大学だったから	5	4	3	2	1	⑤
6. 伝統のある短期大学であるから	5	4	3	2	1	
7. よく名前を知られている短期大学であるから	5	4	3	2	1	
8. 自宅から通学できる距離にあったから	5	4	3	2	1	
9. 4年制大学もある総合的な大学であるから	5	4	3	2	1	
10. 推薦入学制度を利用できたから	5	4	3	2	1	⑩
11. 施設や設備がきれいで充実していると思ったから	5	4	3	2	1	
12. 様々な資格や免許を取得することができるから	5	4	3	2	1	
13. 大学の学生寮があったから	5	4	3	2	1	
14. 自分が得意な科目で受験することができたから	5	4	3	2	1	
15. 阪神間の都市部にあるから	5	4	3	2	1	⑮
16. 情報教育に力を入れていると聞いたから	5	4	3	2	1	
17. 独自の海外施設をもつなど、留学制度に魅力を感じたから	5	4	3	2	1	
18. 幅広い教養を身につけることができるカリキュラムがあるから	5	4	3	2	1	
19. 家族や親戚など身近に、本学出身の人がいたから	5	4	3	2	1	
20. 武庫川女子大学（4年制）への編入ができと思ったから	5	4	3	2	1	⑳
21. 親や家族に勧められたから	5	4	3	2	1	
22. 高校の先生に勧められたから	5	4	3	2	1	㉒

あなたが他の短期大学ではなく、本学短期大学部に入学を決めた理由は何ですか。上の項目、その他の理由を含めて、自由にお書き下さい。

V. 武庫川女子大学短期大学部での生活を振り返って、次の各項目についてあなたの率直な感想をお聞かせ下さい。

	あ て は ま る	あ や は ま る	な ら ず も	あ ま り な い	あ て は ま ら な い					
1. 同性の同学年や先輩・後輩の交流があり、参考になる	5	—	4	—	3	—	2	—	1	①
2. 教員と話す機会が多く、親しみやすい雰囲気がある	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
3. 異性が周りにいないのは、不自然だと思う	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
4. 女性を意識した授業、女性として関心が高い授業が多い	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
5. クラスでの丹後合宿がよい思い出になっている	5	—	4	—	3	—	2	—	1	⑤
6. きめ細かい就職指導を受けることができる	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
7. クラブでやりたいことが十分できる	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
8. クラス制（担任制）は学校生活に慣れる上で役に立つ	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
9. 入学後、親しい友人を得やすい	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
10. 比較的少人数の授業が多い	5	—	4	—	3	—	2	—	1	⑩
11. 武庫川女子大学短期大学部用の就職枠があつて有利である	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
12. 職員の対応が親切である	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
13. クラブや自治会など、全部自分たちで行わなければならないので、自立心が養われる	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
14. 授業に熱心な教員が多く、理解しやすい	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
15. 同性ばかりなので、周りの目を気にしないで自分らしさを出せる	5	—	4	—	3	—	2	—	1	⑮
16. 4年制大学へ行った方がよかったと思う	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
17. 専門学校へ行った方がよかったと思う	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
18. 幅広い教養を身につけることができる	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
19. ゴミやいたずら書きなどが少ないなど、施設がきれいである	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
20. 図書館やコンピュータなどの設備や機器が充実している	5	—	4	—	3	—	2	—	1	⑳
21. 留学制度が充実している	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
22. 働いている先輩に話を聞くことができ、働くことの参考になる	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
23. 女性として、将来の目標や課題をつかむことができる	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
24. 本学4年制への編入枠をもっと広げるべきだ	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
25. なんとなくホッとできる雰囲気がある	5	—	4	—	3	—	2	—	1	25
26. 体育祭や文化祭がよい思い出になっている	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
27. 職業に役立つ知識や技能を身につけることができる	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
28. 希望する資格や免許を取ることができる	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
29. 専門科目では高度な内容の授業が多い	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
30. 情報教育が充実している	5	—	4	—	3	—	2	—	1	30

VI. あなたの就職準備および進路について尋ねます。

1-1 あなたは大学で用意したエクステンションを受講しましたか。受講した方は受講した講座数もお答え下さい。

1. 受講した () 講座くらい…数字を入れて下さい 2. 受講しなかった

1-2 上の質問1-1で、「1.受講した」と答えた方に尋ねます。受講した講座の中で、特に役立つと思った講座名とその理由を書いて下さい。(複数可)

2-1 大学が用意したエクステンション講座の他に、資格取得や就職のための学校に通いましたか。

1. 通った 2. 通わなかった

2-2 上の質問2-1で、「1.通った」と答えた方に尋ねます。あなたが特に役立つと思ったものは、どのような内容でしたか。

3 今後、大学でのエクステンション講座として、どのような講座を望みますか。望まれる方は、具体的な内容を書いて下さい。

4 短期大学卒業後、あなたはどのような進路を考えていますか。(既に確定している方は、その進路を答えて下さい)

1. 正社員での就職 2. 正社員ではないがフルタイムの就職(嘱託など) 3. 不定期な仕事への就職(パート、アルバイトなど)
4. 本学4年制への編入学 5. 他の4年制大学への編入学 6. 専門学校への進学
7. 留学 8. 未定 9. その他()

5 上の質問4で、雇用形態にかかわらず「就職する」と答えた方に尋ねます。就職に際して、重視することはどのようなことですか。(複数回答)

1. 安定性 2. 企業のブランド力 3. 自分の時間を確保できる 4. 責任ある仕事 5. 仕事のやり甲斐
6. 長期雇用 7. 自宅からの通勤 8. 給料のよさ 9. 職場の雰囲気 10. その他()

6 4年制大学への編入学がもっとスムーズであるならば、あなたは4年制大学への編入学を希望しますか。

1. 希望する 2. 希望しない 3. どちらとも言えない

7-1 今後、短期大学の教育や学生指導で特に期待することは何ですか。3つまで○をつけて下さい。

1. 教養教育の充実 2. 専門教育の充実 3. 語学教育の充実 4. 資格・免許取得の充実 5. 補習教育など教育支援の充実
6. 少人数教育の充実 7. 就職指導の充実 8. 卒業後にも就職支援 9. 4年制への編入学の拡大 10. クラブ活動の充実
11. 文化祭・体育祭など学校行事の充実 12. 教員との交流の増加 13. 職員の対応の改善 14. 留学制度の充実
15. 新しい学科の創設(例えば) 16. その他()

7-2 上の7-1で挙げた項目について、今後の本短期大学に期待する、より具体的な提案があれば、自由にお書き下さい。

8 4年制大学と比べて、短期大学の長所および短所であると思う点はどのようなことですか。自由にお書き下さい。

長所:

短所:

ご協力、ありがとうございました。

資料2 学生調査における三つの因子分析結果

別表1. 「短期大学に入学した理由」の因子分析結果（主因子法・Varimax 回転後の因子負荷量）

	因子					因子抽出後の共通性
	1	2	3	4	5	
6. 四年間も勉強しなくなかったから	.742	.119	.282	.069	.096	.660
3. はやく社会に出たかったから	.735	.002	-.044	.237	.234	.517
9. 四年制大学の受験に落ちたから	-.580	-.230	.055	-.058	-.172	.653
4. 四年制大学卒女子よりも就職と思った	.371	.070	-.025	.319	.172	.274
10. 親や家族が短期大学を勧めたから	.070	.676	.055	.100	-.020	.422
11. 高校の先生が短期大学を勧めたから	-.038	.547	.188	.135	.061	.658
12. 家庭の経済的状況で四年制でなく短大に	.204	.501	-.008	.102	.121	.274
13. 女子の進学は短期大学で十分と思ったから	.296	.442	.118	.277	.119	.699
15. 進路について迷ったのでとりあえず短大	.082	.352	.237	.322	-.036	.425
8. 四年制大学よりも短大の方が入学しやすい	.040	.156	.792	.207	.052	.476
5. 四年制大学に進学するには学力不足	.022	.084	.630	.126	.029	.358
14. 高校卒業では、よい就職がないと思った	.037	.185	.216	.547	.094	.317
16. 短期大学の方が、就職や進学の選択肢広い	.239	.323	.019	.528	.061	.388
7. 専門学校に進学するよりも世間体が良い	.139	.079	.214	.446	.065	.390
1. 短い期間で希望する資格や免許取得	.204	.060	.003	.033	.784	.291
2. 2年間で学位（短期大学士）が得られる	.247	.091	.104	.173	.638	.444
因子負荷量の平方和	1.890	1.587	1.323	1.251	1.199	7.249
分散の%	11.81	9.92	8.27	7.82	7.49	
累積の%	11.81	21.73	30.00	37.82	45.31	

別表 2. 「武庫川女子大学短期大学部に入学した理由」の因子分析結果（主因子法・Promax 回転後の因子パターン）

N = 649

	因子					
	1	2	3	4	5	6
3. 就職率がよいと聞いた	.685	-.091	-.052	-.102	.043	.269
4. 教育に力を入れていると聞いた	.646	.154	-.112	.067	-.075	.140
6. 伝統のある短期大学である	.621	.029	.091	-.048	.114	.150
11. 施設や設備がきれいで充実	.602	.144	.034	-.176	.041	-.067
7. よく名前を知られている短期大学	.572	-.114	.180	-.045	.166	.176
12. 様々な資格や免許を取得できる	.568	.034	.004	.037	-.083	-.095
2. 自分の学びたい学科や専攻がある	.561	-.199	-.100	-.004	-.218	.120
16. 情報処理教育に力を入れている	-.098	.817	-.117	-.001	.030	.093
18. 幅広い教養を身につけることができる	.255	.535	-.077	.114	.067	-.200
15. 阪神間の都市部にあるから	-.027	.499	0.000	-.114	.035	.246
17. 独自の海外施設など、留学制度に魅力	-.050	.456	-.004	.212	-.037	.045
19. 家族や親戚など身近に、本学出身者	-.121	.420	.189	.016	-.002	.129
1. 建学の精神、教育理念に共鳴	.230	.389	.050	.002	-.078	-.014
(10. 推薦入学制度を利用できた)	.159	.325	.190	-.288	-.078	-.200
22. 高校の先生に勧められた	.041	-.096	.799	.060	-.151	-.146
21. 親や家族に勧められた	-.085	.040	.718	.107	.075	-.010
20. 武庫川女子大学への編入ができる	-.157	.029	.108	.658	-.034	.175
9. 四年制大学もある総合的な大学	.297	.109	.078	.471	.130	.057
13. 大学の学生寮があった	.005	.277	.085	.005	-.693	.309
8. 自宅から通学できる距離にある	-.099	.271	-.022	.003	.550	.099
5. 自分の偏差値（成績）にあう	.394	-.041	-.030	.157	-.051	.432
(14. 自分が得意な科目で受験できる)	.158	.089	-.105	.130	-.115	.334
因子間相関行列	1	2	3	4	5	6
1	1.000	.472	.291	.224	.207	-.005
2		1.000	.398	.255	.076	.022
3			1.000	-.088	.223	.336
4				1.000	.018	-.148
5					1.000	.374
6						1.000

※ 1. 濃い網掛けは、因子負荷量0.35未満のもの。

別表 3. 「武庫川女子大学短期大学部での学生生活評価」の因子分析結果（主因子法・Promax 回転後の因子パターン）

N=649

	因子						
	1	2	3	4	5	6	7
12. 職員の対応が親切である	.876	-.058	.029	-.243	.004	.083	-.058
6. きめ細かい就職指導を受けられる	.726	.036	-.148	.016	.028	.040	-.044
14. 授業に熱心な教員が多く、理解しやすい	.627	-.059	.161	-.030	-.073	.100	-.031
4. 女性を意識した授業などが多い	.568	.044	-.076	.143	-.079	-.162	.038
2. 教員と話す機会が多く、親しみやすい	.532	.162	-.040	.357	-.302	-.030	.025
10. 比較的少人数の授業が多い	.505	.212	-.149	-.083	.086	-.018	.100
11. 本学短期大学部用の就職枠あり有利	.381	.030	-.036	-.020	.168	.083	.053
9. 入学後、親しい友人を得やすい	.106	.678	-.012	.088	.057	-.098	-.003
5. クラスでの丹嶺合宿がよい思い出	-.106	.633	.010	.010	.029	.058	.026
8. クラス制は学校生活に慣れるのに役立つ	.129	.561	.055	-.089	.052	.105	-.022
25. なんとなくホッとできる雰囲気	.219	.359	.059	.122	.161	-.062	.073
26. 体育祭や文化祭がよい思い出に	-.097	.343	.275	.089	-.030	.221	-.004
15. 同性ばかり…周りを気せず自分出せる (17. 専門学校へ行った方がよかった)	.182	.326	.117	.012	.077	.003	.009
28. 希望する資格や免許を取得できる	-.232	.129	.857	-.158	-.050	-.023	.064
29. 専門科目では高度な内容の授業多い	.043	.005	.781	.015	-.064	-.064	.043
27. 職業に役立つ知識や技能を身につけられる	.134	.030	.619	.069	-.036	-.021	-.126
18. 幅広い教養を身につけることできる	.208	-.113	.370	.216	.164	-.081	.049
30. 情報処理教育が充実している	.106	-.087	.370	.132	.137	.036	-.004
22. 働いている先輩に話を聞き参考に	.041	-.142	-.005	.703	.047	.113	.017
1. 同性の同学年や先輩・後輩の交流	-.153	.204	-.090	.640	-.091	.136	-.026
23. 女性として、将来の目標・課題の把握	.159	-.022	.151	.524	.067	-.048	-.045
21. 留学制度が充実している	.113	-.176	-.099	.380	.316	.059	.024
19. ゴミなど少なく施設きれい	-.092	.120	-.090	.004	.735	-.021	-.038
20. 図書館やコンピュータなど充実	.055	.083	.039	-.065	.606	-.026	.000
13. クラブ等自分たちで行い自立心	.170	-.040	.034	.061	-.013	.638	-.037
7. クラブでやりたいことが十分できる	-.063	.102	-.127	.186	-.023	.626	.012
16. 四年制大学へ行った方がよかった	.120	-.091	-.044	-.064	-.066	-.033	.803
24. 本学四年制への編入枠を広げるべき	-.066	.047	.161	-.009	.037	.103	.646
(3. 異性が周りにいないのは、不自然)	-.069	.112	-.021	.063	.006	-.121	.223
因子間相関行列	1	2	3	4	5	6	7
1	1.000	.477	.661	.713	.567	.490	-.019
2		1.000	.509	.361	.324	.302	.014
3			1.000	.631	.547	.419	-.004
4				1.000	.464	.517	.031
5					1.000	.166	.139
6						1.000	.063
7							1.000

※ 1. 「17 専門学校へ行った方がよかった」「3 異性が周りにいないのは不自然」は因子の項目から外した。

※ 2. 網掛けは、因子負荷量0.35未満のもの。

資料3 学生調査・自由記述1：短期大学入学理由（自由記述Ⅲ）

自由記述Ⅲ「あなたが短期大学への入学を決めた理由について、上の項目、あるいはその他の理由を含めて、自由にお書き下さい。」

学科	サンプル	意見内容	キーワード	N=113	延べ約135			
日本語	14	家の経済状況をみて。	経済	21 20 18 17 15 10 10 6 4 4 3 3 2 2	短期・集中 学力（4大） 学科・希望 資格・就職 経済 自立 親+教師+姉 猶予、選択肢 留学 編入 入試 名前・ブランド 世間体 オープンキャンパス			
	20	女子大かつ短期大学の方が就職に有利だと思った	就職					
	23	オープンキャンパスに来て感じがよかったから。いい学校だと思ったから。	オープンキャンパス					
	26	最初は漠然と「短大でいい」と思っていたけれどオープンキャンパスで校風などを見て、感じて進学したいと思いました。	オープンキャンパス					
	30	6月頃に行こうと思っていた進路を親から反対されて名前も有名で実践のあるこの大学をえらんだ。	親 名前					
	40	親に勧められて自分も気に入りました。	親					
	45	第一志望校の偏差値が武庫女の四大より下で短大より上だったためすべり止めとして決めた。	学力(4大)					
	47	国文の学科のある短大が2つしかなかった。	学科					
	56	自分のレベルにあったから	学力					
	61	4年間も勉強するのは辛そうで早く働きたいと思ったから。短大の方が忙しいけどその分充実した学生生活を送れると思った。	自立 短期					
	64	高卒ではよい就職がないと思った	就職					
	英語	87	短期大学で留学ができることも大きな魅力、だったから。			留学	21 20 18 17 15 10 10 6 4 4 3 3 2 2	短期・集中 学力（4大） 学科・希望 資格・就職 経済 自立 親+教師+姉 猶予、選択肢 留学 編入 入試 名前・ブランド 世間体 オープンキャンパス
		90	留学があったから			留学		
101		集中して勉強できると思ったし、少しでも長く自分の就職場にいたいと思ったから。	自立 集中					
104		経済的な理由が一番大きいです。	経済					
105		短大で十分だと思った	短大					
107		浪人して武庫女に入るよりも短大に行って編入した方が確立は高いと思ったから。	編入					
108		女子は短期大学のほうが就職率も良く、勉強内容も短時間で集中的に学ぶことができ充実していると思ったから。	就職 集中					
113		学生のうちに英語にふれたく、留学制度があったから。	留学					
115		親への経済負担を考えた上で	経済					
121		MFWIへの短期留学ができるから	留学					
126		すべりどめ（4年制のための）	学力(4大)					
128		受かった大学で、一番就職率が良かったのが武庫女の英語だったので、入学を決めた。	就職					
129		社会へ出るにあたっていろいろ考えができるから	猶予					
137		2年間で4年制と同じぐらいの勉強ができると思ったから	短大					
153		大学を卒業してから専門学校に進学したかったので、4大に行くより短大の方がいいと思ったから。	専門学校					
154	早く社会に出て自立したかったから。	自立						
158	自分の今の英語力に合っていると思ったから	学力						
161	専門学校に進学しようと考えていたが、親に大学や短大をすすめられ、短大2年、専門学校2年で丁度良いと思ったから。	親 短大						

学科	サンプル	意見内容	キーワード	
幼児	167	入りたかったから	希望	
	186	保育士と幼教の資格が両方とれるから。	資格	
	196	4年制より就職率がよいときいたから。 経済面から。	就職	経済
	197	保育士資格と幼稚園教諭二種免許が2年間で取得できるから。	資格	
	198	指定校があったから	入試	
	203	早く自立したかったから	自立	短期
	204	4年制大学の受験に落ちたから	学力(4大)	
	227	幼児教育について専門的に学べるから	希望	
	242	2年間で保育士、幼稚園教諭の免許を取得し、さらに編入学をしてより多くのことを学びたいと思ったから。	資格	編入
	247	学費のこと	経済	
	264	はやく資格を取りたかったから	資格	短期
	266	4年制大学におちました。	学力(4大)	
	267	4大に落ちたから。	学力(4大)	
	269	こしかなかったから	学力(4大)	
283	早くはたらきたかった。	自立	短期	
人間	293	選択肢が広いから。 心理学に興味があったから。	選択肢	学科
	298	大学へ入るための学力が無かったから	学力(4大)	
	304	4年大落ちたから。高卒は嫌やったから。	学力(4大)	
	305	あねがいったから	姉	
	314	心理学を学んでみたいと思ったから。	希望	
	322	しょうがくきをもらわずに進学したかったため。 大学を考えてたが、親がたおれて金銭的にやむをえず短大に入った。	経済	
	326	4年制へ行っても就職する企業は大して変わらないと思ったから。 妹がいるので、少しでも学費をおさえたかったから。	就職	経済
	336	経済的な理由で短大進学に決めた。	経済	
	339	卒業後専門学校に進学するつもりだったので2年で勉強できるし、視野も広げたいと思ったから。	専門学校	視野
	346	短期大学を卒業してから専門学校に行こうか考えていたから。	専門学校	
360	勉強できるのも、もう最後になり社会にでてからはなかなか時間がなくなるので自分が最も勉強したい分野を学びたいと思ったから。	学科		
健スポ	1003	武庫川女子短大の健スポがいい！！と確信していたから。	希望	
	1007	短期大学に入ってから次の進路事を考えようと思ったから	選択肢	
	1009	他にどこも受験しなかった。武庫女一本にしぼっていたから。	希望	
	1012	教職のとれる短大が良いと思いました。	資格	
	1013	自分には、大学より短大の方が合っていると思ったから。	短大	
	1014	進学、就職で決めていなかった時に、学校の先生に聞いたため。	教師	
	1015	短大に入って、編入をしようと思ったから	編入	
	1026	四年制大学に落ちたから	学力(4大)	
	1027	先生にすすめられた	教師	
	1028	自分の学力レベルが足りなかったから。	学力(4大)	
	1036	今でも少し大学に行きたかった行けばよかったとは思うし、心残り。	学力(4大)	
	1039	県外なら短大と言われたから。	親	経済
	1042	まだ社会に出たくなかったから。	猶予	
1048	スポーツの勉強がしたかったから	希望		
1051	健スポがよかった(絶対に)	希望		

学科	サンプル	意見内容	キーワード	
食生活	1063	4年制大学に魅力がある学科がなかったため。早く社会に出たかった。	自立	短期
	1066	名の通った大学で、資格も取れるし、就職率もよかったから	名前	資格 就職
	1074	世間体がよいから。	世間体	
	1078	家庭の経済状況がおもわしくないので、早く社会に出て働きたく、短大は専門学校より世間体がよく、幅広く勉強できると思ったので。	経済	自立 世間体
	1082	女の子だから短大で充分だと思ったから。	短大	
	1085	高校の先生に勧めていただいたのが大きな理由です。	教師	
	1090	行きたい学科があったから。	希望	
	1094	経済的に厳しいから。	経済	
	1095	専門科目だけを勉強することができるから。	学科	
	1100	行きたい学科が短大だったから。	学科	
	1116	武庫女ブランド	名前	
	1136	高校が進学校だったので、もう少し勉強したいと思ったが、4年制だとお金がかかるから	経済	
	1137	短い期間（2年間）で、希望する資格や免許が取得できるから。	資格	短期
	1138	専門学校と迷い、資格が取れて4年制よりはとりかえしがつきそうだったから	資格	選択肢
	1139	将来の選択肢を広めるため	選択肢	
	1143	体調が思わしくなく、4年間の通学は困難だと感じていたから。	体調	
	1144	早く卒業して社会に出たかったから。進学校だったため、就職という考えはなかった。	自立	短期
	1145	施設の充実さ等の理由で武庫女の4年制に進学したかったが、受験に落ちたので短大に入学を決めた。	施設	学力(4大)
	1149	大学とは別にやりたいことがあったから		
	1155	就職希望だったが、高校の先生に勧められたので。	教師	
1157	4年制に落ちたので仕方なく。	学力(4大)		
1164	2年で、得たい知識が十分に得られると思ったから。	学科	短期	
1170	短い期間で資格がほしかったから。	資格	短期	
造形	1194	大学が落ちて、短大が受かって、受験勉強するのが嫌だったから。	学力(4大)	
	1196	はやく社会に出たかったが高卒では、はやすぎると感じたので短大に入学した。	猶予	短期
	1197	高校の専門科で学んできたので、4年制でなくてもよかった。	学科	
	1198	2年間の方が内容の濃い授業が受けられると思ったから。	短期	集中
	1199	2年で済むし早く働きたかったから	自立	短期
	1200	4年制大学に落ちたから。	学力(4大)	
	1201	専門ではやらない、一般教養を学びたかった。	教養	
	1205	はやく働きたかったから。	自立	短期
	1206	4年制大学に落ちてしまっ短大に入ったけど、2年間アパレルの勉強をしっかりとできて、よかったと思います。	学力(4大)	
	1208	4年制大学の受験におちたから。	学力(4大)	
	1209	入りたい学科だったから。	希望	
	1215	この学校に自己推せんがあって勉強しなくてよかったから	入試	
	1225	武庫川は遠いので、通うなら2年間にしようと思ったから。	経済	
	1231	周囲に勧められたから。自分の学びたいことにも当てはまったから。	親	教師 学科
	1239	学費が安いから	経済	
	1255	ムコ女は就職率もいいので、短期大でも十分安心して入学できました。今もとても「入れてよかった」と思っています。	就職	

学科	サンプル	意見内容	キーワード
造形	1266	私が短期大学の入学を決めた理由は武庫川女子大学の編入学を希望していたから。	編入
	1269	4年制に入るのは難しいと思っていたところ、短大の指定校推薦がきいていたので、編入という道を考えて、まず短大に入ろうと思った。	入試
	1270	家計の事情	経済
	1272	早く社会人になりたかったから。	自立

学力(4)

短期

資料4 学生調査・自由記述2：武庫川女子大学短期大学部への入学理由（自由記述Ⅳ）

自由記述Ⅳ「あなたが他の短期大学ではなく、本学短期大学部に入学を決めた理由は何ですか。上の項目、その他の理由を含めて、自由にお書き下さい。」

学科	サンプル	意見内容	キーワード	N=137		延べ202	
日本語	1	元々武庫川女子大学短期大学部に入学して卒業して大学編入ができるからです。もっともっと本学4年制大学の編入枠をしたい…。お願いします。	編入				
	2	自分の偏差値に合っていたし、真面目な校風が魅力的だったから。	学力	校風	36	知名度・伝統	
	6	よく名前が知られていたから。	知名度		21	授業・学科	
	10	有名だから	知名度		19	通学・場所	
	12	共通教育科目に魅力を感じたから	共通教育		16	就職	
	14	姉が通っていたことで親近感をもったから	姉		15	施設	
	23	有名な大学で評判がよかった。科目が充実していた。	知名度・評判	授業	12	留学	
	26	オープンキャンパスで説明を聞いたり、学校の方達の優しく、親切に対応する姿を見て、勉強面だけでなく、人として成長できると感じたので。後、自己推薦制度も高校時代力を入れて取り組んだことをアピールできるのでぜひ受けたいと思いました。	OC	入試	10	資格	
	29	学校の整備が整っていたから。入りたい部活があったから。	施設	クラブ	10	偏差値・レベル	
	30	親を説得できる位の短大が京女とこしかなかったから。	知名度		7	入試	
	37	書道の授業があったから。	授業		6	教師	
	39	有名だし、評判がよかったからです。	知名度・評判		4	雰囲気	
	40	評判が良かったので憧れの大学だったから。	評判		4	編入	
	41	他の短大よりも、共通科目などで様々な勉強ができるからです。	共通教育				
	43	両親の実家が西宮市内だったので、自宅から遠かったけれど、よく知っている土地だったし、本学が身近な存在だったから。	身近	通学			
	45	名前が大体の人に知られているから。	知名度				
	49	有名だから	知名度				
56	就職に有利だったため	就職					
61	有名な伝統ある学校だから。自分の学びたい科目がある（書道、日本語）。先生の強いすすめ。自宅から通える。キレイ。	知名度・伝統	授業	教師	施設	通学	
64	自分の学びたい学科があったから	授業					
66	一番自宅から近いから！	通学					
80	司書の資格が取れるから	資格					
英語	87	早く社会に出たいという気持ちもあるが、英語を勉強しなかった。本学は就職率も良いので決めた。	語学	就職			
	90	留学がプログラムの中に入っていたから。英語だけでなく他の言語も学ぶことができるから。	留学				
	103	私の実力を伸ばすことができる環境だと思ったから。留学制度。	留学	環境整備			
	105	留学制度があったから	留学				
	107	どうしても武庫女に行きたかったから！！オープンキャンパスでのゴロウ先生のミニ授業が楽しかったのです。	憧れ	OC			

学科	サンプル	意見内容	キーワード	
英 語	108	短期大学で留学もでき就職率も良く、有名な女子大は、武庫女しかないと思ったので。	留学	就職 知名度
	111	海外施設があり、留学制度が充実しているから。	留学	
	115	名前が知られている事。大阪に近い事。女子大という事。	知名度	場所 女子大
	120	外部も内部からも評判が良かったから	評判	
	128	就職率が一番高かったから。	就職	
	129	留学できるから	留学	
	132	学生がしっかりとしているから	学生	
	139	アメリカ留学 (MEWI) ができる為	留学	
	140	MFWIに留学できるチャンスがあったから。設備などが整っていて良い環境だと思ったから。	留学	
	141	場所、受験内容を考慮して	場所	入試
	143	短大を受けたのは武庫女だけだったので		
	146	留学制度を利用できるから	留学	
	150	家からより近かったから	通学	
	151	留学できるから。	留学	
	154	姉も通っていたし、伝統もあるし安心だから。	姉	伝統
	158	留学制度があるから。	留学	
	161	英語の短期大学で関西圏でそこそこの偏差値がこしかなかったから。	偏差値	知名度
	幼 児	163	武庫女にオープンキャンパスに来たとき、めっちゃきれいだったから。	OC
167		なんとなく、キリスト教じゃないから		
174		自分の学力に合っていたことと、資格が多くとれるから。	レベル	資格
186		保育士と幼稚園教諭の免許が両方とれ、施設も十分に整っていると思ったため	資格	施設
196		就職率がよいと聞いたから。ピアノの実技試験がなかったから。	就職	入試
197		オープンキャンパスに来て、いいと思ったから。	OC	
203		就職率がたかいから	就職	
204		希望の学科があり、大学へ編入する制度もあったので	学科	編入
213		偏差値	偏差値	
242		就職率が良く、施設や整備が充実しているから。	就職	施設
244		自分のやりたい授業がいっぱいあったから。 自分のとりたい資格や免許があったから。	授業	資格
263		自分の取得したい資格が全て取れるから。また高校のクラブの先生より、本学のクラブのすばらしさ、先生の人柄の良さを伺い、本学への入学を進められたから。	資格	教師
264		家から通えるので	通学	
267		就職率が良いから	就職	
283	ブランド大学だから名前にひかれた	知名度		
人 間	291	有名だから。4年制大学もあるから。	知名度	4年制大
	293	設備がきれいを知っている先輩も何人かいたから	施設	先輩
	295	有名な大学だったから	知名度	
	298	名前がよく知られている大学だから	知名度	
	300	学校名がやや知られているから。編入ができるから。	知名度	編入
	301	他の短期大はよく名前も知らないところばかりだったから。	知名度	
302	学校の雰囲気にはひかれたから	雰囲気		

学科	サンプル	意見内容	キーワード	
人間	304	学びたい学科があったから	学科	
	305	姉がいていて家から近かったから	姉	
	314	短大で心理学を学べるから。	授業	
	322	実家から近く、かよいやすいと思ったため。	通学	
	326	就職率が他の短大と比べて段違いに高かったから。サポートが充実していると感じ、心強い印象を受けた。大学名を言うだけで一目落されるブランド力に惹かれた。	就職	支援体制 知名度
	328	本学が第一志望で、他の大学を受けると、本学のテストに100%出せないと思ったので本学のみになりました。	第一志望	
	329	偏差値が他の短大より良い。親戚が良い就職ができたときいた。	偏差値 就職	親戚
	331	評判よさそうだったから。	評判	
	332	環境も良さそうだし、知り合いに本学の方が在席して話を聞いていたから。	環境	知り合い
	336	就職率がいいから。	就職	
	337	心理が学べる短大はそう多くはないから。	授業	
	338	〇〇だと、けばい子が多い、△△だと、おじょうさま、武庫川はカジュアルな子が多いから。服装。	服装	
	344	伝統があるから。	伝統	
	352	自宅に近い上、学びたい心理学科があった為。	通学	授業
	360	家から通学できる距離で入学するかどうか悩んでいる時に入試センターの方が学校内を丁寧に説明しながら案内をしてくださいました。学校を見て入学しようと決めました。	通学	職員
健スポ	1003	スポーツが好き。武庫女だと可能性が広がる。資格が取れる。	スポーツ	資格
	1007	体育の先生になるにはいいと聞いたから	教職	
	1008	サッカーができるから。	スポーツ	
	1009	きれいで学ぶ環境がとても整っていたから。	環境・施設	
	1011	中学体育の教職免許がとれる大学で、九州から一番近かったから。	資格	
	1013	スポーツ関係の勉強ができ、家から近い短大だから。	スポーツ	通学
	1016	スポーツ科があり、伝統のある短期大学で家からかよえる距離だったから。	スポーツ	伝統 通学
	1017	恩師が本校卒業であったため。短大で教職を取れる一番近い学校だったから。	教師	教職
	1026	四年制大学に落ちたから	受験失敗	
	1027	先生にすすめられた	高校教師	
	1039	よく名前も知られていて、スポーツ科では一番偏差値も高かったから。	知名度	偏差値
	1043	家から一番近い	通学	
	1048	部活のこもんにすすめられたから	高校教師	
1051	落ちた	受験失敗		
食生活	1063	高校から、内部推薦があったから。	内部進学	
	1066	有名な大学だったから	知名度	
	1074	就職率がよいと聞いたから。	就職	
	1078	自宅に近く、偏差値も低く、学校の雰囲気が自分に適当だったため	通学	偏差値 雰囲気
	1082	名前が知られていたし、高校の先生が勧めてくれたから。	知名度	高校教師

学科	サンプル	意見内容	キーワード	
食生活	1085	短期大学では有名だったので、就職率もいいという点に魅力を感じた。	知名度	就職
	1090	学科に必要な設備が充実してそうだったから	施設	
	1094	関西にあるから。	場所	
	1100	伝統もあるし、有名だったから。	伝統	知名度
	1111	2年間で集中して勉強したいと思ったから。	集中	
	1112	推せん（指定校）をすすめられたから。	入試	
	1116	偏差値	偏差値	
	1118	名前のある学校だったから。	知名度	
	1133	指定校がきてたし、行っている人の話をきいて、いつてみようと思ったから。	入試	本学学生
	1136	卒業後に資格がとれるから	資格	
	1138	知名度、家からかよえる、学びたい学科があった	知名度	通学 授業
	1139	入試制度がよかった。	入試	
	1144	甲子園に近いから。近くに親戚がいるから。	場所	親戚
	1145	4年制もある総合的な大学で、施設も充実しているから。	4年制大	施設
	1149	名の通った大学だから	知名度	
	1157	就職率も上がったし、4年制に編入できたらいいなと思ったから。	就職	編入
1158	施設が充実している。まじめそうな生徒が多いから。	施設	学生雰囲気	
1161	施設がどの学校より整っていると思った。	施設		
1164	本学の学科の偏差値が他の同じ学科がある短期大学の中で最も高かったから。	偏差値		
造形	1191	施設や訓練が充実していたから。	施設	授業
	1194	他の短大に比べると偏差値が高かったから。	偏差値	
	1196	資格を取得する事が出来るから。	資格	
	1198	ファッションを学びたく、専門学校以外のところで考えていたところ姉にこの学校のことを教えてもらい、自分に合っていると思い入学を決めた。	姉	
	1199	服のことが勉強できて設備がきれいだから	授業	施設
	1200	家から通えるから。実験の授業があるから。	通学	授業
	1202	学校名で	知名度	
	1205	学びたい学科があったから。	学科	
	1206	自分が学びたい学科があったから。就職率がよいから。	学科	就職率
	1225	生活造形学科があったから。	学科	
	1231	指定校推薦枠があいていて周囲に強く勧められたから。学びたいことがあり、考えていた大学と比べても全てにおいて好条件だったため。	入試	他者の薦め
	1239	レベルの高い大学だったから	レベル・偏差値	
	1255	就職率がとても高いので。	就職	
	1266	設備が優れていていろいろな教養が身につけられると思ったから。	施設	教養
	1270	学科があったから。伝統があるから。	学科	伝統
	1271	学内から上がったため。学力が足りなかったのと、早く就職したかったから。	内部進学	学力不足
	1272	有名で伝統のある学校だから。	知名度	伝統
1272	資格が充実してると思った。	資格		

資料5-1 学生調査・自由記述3：4年制と比べての短期大学の長所（自由記述VI-8）

自由記述IV-8「4年制大学と比べて。短期大学の長所および短所であると思う点はどのようなことですか。自由にお書き下さい。」

長所に関する意見とキーワード

学科	No.	意見内容	キーワード			
日本語	2	早く社会に出られるし、就職に関する知識が早く付けられる。	就職	社会	短期間	
	4	だらだらとせず、気を引き締めて授業に望めたこと。	引き締め			
	6	4年制ほど時間がないのでつめこめる。	詰め込み			
	7	短い時間に色々な体験ができる。友人関係が親密になりやすい。	短期間	友人		
	12	短期間で様々なことが学べる	短期間			
	13	短い期間で資格が取れること	短期間	資格		
	14	早く働くことの大切さについて学ぶことができる。就職活動をし始め、自己を見つめ直すチャンスが2年間早くなること。	就職	社会		
	21	忙しいがそれなりに充実した日々を送ることができる。	充実			
	29	就職に有利	就職			
	30	早く就活が出来ること。2年しかない分授業内容がガラガラしないのでとてもまとまっている。	授業内容	就職		
	36	短期間で社会に出ることができる	社会			
	37	時間があと少ししかない！と思うので、(2年は短い)有効に時間を使おうと思うところ。→計画的に行動できる！！	短期間			
	39	入りやすい	入学容易			
	40	社会に出る意識を早く持つことができる。	社会			
	41	大学生より社会に出るのが早いので、早くから就職について考えることができる。	就職	社会		
	43	入学して2年後にまた進路を考えられる。	進路			
	45	広く浅く知識が得られる	知識			
	53	早い時期から将来について考える機会があり、卒業後の進路の選択肢が多い点	進路	将来		
	54	短期間で、色々な事が、学べる。	短期間			
	61	実践的な科目が多く身につけている気がする。必修科目がわりと少ないので自由に時間割が組める。	授業内容	カリキュラム		
64	早く自立できる	自立				
66	早く社会に出られる	社会				
67	学校推薦やとりまとめの就職枠が4大よりあること	就職				
70	短かい期間でいろいろ学べる	短期間				
74	就職までの時間が短い分、社会人としての自覚が早く芽生える。	社会				
英語	83	早く働きたい人には就職指導も充実しているので良いと思う。	就職	短期間		
	84	すぐに就職できる。少人数制	少人数	就職	短期間	
	86	短期間で集中して学べる	短期間			
	87	2年間むだのない時間をすごすことができた。本学で充実した日々を過ごせた。	充実			

学科	No.	意見内容	キーワード			
英 語	88	早く社会へ出ることによって親への経済的ふたんにならない。短期だからこそ遊ぶ暇もなく集中して学べる。就職の時に、周りの人より興味深く質問された。	短期間	就職	社会	経済的負担減
	90	短い間ぎょうしゅくして学ぶことができる。濃い思い出が作れる。	短期間	思い出		
	103	就職率が良い	就職率			
	104	早く就職できる。忙しい分、内容の濃い充実した2年間で送れた。	就職	充実		
	105	就職率が良い	就職率			
	108	短期間で集中的に学べる。就職率が良い。	短期間	就職率		
	109	大学の方よりも早く将来について考えるようになる所	将来			
	115	気が楽。2年だけで卒業できる利点。	短期間			
	119	就職率が良い	就職率			
	121	短い期間に色々な事を学べ、貴重な体験ができる。	短期間			
	126	がんばれる。				
	132	専門的に勉強ができる	専門的			
	137	2年間で就職できる	就職			
	141	早く社会に出れる	社会			
	143	就職率がいい。少人数制でわかりやすい。	少人数	就職率		
	146	2年間無駄な時間がない。	短期間			
	150	お金がかからない。	経済的負担減			
	151	2年間いっぱい学べる。	短期間			
	158	早く社会に出れる。	社会			
	159	みんな仲良くまじめ！！	まじめ	友人		
162	クラス替えがなく。クラスが仲良い。中だるみがない。	友人				
幼 児	178	保育士資格が確実に取得できる	資格			
	180	すぐ就活できる	就職			
	186	短い期間で資格が習得できる。	短期間	資格		
	191	内容が充実している	充実			
	192	時間がある	時間がある			
	196	少人数	少人数			
	197	短期間で資格、免許がとれること。	短期間	資格		
	204	友人との親密度がアップ	友人			
	211	早く就職ができる	就職			
	228	少ない余裕を効率的に使うようになる。	短期間			
	234	2年の方がメリハリがつき1つ1つに集中できる	短期間			
	237	早く卒業できる	短期間			
	242	2年間で授業を集中して受け、実習ですぐに現場での体験ができ、免許を取得できる	短期間	資格		
	249	忙しい分、充実感がある	充実			
	262	途中でだれてる場合でない	短期間			
	264	短い期間で資格が取れる。	短期間	資格		
	267	2年間で免許がとれる	短期間	資格		
	269	友だち	友人			
	270	学校生活が充実する	充実			
	282	すぐ就職できる。	就職			
283	すぐ就職できる。	就職				
284	短い期間で資格が習得でき充実している	短期間	資格			
286	短い期間で資格を取得できる	短期間	資格			
290	だらけず、毎日学校に通える。専門知識をいっしょに入れることができる。	専門性				

学科	No.	意見内容	キーワード			
人間	292	短期間でより多くのことを学べる	短期間			
	293	将来の選択肢が広い	将来			
	295	情報（パソコン）が充実している。就職率が良い。	就職率			
	296	62単位で卒業でき、短期間では幅広い分野勉強できる	短期間			
	300	専門的な知識を身につけたいと思わない人には2年くらいでちょうど良いと思う。	専門的			
	301	早く働ける	社会	短期間		
	302	本学の就職支援	就職			
	305	そつろんがない	卒論なし			
	309	早く社会に出れる。	社会	短期間		
	311	早いうちから社会に出れるので就職のチャンスも多い。	就職	社会		
	314	はやくに社会に出られる。	社会			
	315	就職率が良い事	就職率			
	317	4年制に比べると比較的早い期間で就職先が決まったように思う。	就職	短期間		
	323	早く社会に出れる。	社会	短期間		
	326	短期間でたくさん学べる。	短期間			
	327	短い期間で資格を取得することが出来る。	短期間	資格		
	328	就職率が良い。	就職率			
	330	すぐ社会に出られる。	社会			
	331	楽しく、遊びながら学校生活をできた。	遊び			
	332	早く社会にできることが出来る。集中して学べる	短期間	社会		
	337	早く社会に出て仕事をする事ができる。就職に短大枠があるから有利。	就職	社会		
	339	2年間で、さまざまな専門の勉強が学べ、教養も身につけ、早く社会人になれる。	教養	社会	専門的	短期間
	347	短い期間で集中して勉強ができる。	短期間			
	350	卒業する年齢が20歳なので就職以外の道も考えやすい。	将来			
	351	就職が有利であると思った。	就職			
	359	就職について早くから考えること。	就職			
	360	2年間のあいだで学びたいものが学べるし、充実した生活が送れる。	短期間	充実	充実	
	健スポ	1003	将来を見据えて行動する子が多い！！4年制よりもシャキシャキしていると思う。2年しかないので、勉強・行事全てにおいて、意欲的！！⇒とっっても濃くて充実した2年間に！！	短期間	充実	将来
1005		団結力や将来を真剣に早くから考えている子が多い。	団結力	将来		
1007		短期間で学ぶことが出来る	短期間			
1008		大学より人数が少なくクラスのまとまりがあるし、団結力がある。	少人数	団結力		
1014		いつも同じメンバーで勉強ができ、親しみやすく、とてもよかった。	友人			
1017		早く社会に出れる。	社会	短期間		
1022		短期間で集中できる	短期間			
1025		短大でも教員免許をとれること	資格	教職		
1026		大学と同じだけの授業を受ける事が出来る	短期間			
1027		2年しかないから、自分でやらなければならないことが多く、自立できる。	自立			
1028		暇な時間が少なくていい。	充実			
1031	短期間で集中して、勉強に取り組むことができる。	短期間				

学科	No.	意見内容	キーワード			
健スポ	1033	短い期間でたくさん学べる	短期間			
	1034	大学と比べてのりがいいし、一生懸命で明るい。	一生懸命			
	1040	早く就職できる	就職			
	1043	短い期間で色々な事が勉強できる。	短期間			
	1046	2年しかない学生生活なので、何事にも真剣に取り組めること。	充実			
	1047	人数が少ないから、よかった。	少人数			
	1051	仲よし、何事も一生懸命	友人	一生懸命		
食生活	1061	短期間で必要な知識を学び、資格を習得することができる。	短期間	資格		
	1062	クラス制だから友達と仲良くなれる。	友人			
	1065	短期間で様々な勉強を出来、凝縮された内容。	短期間			
	1066	早く社会に出れる。忙しいので、逆に友達と仲良くなれる。	友人	社会	短期間	
	1068	短い期間で専門的な知識を身につけることができる。	短期間	専門的		
	1071	短時間で圧縮された授業がうけれるので、頭に入りやすい。	短期間			
	1072	授業の数が多く、充実している	カリキュラム	充実		
	1076	短期間で資格がとれる。	短期間	資格		
	1077	短い期間充実させることができる。	短期間	充実		
	1078	早く社会に出れる。	社会			
	1081	早く自立できる。	自立			
	1082	2年という短期間で免許取得が可能。卒論がない。大学より早く社会に出られる。	短期間	資格	社会	卒論なし
	1085	就職に有利。編入や専門に行くなど、卒業後の進路に幅がある。	進路	就職		
	1086	短期間で希望する資格が得られる。	短期間	資格		
	1092	就職率が良い	就職率			
	1100	短いから仲よくなりやすいと思う。	友人			
	1105	短期間で資格が取得できる。	短期間	資格		
	1109	2年間なので授業の内容が濃い。卒論がないので楽。	短期間	卒論なし		
	1110	2年で社会に出る	社会			
	1111	早く社会にできる。	社会			
	1112	早く卒業できる	短期間			
	1116	学費がはんぶんですむ	経済的負担減			
	1119	卒論がない。	卒論なし			
	1124	大学と比べて、2年短いため進路について、選択出来るゆとりがある。	進路			
	1129	短期間で資格がとれる。	短期間	資格		
	1139	将来の選択肢が広がる	将来			
	1144	早く社会に出れる	社会			
	1145	短期集中できる。	短期間			
	1147	早く社会に出ることが出来る	社会	短期間		
	1149	2年後にまた新しいことにチャレンジできる。	将来			
	1157	実践的なものを学べる	実践的			
	1158	短期間で自分の学びたい分野が学べる	短期間			
	1163	ゆっくりと時間をとって学ぶ事ができる。就職についてじっくり考えられる。	就職			
1164	授業内容がとても密なので、短期間でためになる。	短期間				
1165	短かい期間で集中して学べる	短期間				
1170	短い期間で資格を修得できる。	短期間	資格			
1174	毎日充実している。	充実				

学科	No.	意見内容	キーワード			
			進路	社会	短期間	
造 形	1193	社会に早くから出ていけたり、卒業後の進学も考えることができる。	進路	社会	短期間	
	1196	短期間で多くを学べる。	短期間			
	1198	2年しかないという思いから、充実した内容の濃い学校生活が送れる。4年制と同じように資格が取得できる。	資格	充実		
	1199	充実している	充実			
	1200	専門的な技術を身につけることができる。	専門的			
	1203	あっという間に卒業！よくもわるくも早い！	短期間			
	1204	学生生活が満キツできる。	充実			
	1205	就職率が良い。	就職率			
	1206	つめて勉強できる。くわしくできる。	短期間			
	1214	2年間で色々な事を学ぶため、充実しムダのない日々になる。	充実	短期間		
	1215	長い間学校に行かなくていいから	短期間			
	1216	短い期間でたくさんさんのことが学べる。	短期間			
	1217	短い期間で色々なことが学べる。	短期間			
	1222	2年間という短い期間で、深い専門知識を得ることができる。	短期間	専門的		
	1223	短い期間でたくさん学ぶことができ、早く社会に出れる。	短期間	社会		
	1224	短い間なので、その分仲が深まる。	友人			
	1225	短期間で充実している。	短期間	充実		
	1228	授業内容が濃い。	授業内容			
	1230	2年間毎日たくさん授業が入っているので充実した日々をすごせた。	充実			
	1231	短期間の間にたくさんさんのことを学ぶので充実した生活がおくれる。	短期間	充実		
	1240	早く社会に出ることができる	社会	短期間		
	1248	はやく就職ができる	就職			
	1260	一年生から専門的な事を学べる	専門的			
	1265	2年なので、とても短く、計画を立ててやることを意識できること。2年で十分いろんなことを学べる。	短期間			
	1266	まじめで熱心な人が多いところ。	まじめ			
	1271	早く就職ができ、社会経験ができる。4年は長い気がするので勉強は2年間で十分。	就職	短期間		
	1272	短い期間で専門的な分野を学べるので、将来の目標を明確にしている人にとっては良いと思う。入学した段階でアパレルとインテリアのコースに別れているので周りには同じ分野に興味を持っている人が多いので良い刺激になる。	短期間	専門的		
	1282	短時間で知識が得られる。	短期間			
	1283	短いじかんでさまざまなべる。	短期間			
	1284	短期間で多くの学問を学ぶことができる。	短期間			
1288	幅広く、色々なことにふれることができる。	経験				
1289	4年制大学だと必然的に次は就職を考えがちだけど短大だと少し余裕を持って考えられる…？	余裕？				

資料5-2 学生調査・自由記述4：4年制と比べての短期大学の短所（自由記述VI-8）

自由記述Ⅳ 4年制大学と比べて。短期大学の長所および短所であると思う点はどのようなことですか。自由にお書き下さい。

短所に関する意見とキーワード

学科	No.	意見内容	キーワード		
日本語	2	4年制大学より時間が短い分、学ぶ事が詰め込まれること。	短期間	詰め込み	
	4	あっというまでであったこと。	短期間		
	5	“大学でまなんだこと”と言われても、時間が短いためとくに思い浮かばない。	短期間	学び	
	6	深く学べるというよりは浅く広くというかんじ。	学び		
	7	2年は少し短い。行事がおしこまれるようにあっという間にくるので、色々大変に感じた。	短期間	詰め込み	
	12	就職活動が大変	就職		
	13	2年になってから課題が増えて忙しくなりおろそかになった授業もあった	多忙		
	14	学生生活のゆとり感が少ない。	ゆとりなし		
	20	4年制短期大学問わずに日文は授業数が少なく興味のある授業が少ない	授業		
	21	「忙しい」だけです。	多忙		
	29	教職、司書課程の両方をとれない。	資格		
	30	つめこみすぎ	詰め込み		
	34	とれる授業が少ない。あわただしい。	多忙	授業内容	
	36	期間が短いため、深くまで知識を身につけることができない。	短期間	知識不足	
	37	単位とるのは大変。。	単位		
	39	入学して、学生生活になれてきてすぐに就活がはじまること。	就職	忙しさ	
	40	就職の幅が大学に比べて狭い。	就職		
	41	就職活動の時、4年制大学の募集はあるのに短期大学の枠がないことがあること。	求人枠		
	43	就活の時、年齢が若いので子供っぽさが残る。	就職		
	45	就活までの期間が短い	短期間	就職	
	52	就職のときには不利。募集の時点で4年制大学卒以上と書かれていることが多いと思う。	求人枠		
	53	就職が4年制より難しいと感じる点。学ぶ量が少ない点。	求人枠	勉強量	
	54	大学に比べて、就職できる所が、限られる。	求人枠		
	56	短大ではとれない資格がある。	資格		
60	資格を取得するのに、卒業ギリギリまでかかり、不安。もう少し余裕を持ちたい。	資格	ゆとりなし		
64	資格取得が難しい	資格			
66	忙がしい	多忙			
67	短大という理由で受けられない会社があること	求人枠			
70	単位が大変	単位			
74	留学に関するチャンスが少ない。	留学			
英語	83	単位が結構、簡単にとれるので、その後あんまり勉強しなくなりがち。	単位	学び	
	84	勉強、就職活動の両立	両立難		
	87	2年間はあっという間だった。	短期間		
	88	短かすぎて時間がたりない。あわただしい。	短期間	多忙	

学科	No.	意見内容	キーワード		
英 語	90	忙しくていろいろなことをするよゆうがない。	多忙	ゆとりなし	
	103	クラス制	クラス制		
	104	給料が安い。	給料差		
	107	将来についてじっくり考える時間がない。浅い専門教育	ゆとり	専門性薄い	
	108	ゼミがない。	ゼミなし		
	109	2年間で将来のことを決めることは難しく、早すぎると思います。	短期間		
	115	単位を落としたら次年上がれないかもしれないという不安。	単位		
	121	色々な事が学べる反面中途半端になってしまうことがある。	知識		
	126	あわてる。あせる。わずらう。	多忙	ゆとりなし	
	132	幅広い知識はつきにくい	知識少		
	137	短い期間でやる事が多い	短期間	多忙	
	141	つめこみ授業	詰め込み		
	142	留学などもあり、あまりきちんと就職活動が出来ない	就職	留学	
	143	留学で同じ短大生に比べ就職対策が遅れる。	就職	留学	
	146	4年制卒の人と給料に差が出る。	給料差		
150	より専門的なことが学べないまま卒業してしまう	専門性少			
151	学生期間が短く、あそべない。	短期間	遊びなし		
158	のんびり遊ぶ時間が少ない。	遊びなし	ゆとりなし		
幼 児	178	実習やテストで忙しく自分の時間が持てない	多忙	ゆとりなし	
	180	短教は忙しい！	多忙		
	186	授業がつまみすぎてしんどくなる。もっと余裕を持って取り組みたい。	詰め込み	ゆとりなし	
	188	忙しい	多忙		
	190	忙しい	多忙		
	191	2年の後期にいろいろつめこみすぎる。	詰め込み		
	192	時間がない	多忙		
	195	忙しい。	多忙		
	196	ハードスケジュール	多忙		
	197	忙しいこと。	多忙		
	203	ゆとりがない(夏休み)。実習の期間を変えてほしい。	ゆとりなし	実習	
	204	社会に出るのが早い	社会		
	206	就職について考えたり、よくえらぶ時間がない。忙しい。	就職	ゆとり	多忙
	211	短い	短期間		
	228	あっという間すぎるし、できないまま時間が過ぎることも多いように思ったこと。	短期間	未消化	
	230	忙しい	多忙		
	234	スケジュールがつまみすぎて就活がしにくい。	多忙	就職	
	237	いそがしい	多忙		
	242	長期の休みがない。	長期休暇		
	249	授業が多すぎて休む時間がないこと	詰め込み	ゆとりなし	
	261	時間がなく勉強に追われ、クラブ活動などあまり参加できない。	多忙	クラブ活動	
262	授業が詰まっっていて大学時代にしかできないアルバイトやボランティアに参加できないこと。	詰め込み	多忙	課外活動	
264	時間割がつまっている。	詰め込み	時間割		
266	早すぎて遊べない。	短期間	遊び		
267	忙しい	多忙			

学科	No.	意見内容	キーワード		
幼 児	269	自由満の先生	教員		
	270	時間にゆとりがない。ハードスケジュール。	ゆとり	多忙	
	275	お金が高い	学費		
	280	スケジュールがつめつめ	詰め込み		
	281	ゆっくりとできる時間があまりもてない	ゆとり		
	282	時間がない	多忙		
	283	時間がまったくない！！	多忙		
	284	忙しすぎる。。	多忙		
	285	時間に追われる	ゆとりなし		
	286	長期休暇が少ない	長期休暇少		
	290	いそがしい。特に2年の夏～秋にかけて・就活ができない	多忙	就職	
人 間	291	2年間で4年間分やらなければならないので、自分の時間の余裕が持てない。	短期間	ゆとり	
	292	使える資格がない	資格		
	293	期間が短くあわただしい	短期間	多忙	
	295	学べる期間が少ない。	短期間		
	296	1つのものに集中して勉強できない	学び難		
	301	期間が2年間だから短く感じることもある	短期間		
	302	2年間という短い期間で卒業してしまうこと	短期間		
	304	就活で苦労する。『私』じゃなくて『短大』という名前だけで落とされるから。	短大求人枠		
	305	あそぶじかんがすくない	遊び少		
	309	学生生活が短い。	短期間		
	311	求人への制限に引っかかる。	短大求人枠		
	314	4年生には、勉強量はかなわない。	勉強量		
	315	2年間という短い期間で単位をすべて、取得しなければいけない事	短期間	単位	
	317	就職先が限定されてくる。	短大求人枠		
	322	短すぎてやることがたくさん残る。4年制のようにゆっくり物事をすすめられずおどろきっぱになってしまう。	短期間	ゆとりなし	
	323	大手企業にエントリーすらできないこと	求人枠		
	326	つめこみ教育になってしまう。	詰め込み		
	327	あっという間に2年がたち、毎日とても忙しくてゆっくり学生生活が送れない。	短期間	ゆとり	多忙
	328	学べる科目が少ない。	授業内容少		
	330	すぐ社会に出ないといけない。	社会	短期間	
	331	2年だけなので将来についてしほりこめない。	短期間	将来	
	332	時間によゆうがない。	多忙	ゆとりなし	
	337	短大不可の企業も有る。	求人枠		
	339	学校以外で自分の時間を使うことがむずかしい。	ゆとりなし		
	341	実習などをする時間がない。(講義が多いので)	実習	カリキュラム	
	342	就職活動は積極的に紹介があるが、編入に関する紹介が少ない。	編入		
	343	4年制の方が、ゆっくり就職のことなど考えられると思います。	就職	ゆとり	
348	就職で大卒が多いこと。	短大求人枠			
350	就職先が限られる。仕事にいかせる資格をあまりとれない。	短大求人枠	資格		
359	学べる時間が短いこと。	短期間			
360	あっという間に時間がすぎてしまうこと。	短期間			

学科	No.	意見内容	キーワード		
健スポ	1002	2年間と短いので、忙しい気がする。	短期間	多忙	
	1005	思い出づくりが少ない	思い出		
	1007	取れる資格が少ない	資格少		
	1008	授業が少しハード	授業多い	多忙	
	1009	いそがしい。	多忙		
	1013	卒業するまでの時間が短い。	短期間		
	1014	みんなという時間が2年間しかなく短く思える。	短期間		
	1017	忙しい。	多忙		
	1022	短すぎる	短期間		
	1025	教育実習中公欠で試験で容赦ないこと	カリキュラム		
	1026	就職活動をもっと積極的に指導してほしい	就職指導		
	1028	短かすぎる。 就活があつという間にきて、出おくれてしまった。	短期間	就職	
	1033	期間が短いので単位などが大変	短期間	単位	
	1040	専門的なことが詳しく学べない	専門性		
	1046	授業などがつめてあり、いそがしい。	詰め込み	多忙	
1047	4大よりもつめてやらないといけないから、大変！	詰め込み			
食生活	1061	入学してから就職活動の時期などが非常に早くやりたい仕事が決まらない。	短期間	就職	社会
	1062	あまり遊ぶ時間がない。	遊び		
	1065	時間に余裕がないので、4大の方が様々な経験ができる。	ゆとり	経験	
	1066	忙しいので、自分の時間があまりない。帰りが遅くなることが多い。	多忙	帰宅時間	
	1067	やっぱり就職の際に差がでる。給料など職種にも限りがある。	求人枠	給料差	
	1068	覚えることが多くて大変。	勉強量		
	1071	授業がつまっている。	詰め込み		
	1072	2年間では短い。	短期間		
	1076	2年の間につめこみ式の勉強をするためゆとりがない。	詰め込み	ゆとりなし	
	1077	2年で期間が短く、忙しい。	短期間	多忙	
	1078	就職に不利。	就職		
	1081	あまり深くは学べない。	学び		
	1082	大学に比べて初任給が少ない。大手の企業には就職にくい。	就職	給料差	
	1085	“学生生活に物足りなさがある。(2年という短かさ)授業が忙しい。(十分に理解できない)”	短期間	多忙	積み残し
	1086	授業が忙しくてあまり就職活動ができない。	多忙	就職	
	1098	つめこみ型すぎる	詰め込み		
	1100	授業の早さについていけなかったり、本当につめこみだと思う。 毎日が授業ありすぎてしんどい。テストも多い。	授業内容	詰め込み	多忙
	1105	多忙。就職活動まで間がない。	多忙	就職	
	1109	短大は4大に比べて、学生生活にゆとりがなくて、忙しい。	ゆとりなし	多忙	
	1110	授業が詰まっている	詰め込み		
	1111	授業数がどうしても多くなる。	詰め込み		
	1112	授業がつまっていて、朝がづらい	詰め込み		
1116	授業がつめこみである。就職難	詰め込み	就職		
1119	授業がつめこまれてる感じがする点。	詰め込み			
1124	忙しい！！	多忙			
1125	時間割が大変だった	詰め込み			

学科	No.	意見内容	キーワード		
食生活	1129	時間がつまってる。	詰め込み		
	1131	時間がなさすぎる	多忙		
	1138	就職に不利	就職不利		
	1139	早い！	短期間		
	1144	時間が短いために、大学生活を楽しむ時間も短い授業がつまっているため、落としたとき大変	短期間	ゆとり	詰め込み
	1145	2年間という短い期間で専門的なことを学ぶのは大変。	短期間	専門性	
	1147	授業が詰まっていて忙しい	詰め込み	多忙	
	1149	世間での風あたりがよくない	世間の評価		
	1157	知識の幅がせまくなる	知識		
	1158	試験が大学と比べて不利になる	就職		
	1164	他の学科の人との関わりの時間が持ちにくい。	他学科交流		
	1165	就職とかは4年を出た方が有利かなと思う	就職		
	1169	余裕がない	ゆとりなし		
	1174	授業がつまってて大変。	詰め込み		
造形	1184	忙しい。	多忙		
	1193	就職先が4年制からいると限られてくる。	求人枠		
	1194	忙しい。	多忙		
	1196	かけ足で授業をうけるので、身につきにくい。	学び		
	1198	短大卒を採用していない企業が多い。	求人枠		
	1199	忙しい。準備ができてないまますぐに就活が始まる。	多忙	就職	
	1200	専門的なことばかりで、幅広い知識を得られない。	知識		
	1203	充実感がない。	充実感		
	1205	忙しい。他業界でも就職率が良い。	多忙		
	1206	授業が多い。	詰め込み		
	1209	忙しい	多忙		
	1214	2年間で短いため、ゆっくり理解する時間が少ない	短期間	理解不足	
	1215	受講がたいへん	詰め込み		
	1216	就職するときに、短大卒を募集していないところが多かった。	求人枠		
	1217	就職募集が4年制大学の方が有利だと思う。	就職	短大求人枠	
	1222	時間割がハード。	詰め込み		
	1224	少し忙しいかなと思う。	多忙		
	1225	就職の時、給料が4万くらい違う。	給料差		
	1228	時間割が辛い。	詰め込み		
	1230	あっという間だった。	短期間		
	1231	高校卒業してから社会に出るまでの期間が短い	短期間	社会	
	1240	就職が不利	就職不利		
	1248	専門性に欠ける	専門性少		
	1260	2年間は短い	短期間		
	1265	就職で給与が大学生よりも安いこと	給料差		
	1266	授業中でもしゃべっている所。	私語		
	1271	2年の前期は就職活動もしながら大学生よりも多い授業をこなさなければならないところ。	就職	多忙	
	1272	大学に比べて忙しい…。	多忙		
	1282	短い分、内容が浅い。	短期間	学び不足	
	1283	あっといまに社会人にならなければならない。	短期間		
1284	授業内容が大学よりも薄い。	授業内容薄			
1288	あまり時間がなく、あまり詳しく習えない。	短期間	学び不足		
1289	授業内容が詰めこまれすぎていて大変	授業	詰め込み		

資料6 企業調査・自由記述

大学側は、学生を社会に送り出すことだけに終わり、社会人となった後の卒業生の様子をあまり知らない。送り出した後には関心が薄れるということもあろうが、知りたくてもその実態を知ることは難しいのが現実である。本調査においては、卒業生が働く職場の担当者から貴重な声を聴くことができたのであり、社会に出た短期大学の卒業生がどのように働き、それがどう評価されているかを大学関係者に広く知ってもらうためである。ここに示した自由回答には、採用者側のリップサービスが入っているかもしれないし、指摘されている長所や短所は本学での教育や学生生活で身に付いたものだとは限らないことの方が多いかもしれない。そうであっても、彼女たちは「武庫川」の卒業生という看板を背負って働き、評価されているのであり、そこには「武庫川」で身に付けたことが何らかの形で反映されていると考え、真摯に受け止めるべきだろう。職場からの卒業生に対する評価から、社会人となった彼女たちの実態を知ってもらうとともに、今後における大学での教育の課題が検討される材料になることを期待して、友田教育研究所長がこのまとめを企画した。

資料6は2007年7月～8月に行った企業アンケートの結果の一部で、3部から構成される。ここに示した資料は、アンケートの中で尋ねた次のような自由記述である。

「Q10 近年の武庫川女子大学短期大学部卒業生について、お気づきの点（他の短期大学卒業生と比較してお気づきになられた特長、長所・短所など）をできるだけ具体的にご記入ください。」と尋ね、その後に「特長」「長所」「短所」と書き込んだ自由記述欄を設けた（資料1参照）。

三項目それぞれにおいて、記述内容をカテゴリーに分け、記述内容を整理して示した。資料6-1は「長所」に関する自由記述で、これにはカテゴリー間の関係を示した図も付け加えている。資料6-2は「短所」に関する自由記述、資料6-3は「特長」に関する自由記述をまとめたものである（なお、自由記述のカテゴリー分けの検討については、教育研究所長の友田泰正教授、助手の末吉あきさんとともに行った。末吉助手にはキーワードの抽出から表の作成まで、たいへん骨の折れる作業をしていただいた）。

- ・長所：「明るい、元気」といった点を長所として指摘する声が最も多く、特に企業においてその傾向が強い。続いて多いのは「素直、まじめ」といった評価で、これは幼稚園・保育所からの回答で多くなっている。その他、「しっかり、頑張り屋」「意欲的、前向き」「しつけ、マナー」といった点が、本学短大卒業生の長所として捉えられている。
- ・短所：「向上心・意欲に欠ける、おとなしい」および「柔軟性、忍耐力の不足」との回答が最も多く、企業と幼保に共通している。続いて「常識がない、マナーがよくない」で、特に企業からは厳しい声がある。さらに、「専門的技量不足、仕事覚えの悪さ」が企業からあり、「おとなしい」という評価とも関連するが「リーダーシップ不足」との評価もあった。

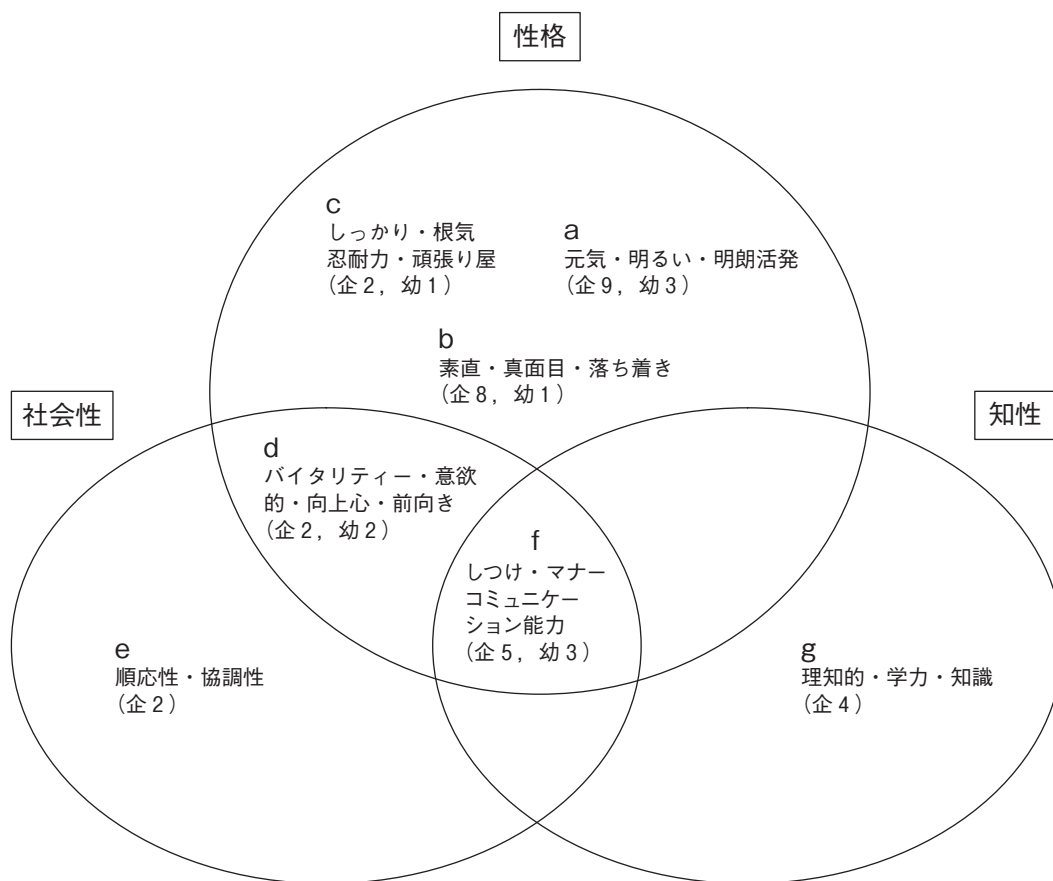
（「特長」については省略）

資料6-1 企業調査・自由記述1：企業から見た武庫川女子大学短期大学部卒業生の長所
全体66件（企41件、幼・保25件）

領域	分類	業種	記入内容	キーワード	a	b	c	d	e	f
性格	a 元気 明るい 明朗・活発 (計12件)	企業 9件	元気のある学生が多い。	元気	<input type="radio"/>					
			明るい子が多く、気持ちのいい学生が多い。	明るい	<input type="radio"/>					
			元気で明るいし、仕事に対しての意欲が感じられる。目立つ存在である。	元気・明るい・意欲	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		
			明るく素直で協調性がある。	明るい・素直・協調性	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
			明るい雰囲気を持つ、協調性、マナーが身につけており、誰とでも人当たり良く接する事が出来る点。	明るい・協調性・マナー	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			電話応対等、すぐに慣れきちんと取次が出来ている。明るくあいさつができる。基本的ルーチンワークの習得は非常に早かった。	明るい	<input type="radio"/>					
			・明るく協調性のある方が多いので、職場に馴染みやすく評価が高いです。・入社後教育etcでは指示を含め、素直に受け止め頑張ろうとする姿勢は周りにも好影響を与えます。・環境への順応性は高いと思います。	明るい・協調性・素直・順応性	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>
			明るい雰囲気をもっている。	明るい	<input type="radio"/>					
			・とにかく明るい（事務所の雰囲気が変わった）・誰にでも気後れすることなく接している・何事にも積極的に取り組んでいる	明るい・積極的	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		
		幼保 3件	明るく何でも吸収しようとする努力。	明るい・努力	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			
	明るく、コミュニケーション能力もあり、反応も適格。		明るい・コミュニケーション能力	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>	
	常に明朗活発で行動を起こされる前に思考されます。他の職員とも、とても良く馴染んでおられ、コミュニケーションをとられるのに富んでおられます。		明朗活発・コミュニケーション	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>	
	b 素直 真面目 落ち着いた (計9件)	企業 8件	素直なので、アシスタント業務には最高。	素直		<input type="radio"/>				
			真面目。	真面目		<input type="radio"/>				
			真面目で素直な人の割合が相対的に多いというのが実感です。	真面目・素直		<input type="radio"/>				
			真面目で芯がしっかりとした方が多いと思います。	真面目・芯がしっかりと		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
			落ち着いた行動、考え方。	落ち着いた		<input type="radio"/>				
素直で明るく、礼儀正しい方が多い。職場の雰囲気にも早く溶け込み、協調性もある。			素直・明るい・礼儀正しい・協調性	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
知識はしっかりと素直で、のみ込みが早く、明朗活発で、2名とも素晴らしい人材を採用させて頂き、ありがとうございます。			素直・明朗活発	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
真面目に仕事に取り組む姿勢は良いと思います。	真面目		<input type="radio"/>							

領域	分類	業種	記入内容	キーワード	a	b	c	d	e	f
		幼保 1件	8年目、おとなしい性格だが仕事がかっちり とでき、何を任せても安心していられる。3 年目、元気で前向き。乳児クラスを任せてい る。1年目、真面目に何事にも取り組んでい る。	きっちり・元 気・真面目	○	○				
	c しっかり 根気 頑張り屋 (計3件)	企業 2件	態度、言葉遣い等に「しっかり教育されてい る」という印象を受ける。	しっかり			○			
			本年採用者以前は、根気があり採用して良 かったと思える人材だった。	根気			○			
		幼保 1件	頑張り屋さんです。自分の意志を通す。(人 にもよりますけれども)	頑張り屋			○			
社会性	d バイタリ ティー 意欲的 (計4件)	企業 2件	テキパキとした動きとバイタリティーを感じ ます。	テキパキ・バ イタリティー				○		
			色々と学内セミナーに（他大学・短大）伺い ましたが、就職（働く）することに対するの 意識（意欲）は高い学校だと思います。	意欲				○		
		幼保 2件	本年で2年目ではありますが、後輩への優し さも持つ中、先輩としての姿勢についても、 意欲を高めているように伺えます。	意欲				○		
			他の短期大学卒業生との比較ではなく（他が 劣っているわけではない）仕事に対する意欲 もあり、取り組みの姿勢や態度も優れている	意欲・取り組 む姿勢や態度				○		
e 順応性 協調性 (計2件)	企業 2件	職場に順応し、協調性がある。	順応・協調性					○		
		協調性、コミュニケーション能力に優れてい る。	協調性・コ ミュニケー ション能力					○	○	
f しつけ マナー コミュニ ケーション 能力 (計8件)	企業 5件	業務態度は良好で、仕事の覚えも早い。挨拶 は進んでできる。身だしなみがよい。	業務態度・仕事 の覚え・挨拶・ 身だしなみ						○	
		一般常識やマナーなど、いわゆる「しつけ」 の部分がしっかりとされている印象がありま す。	しつけ						○	
		周りの従業員と積極的にコミュニケーション をとれていると思います。	コミュニケー ション						○	
		一般常識・礼儀等が長けています。	常識・礼儀						○	
	幼保 3件	武庫川女子大学卒業生というのではなく、個 人の性格だと思います。挨拶をするというこ とは当たり前のことですが、それができない 人が多くなっていると思います。その中で自 分から大声でできることはいいことだと思い ます。また、すぐに「すみません」「有難う ございます」の言葉がでてくるのは、家庭で のしつけが行き届いていることだと思います。	挨拶・しつけ						○	
		他の学校の卒業生と比較して育ちが良いと感 じている。	育ち						○	
		責任感がある。コミュニケーション能力があ る。※1名しか採用しておりませんが。	責任感・コ ミュニケー ション能力						○	

領域	分類	業種	記入内容	キーワード	a	b	c	d	e	f
知性	g 理知的 学力 知識 (計4件)	企業 4件	他大学と比較して非常に理知的なイメージがあります。	理知的						○
			基礎的な学力水準が高く、信頼できる。	学力水準・信頼						○
			学力的に優れている方が多い。	学力的						○
			基本学力、知識を身につけている。	学力・知識						○



* 企は企業、幼は幼稚園と保育所を表す。数字は意見の数を示す。

図 本学短期大学卒業生の職場での長所 (2007年調査より)

資料6-2 企業調査・自由記述2：企業から見た武庫川女子大学短期大学部卒業生の短所
全体44件（企業25件、幼・保19件）

分類	業種	記入内容	キーワード
向上心・意欲に欠ける 自主性不足 おとなしい のんびりしすぎる (計9件)	企業 6件	今の自分に満足しているのか、向上心、意欲に欠けていると思われる。	向上心・意欲
		コミュニケーション能力が低い。無気力。自主性不足。最近（'06）の入社した者です。	コミュニケーション能力・無気力・自主性
		失敗やうまくいかない事例にぶつかると、そのままネガティブな思考に陥る事が少なくないように思われます。	ネガティブな思考
		若干向上心に欠ける。	向上心
	ややおっとりとした感じの方が多く見受けられます。（入社後の取組み姿勢は徐々に向上してきてますので、特に大きな問題ではありませんが）もう少し専門分野への関心、こだわりを持ってもらえると良いと思います。	おっとり・関心・こだわり	
	落ち着いているので、一見若さが感じられない印象があります。（決してそうではありませんが）	若さ	
	幼保 3件	のんびりしすぎて、仕事が遅くなる時がある。	のんびり
おとなしすぎて、保育園向きでない。子供をまとめる事ができず、クラス担任を持つ事ができない。		おとなしい	
まだ1名なので大学の特長かどうかは分かりませんが、又他大学生も同じですが、仕事に対する意欲に大きく欠けています。		意欲	
専門的技術不足 実践力不足 仕事の効率悪い 仕事の覚えが遅い (計4件)	幼保 4件	専門的技術のより一層の習得。	専門的技術
		新任の時に短大で学んだ事がすぐに実践として表れて来ない傾向があるので、実習等子どもと触れ合う機会を増やして実践力をつけて頂きたい。	実践力
		すごくスローペースで一つのことにかかりすぎて仕事の効率が悪い。性格的には協調性がある方だと思いますが、仕事面では理解できないことが多く、何度も同じ失敗を繰り返し、その都度確認したり、周りの仕事量や負担が大きくなっている。責任感が薄く、誤字、脱字が多く、書類や事務的な仕事ができない。掃除や片付けができない。ピアノが苦手。	スローペース・失敗・誤字脱字・責任感・事務的な仕事・掃除・片付け・ピアノ
		覚え込むまで、時間がかかり過ぎる。	時間
生活能力に欠ける (計1件)	幼保 1件	もう少し生活能力を身につけること。（これは大学で教えるべきものではなく、家庭でのしつけである）＝炊事、洗濯、家事、清掃、整理整頓がきっちりできること。	生活能力
リーダーシップ 不足 (計4件)	企業 3件	リーダーシップが少し不足かな？と思います	リーダーシップ
		リーダーシップの面で、他の短期大学卒業生と比較して、劣っていると思います。	リーダーシップ
		比較的物静かな方が多くリーダーシップ能力にかける。	リーダーシップ
	幼保 1件	リーダーシップをより一層発揮して頂けると、尚、教育者としての向上につながります。	リーダーシップ

分類	業種	記入内容	キーワード
常識を理解していない マナーが良くない (計6件)	企業 5件	社会人としての言葉遣いが出来ない場合がある。一般常識を理解していないと感じられる場合がある。	言葉遣い・常識
		専門的な知識、一般的な常識にやや欠く	知識・常識
		目立って周囲にかわいがられる反面、「親しき仲にも礼儀あり」というぐらいにマナーに注意できればなお良い。	マナー
		少しハデな者がいる。	ハデ
		卒業後、社会人としての経験が浅いため仕方のない事とは思いますが、社会人としての人との接し方、言葉の使い方については今後身につけていってもらいたいと思います。	人との接し方・言葉の使い方
	幼保 1件	今時の学生さんなので、どこでもそうですが、採用試験に来られる方の中には歩き方や身のこなしが少しだらしない方もおられました。(ペタペタ歩きなど)	歩き方・身のこなし
コミュニケーション不足 (計2件)	幼保 2件	もう少しコミュニケーション力を上げられると、保護者との信頼関係も深まることでしょう。	コミュニケーション
		御学に限りませんが、明るく自然なコミュニケーションがとれる方の割合が、四大生対比少ないように感じます。	コミュニケーション
柔軟性不足 忍耐力不足 協調性不足 (計9件)	企業 4件	思考の柔軟性がほしいです(個人差があると思います)	柔軟性
		忍耐力のなさ。	忍耐力
		打たれ弱い。	打たれ弱い
		忍耐力、協調性にやや欠ける。	忍耐力・協調性
	幼保 5件	柔軟性に少々かける。こうでないと思うと変更がききにくい。自分の思っていることと違う時、ゆずれない感じをうける。	柔軟性
		少し固い印象があります。	固い
		忍耐力をもって、努力することを嫌う。目先の利益にとらわれ、長期的な目標を持つとしない。	忍耐力・努力・長期的な目標
		もう少し周りの様子を把握し、全体的に関われる様になって欲しい。	周りの様子の把握・全体に関われる
	協調性が少し足りないように思う。	協調性	

資料6-3 企業調査・自由記述3：企業から見た武庫川女子大学短期大学部卒業生の特長
 全体88件（企54件、幼・保34件）

領域	分類	業種	記入内容	キーワード	a	b	c	d	e	f
性格	a 元気 明るい 明朗・活発 (計19件)	企業 17件	十数年来貴学の卒業生を採用して来ました。現在本社（大阪市）に在籍の女子社員は全て武庫川学園卒です。非常に明るく、活発な方で大変満足しています。今後も貴学園を採用したいと考えております。	明るい・活発	○					
			貴大学卒業生の特長と言えるかどうか疑問ですが、概して明るく素直であると感じています。弊社関西支店の女性社員は今後とも貴校卒業生を中心にと考えております。	明るい・素直	○	○				
			他の短大生との比較はできませんが、本年4月に貴校の〇〇〇さんに入社していただきました。性格的にも明るく、非常にしっかりしておられます。同期入社は全て4年制大学の方ですが、気おくれすることもなく、前向きに業務に取り組んでいただいています。	明るい・しっかり・前向き	○		○	○		
			元気で物怖じしない明るい意欲が感じられる。周囲よりかわいがられる。	明るい・意欲	○			○		
			明るく元気な方が多いと思います。	明るい・元気	○					
			明るく元気で素直である。	明るい・元気・素直	○	○				
			明るく積極的な人物	明るい・積極的	○			○		
			本年07年04月は貴校様初めての採用。(短大)一般職として2名、明るく大変素直、好感が持てる。初めての採用でもあり、現時点では判断できない。今後共よろしくお願い致します。	明るい・素直・好感	○	○				
			明るく素直で協調性がある。	明るい・素直・協調性	○	○			○	
			明るい雰囲気を持つ、協調性、マナーが身につけており、誰とでも人当たり良く接する事が出来る点。	明るい・協調性・マナー	○				○	○
			明朗活発	明朗活発	○					
			明るく元気に就業していただいています。	明るい・元気	○					
			明るく協調性のある方が多いので、職場に馴染みや評価が高いです。入社後教育 etc では指示を含め、素直に受け止め、頑張ろうとする姿勢は周りにも好影響を与えます。環境への順応性は高いと思います。	明るい・協調性・素直・順応性	○	○			○	
			2007年度採用の3名は、それぞれ性格は異なりますが、顧客と接する時の明るい雰囲気が、3名とも優れていると思います。	明るい	○					
基本的に明るい。	明るい	○								

領域	分類	業種	記入内容	キーワード	a	b	c	d	e	f	
性格			真面目で明るく元気良く、勤務してもらっています。他の社員とのコミュニケーションも取れる方とも思います。業務に対する意欲も十分あるかと思えます。反面、おとなしいと見られがちで、他の社員と競うようなケースで損をする場面があるかもしれません。	明るい・元気・コミュニケーション・意欲	○			○		○	
			明るく元気で協調性がある学生が多いです。	明るい・元気・協調性	○				○		
		幼保2件	明るく協調性がある方が多い様に思います。仕事にも積極的に取り組まれていると思います。	明るい・協調性・積極的	○			○	○		
		この4月から1名保育士として勤務していただいております。社会人としても、1年生で大変なことも多いようですが、笑顔を絶やさず元気に子供たちと関わっております。感謝しております。	元気	○							
	b 素直 真面目 落ち着いた (計15件)	企業6件	礼儀正しく、素直な点	礼儀正しい・素直		○					○
			何事にも真面目に取り組む姿勢があり、上司の評判が大変良い。	真面目		○					
			わりと真面目な学生が多く、仕事も任せられる。	真面目		○					
		日常業務への取り組み姿勢は一生懸命であり、評価できます。また、性格的にも素直であり、職場の規律を守り、組織の中で順応して仕事に取り組んでもらっております。当社では、総合職をフォローする事務職という位置付ですが事務職という枠にとらわれず、更に向上心と積極性をもって取り組んでいただければよりよくなると感じます。育成の仕方いかんでは、更に伸びる可能性を秘めた人材だと思っております。	一生懸命・素直		○						
		地道にコツコツと仕事をこなしていく方が多い。	コツコツ		○						
		素直であり、職員職場環境への適応が早い。	素直・適応		○				○		
幼保9件	2年間でもしっかり教育して下さっているの で、実技や専門も身につけている。保育に対 するまじめな姿勢も見られる。	真面目		○							
	実習にこられた時に感ずるのは、しっかりし ているという印象です。礼儀を始め、提出物 など正確に伝達したことをうけとめ、真面目 な印象を持つ方が多いです。	しっかり・礼 儀・真面目		○	○				○		
	保育に対して真面目ですが、決して協調性に 欠けるという事はなく、気付きの多い方です。	真面目		○							
	現在、当園に勤務しております貴校の卒業生 (8年目、3年目、5年目(大卒)、1年目) はとても真面目で頼りになる存在です。	真面目		○							
		特に武庫川女子卒業生にあてはまる特長とい うのではなく個人的なものです。まじめで 向上心がある人が多いです。	真面目・向上 心		○		○				

領域	分類	業種	記入内容	キーワード	a	b	c	d	e	f
性格			本園は真面目で礼節のある方を望んでおり、採用の際も重点をおいています。ただ試験の際は、いろいろなタイプの方が来られますが、全体的に保育士希望の方は、真面目だと感じられます。	真面目		○				
			とても良い雰囲気をお持ちで、向上心に基づき、素晴らしい感性を活かされており、申し伝えました事に対してなどは、特に他の短期大学卒業の職員と比較致しますと、理解されるのが早い。	良い雰囲気・向上心・理解		○		○		
			毎年ご縁がある訳ではありませんが、採用に至った方はマナー良く、言葉遣い、身だしなみなども感じが良く、長く勤務して下さるので、武庫川女子短のイメージもとても良いです。	マナー・言葉遣い・身だしなみ・長く勤務		○				
			勤務態度が真面目で、且つ前向き姿勢で指導を受けた事を受け止めている。また、取り組みも積極的であり、努力している。	真面目・前向き・積極的・努力		○	○	○		
	C しっかり 忍耐力 頑張り屋 (計9件)	企業 3件	考え方がしっかりしており、能力がある。	しっかり・能力			○			
			軽々しい雰囲気の方は少なく、知的でしっかりとした方が多い印象です。	知的・しっかり			○			
			スポーツ学部があり、体育系のガッツのある学生が採用できる	ガッツ			○			
		幼保 6件	個人の評価になってしまい失礼があるかもしれませんが、忍耐力もあり、子供たちを温かく見守って職務にがんばられています。	忍耐力			○			
			中、高よりクラブ活動を続け、人間関係において縦のつながりをしっかり意識し、又、忍耐力も持っている。何かを通して全力で打ち込む意欲に優れている。	忍耐力・意欲			○	○		
			ひかえめであるが芯は強い。	ひかえめ・芯が強い			○			
			努力家であると思います。	努力家			○			
			自分で就職活動をしているだけに、とても根性がある。1人だけしか卒業生がいないが、落ち着いて行動して、好感がもてます。	根性・落ち着き		○	○			
地味にコツコツする。ピアノ上手。	コツコツ			○						
社会性	d 意欲的 向上心 前向き (計8件)	企業 3件	基本的なマナー、言葉遣いに優れていらっしゃる、弊社に勤務中の者も、大変意欲向上心をもって仕事に取り組んでおりますので好印象をもっております。	マナー・言葉遣い・向上心				○	○	
			他の短期大学卒業生との違いというより、個人により個性を感じる。2007年は2名の方に入社頂いたが、それぞれの持ち味で積極的に仕事に取り組んで頂いている。	積極的				○		
			自己主張、表現力が豊かで、何事にも前向きで忍耐力のある学生が多い。また、コミュニケーション力に優れている。	前向き・忍耐力・コミュニケーション力				○		○

領域	分類	業種	記入内容	キーワード	a	b	c	d	e	f	
社会性		幼保 5件	能力があり、意欲的である。	能力・意欲的				○			
			武庫川を卒業した職員2名います。2名の職員とともに前向きに取り組んでいます。	前向き				○			
			久しぶりに貴大学の学生さんを採用しましたが、とてもはきはきと気持ちのよいあいさつをし、熱心に向上心をもって保育をしています。今後の活躍を期待しているひとりです。	熱心・向上心					○		
			性格が優しく、控え目で、人とのコミュニケーションをも大切に、物事を前向きに取り組んでいっております。	コミュニケーション・前向き				○	○		○
			弊社の講師が貴大学短期大学部卒業です。専門分野の知識も深く、向上心に長けています。貴大学の教育方針が鏡となり卒業生に反映されます事を切に願ひ、今後積極的に採用したいと思ひます。	知識・向上心						○	
e 順応力 (計1件)		企業 1件	少しおとなしいが、実作業になると順応力が高いと思ひます。	順応力					○		
f しつけ マナー コミュニケーション 能力 (計8件)	企業 6件	全体的な特長は、上品さと礼儀正しさが同居している様な感じがします。	上品・礼儀正しさ							○	
		態度、言葉遣い等に「しっかり教育されている」という印象をうける。	しっかり							○	
		礼儀、マナーがしっかりしており、面談でもしっかりとした受け答えのできる学生が多い。	礼儀・マナー・しっかり								○
		規律やマナーについては他大学より厳しく教育されている。その他については、個人差があるので、一般論としては言いにくい面があります。	規律・マナー								○
		スポーツウーマンとして規律正しさを感じます。	規律正しい								○
		採用試験の面接時におきまして、他の短期大学生と比較すると、コミュニケーション能力他全般に優秀であると感じます。(表現はしづらいですが、これが大学のカラーでしょうか。)	コミュニケーション能力・優秀								
	幼保 2件	※大勢の卒業生をみているわけではないので、個人的な見方かもしれません。礼儀正しく、誠実 清楚である。	礼儀正しい・誠実 清楚								○ ○
知性	g 学力 (計3件)	企業 2件	基礎的学力を備えている。	基礎的学力						○	
			大変優秀な学生が多く、大変感謝しております。	優秀							○
		幼保 1件	現在、貴大学出身者4名を採用しております。他大学採用者と比較致しますと、全ての面におきまして一番水準が高いと感じております。今後も採用等お世話になるかとは思ひますが、その折にはよろしくお願ひ申し上げます。	水準が高い							○